



Systemwalker Software Configuration Manager V14g



ソフトウェアパラメーター設定機能 (ServerView Resource Orchestrator連携編)

Windows/Linux

B1X1-0123-01Z0(00) 2011年11月

まえがき

本書の目的

本書は、ソフトウェアパラメーター設定機能について以下の内容を説明しています。

- 機能概要
- ・ 導入に必要な操作および設定
- ・ 運用に必要な機能および使い方
- 機能の操作方法
- 各種コマンドおよびファイル
- ・機能が出力する各種メッセージ

本書の読者

本書は、ソフトウェアパラメーター設定機能を使用する方を対象としています。 本書を読むにあたっては、以下の知識が必要です。

- ・使用するOSに関する基本的な知識
- ServerView Resource Orchestratorに関する知識

本書の構成

```
本書の構成は、以下のとおりです。
```

第1部 概要

第1章 機能概要

ソフトウェアパラメーター設定機能の概要について説明します。

第2部 導入

第2章 セットアップ

ServerView Resource Orchestratorをセットアップする作業について説明します。

第3章 エージェントのインストール

Systemwalker Software Configuration Managerのエージェントをインストールする手順について説明します。

第4章 エージェントのアンインストール

Systemwalker Software Configuration Managerのエージェントをアンインストールする手順について説明します。

第3部 運用

第5章 運用の手順

L-Platformテンプレートの作成手順と、L-Platformの利用申請について説明します。

```
第6章 機能詳細
```

ソフトウェアパラメーター設定機能の詳細について説明します。

第4部 操作

第7章 テンプレート

L-Platformテンプレートの作成および管理方法について説明します。

第8章 L-Platform

ソフトウェアパラメーター設定機能に関連するL-Platform管理画面の操作方法について説明します。

第5部 リファレンス

第9章 保守

ソフトウェアパラメーター設定機能を利用する際に出力されるログなどの保守に関して説明します。

第10章 L-Platformテンプレート管理コマンド

L-Platformテンプレート管理関連のコマンドについて説明します。

第11章 XMLファイル

XMLファイル関連について説明します。

第12章 ミドルウェアパラメーター設定情報

ミドルウェアに設定できるパラメーターについて、詳細な説明を示していきます。

第13章 トラブル対処の流れ

トラブル発生時の対処の流れについて説明します。

第14章 配備に関するトラブルシューティング

配備に関するトラブルシューティングについて説明します。

第15章 ソフトウェア情報およびソフトウェアID

登録されているソフトウェア情報およびソフトウェアIDについて説明します。

第16章 ソフトウェア設定ID

登録されているソフトウェア設定IDについて説明します。

第6部 メッセージ

第17章 メッセージの概要

ソフトウェアパラメーター設定機能が出力するメッセージの概要について説明します。

第18章 イベントログ

イベントログに出力されるメッセージついて説明します。

第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ

L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージについて説明します。

第20章 ログが出力するメッセージ

ログが出力するメッセージについて説明します。

付録Aオペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)

オペレーティングシステムやミドルウェアをインストールする手順や、その後の操作について説明を示していきます。

付録Bオペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(配備後編)

「L-Server」にインストールするオペレーティングシステム・ミドルウェアについて、本製品で利用するために仮想システム配備後に 必要な操作・設定について説明します。

本書の表記

本書では、使用している名称、略称、および記号については、『マニュアル体系と読み方』の「マニュアルの表記について」を参照してください。

オペレーティングシステム表記

本書では、オペレーティングシステムを以下のように略記しています。

正式名称	略称	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V	Windows Server 2008	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2	Windows
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2	
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) (for x86)	RHEL (x86)	DHEI
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) (for Intel64)	RHEL (Intel64)	KIIEL

輸出管理規制について

本書を輸出または提供する場合は、外国為替、外国貿易法、および米国輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

商標

- ・ Interstage、ServerView、およびSystemwalkerは、富士通株式会社の登録商標です。
- ・ Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft, Internet Explorer、Hyper-V、Windows、およびWindows Serverは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の 国における登録商標です。
- Red Hat、RPM、およびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- VMware、VMwareロゴ、Virtual SMP、およびVMotionは、VMware,Incの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

なお、本書では、システム名または製品名に付記される登録表示((TM)または(R))は、省略しています。

発行年月および版数

版数	マニュアルコード
2011年11月 初版	B1X1-0123-01Z0(00)

お願い

本書を無断で他に転載しないようお願いします。 本書は予告なしに変更されることがあります。

著作権表示

Copyright 2011 FUJITSU LIMITED

目次

第1部 概要	1
第1章 機能概要	2
1.1 ソフトウェアパラメーター設定機能とは	2
1.2 機能概要	2
1.3 ソフトウェア環境	4
1.3.1 動作OS	4
1.3.2 必須ソフトウェア	5
1.4 ハードウェア環境	6
1.5 システム構成	6
第2部 導入	8
第2章 セットアップ	9
2.1 セットアップの作業	9
2.1.1 マネージャーの設定変更	9
2.1.2 ミドルウェア情報の登録	10
2.1.3 ポート番号の確認	10
第3章 エージェントのインストール	11
3.1 インストール前の作業	11
3.1.1 ポート番号の確認	11
3.1.2 システムパラメーターのチューニング【Linux】	11
3.2 インストール	13
第4章 エージェントのアンインストール	19
4.1 アンインストール	19
4.2 アンインストール後の作業	21
4.2.1 アンインストール後に残るファイルについて	
4.2.2 「アンインストールと管理(ミドルウェア)」のアンインストール	
第3部 運用	24
第5章 運用の手順	25
5.1 L-Platformテンプレートの作成	
5.1.1 L-Serverテンプレートの作成	
5.1.2 クローニングイメージの採取	25
5.1.3 L-Platformテンプレートの作成	
5.2 L-Platformの利用申請	27
5.2.1 L-Platformの利用申請	
5.2.2 ミドルウェアの設定	27
5.2.3 エラー発生時の対処	
第6章 機能詳細	
6.1 パラメーターの定義	
6.1.1 ソフトウェア設定情報	
6.1.2 ソフトウェア設定情報の関連付け	30
6.1.3 ソフトウェア設定スクリプト	30
6.1.4 パッケージファイル	
6.1.5 値に指定できる変数	
6.2 パラメーター値の設定	
6.2.1 パラメーター情報	
6.2.2 テンプレート情報で使用するパラメーターの設定	
6.3 管理LANの設定	
第4部 操作	

第7章 テンプレート	
7.1 L-Platformテンプレートの構成	
7.2 L-Platformテンプレートウィンドウ	
7.3 ソフトウェア設定情報とパラメーター情報の操作	
7.3.1 ソフトウェア設定情報の追加	
7.3.2 ソフトウェア設定情報の編集	
7.3.3 ソフトウェア設定情報の削除	
7.3.4 パッケージファイルのアップロード	
7.3.5 パッケージファイルのダウンロード	
7.3.6 パラメーター情報の追加	
7.3.7 パラメーター情報の編集	
7.3.8 パラメーター情報の削除	
7.3.9 ソフトウェア情報の関連付け	
7.4 テンプレート情報の操作	
7.4.1 テンプレート情報で使用するパラメーターの設定	48
第8章 L-Platform	50
81 L-Platform管理画面	
8.2.ソフトウェアの構成変更	50 50
第5部 リファレンス	
第9章 保守	53
9.1 ログ出力	53
9.1.1 管理サーバ上のログ	
9.1.2 L-Server上のログ	
第10章 L-Platformテンプレート管理コマンド	
10.1 概要	
10.1.1 L-Platform テンプレート管理コマンドの復帰値とエラーメッセージ	
10.1.2 L-Platform テンプレート管理コマンドの説明形式	
10.2 ソフトウェア設定情報操作	
10.2.1 cfmg_listsoftsetup(ソフトウェア設定情報の一覧表示)	
10.2.2 cfmg_addsoftsetup(ソフトウェア設定情報の登録)	
10.2.3 cfmg_updatesoftsetup(ソフトウェア設定情報の変更)	61
10.2.4 cfmg_deletesoftsetup(ソフトウェア設定情報の削除)	61
10.3 ソフトウェア設定情報関連付け操作	
10.3.1 cfmg_listsoftsetuplink(ソフトウェア設定情報の関連付けの一覧表示)	
10.3.2 cfmg_attachsoftsetup(ソフトウェア設定情報の関連付けの設定)	
10.3.3 cfmg_detachsoftsetup(ソフトウェア設定情報の関連付けの解除)	
10.4 パラメーター情報操作	
10.4.1 cfmg_listparam(パラメーター情報の一覧表示)	
10.4.2 cfmg_addparam(パラメーター情報の登録)	
10.4.3 cfmg_updateparam(パラメーター情報の変更)	
10.4.4 cfmg_deleteparam(パラメーター情報の削除)	
10.5 パッケージファイル操作	
10.5.1 cfmg_uploadpackage(パッケージファイルのアップロード)	
10.5.2 cfmg_downloadpackage(パッケージファイルのダウンロード)	70
第11章 XMLファイル	
111/ソフトウェア設定情報	71
11.11概要	71
11.1.2.ファイルの詳細説明	
112パラメーター情報	73
11.2.1 概要	73
22~11.2.2.ファイルの詳細説明	73
11.3 テンプレート情報の補足事項	74
11.3.1 概要	

11.3.2 ファイルの詳細説明	75
第12章 ミドルウェアパラメーター設定情報	
12.1 ETERNUS SF AdvancedCopy Manager	
12.1.1 パラメーター情報	
12.1.2 出力メッセージ	
12.2 ETERNUS SF Storage Cruiser Manager	
12.2.1 パラメーター情報	
12.2.2 出力メッセージ	
12.3 Interstage Application Server/Web Server	
12.3.1 パラメーター情報	
12.3.2 出力メッセージ	
12.4 Interstage Charset Manager Standard Edition Agent	
12.4.1 パラメーター情報	
12.4.2 出力メッセージ	
12.5 Interstage List Creator	
12.5.1 パラメーター情報	
12.5.2 出力メッセージ	
12.6 NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ	
12.6.1 パラメーター 情報	
12.6.2 出力メッセージ	
12.7 Symantec Endpoint Protection	
12.7.1 パラメーター情報	
12.7.2 出力メッセージ	
12.8 Symfoware Server	
12.8.1 パラメーター情報	
12.8.2 出力メッセージ	
12.9 Systemwalker Centric Manager (業務サーバ/部門管理サーバ)	
12.9.1 パラメーター情報	
12.9.2 出力メッセージ	
12.10 Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 エージェント	
12.10.1 パラメーター情報	
12.10.2 出力メッセージ	
12.11 Systemwalker Operation Manager	
12.11.1 パラメーター情報	
12.11.2 出力メッセージ	
12.12 Systemwalker Runbook Automation (連携サーバ/中継サーバ/業務サーバ)	
12.12.1 パラメーター情報	
12.12.2 出力メッセージ	
12.13 Systemwalker Service Quality Coordinator	
12.13.1 パラメーター情報	
12.13.2 出力メッセージ	
12.14 UpdateAdvisor(ミドルウェア)	
12.14.1 パラメーター情報	
12.14.2 出力メッセージ	
第13章 トラブル対処の流れ	135
13.1 調査資料の採取について	
第44音 配供に明まるとニブルシュー ニッパ	107
カロ子 LLIMIに因りの「ノノルノユーノコノソ	
14.1 昭加(に成功したかL-ServerのIP)トレスで接続できない	
14.1.1 对死日	
14.1.2 ŊW2の配供後、L Distary等理両声のメベンキャガス「VSVS20002 テラーボローキャス	
14.2 L-Flationmの配価で、L-Flationm官理画面のパンントログに「VSYS30002」エアーが正力される	138
14.2.1 对死生	
14.2.2 NJ XL2	139
第15章 ソフトウェア情報およびソフトウェアID	141

第16章 ソフトウェア設定ID	146
第6部 メッセージ	147
第17章 メッセージの概要	148
第18章 イベントログ	
18.1 メッセージ	
18.1.1 出力形式	
18.1.2 メッセージー覧	
第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ	
1911-Platformテンプレート管理コマンドの出力形式	150
19.2 TPLC00001~	
第20章 ログが出力するメッヤージ	153
201 ログの出力形式	153
20.1 デアジロバルページー	154
20.2 旨	
20.2.1 VS1540000	
20.2.2 VS1540100 ~	
20.2.3 VSYS40200∼	
20.2.4 VSYS40300∼	
20.2.5 VSYS40400~	
20.3 L-Server上のログ	
20.3.1 VSYS40700~	
第21章 ソフトウェアパラメーター設定コマンドが出力するメッセージ	
21.1 ソフトウェアパラメーター設定コマンドの出力形式	
21.2 SPAC00001~	
付録A オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)	
A.1オペレーティングシステム	
A 2 ETERNUS SE AdvancedCopy Manager	178
A 2 1 インストール	179
A 3 FTFRNUS SE Storage Cruiser Manager	179
A 3 1 インストール	179
A.J. Interstage Application Server/Web Server	
A 4 1 A 2 A b	
A.4.1 $\sqrt{2}$	
A.4.2 インハトール 友の 傑作	
A.4.3 コマンド田刀メッセーン	
A.5 Interstage Charset Manager Standard Edition Agent	
A.6 Interstage List Creator	
A.6.1 インストール	
A.6.2 インストール後の操作	
A.7 NetCOBOL 開発・運用パッケージ	
A.8 Symantec Endpoint Protection	
A.9 Symfoware Server(サーバ機能)	
A.9.1 インストール	
A.9.2 RDBシステム名のカスタマイズ【Linux】	
A.9.3 規模に応じたパラメーター情報ファイルのカスタマイズ【Linux】	
A.9.4 規模以外のパラメーター情報ファイルのカスタマイズ【Linux】	
A.9.5 インストール後の操作	
A.10 Symfoware Server(クライアント機能)	
A.10.1 インストール	
A 11 Systemwalker Centric Manager (業務サーバ・部門管理サーバ)	100
Δ 11 1 λ Z λ-η	100
A 11 9 インマトール※の撮作	
A.11.2 イマハビール仮切床 [F	
A.12 Systemwalker Cellure Mallager () ()	
A.12.1 $\neg \checkmark \land $	

A.12.2 インストール後の操作	
A.13 Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 $\pm - \vec{v} \pm \nu$	
A.13.1 インストール	
A.13.2 インストール後の操作	201
A.14 Systemwalker Operation Manager	204
A.14.1 インストール	
A.14.2 インストール後の操作	
A.15 Systemwalker Runbook Automation	
A.15.1 インストール	
A.15.2 インストール後の操作	
A.16 Systemwalker Service Quality Coordinator	
A.16.1 インストール	
A.16.2 インストール後の操作	
A.17 UpdateAdvisor	
録B オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(配備後編)	209
B.1 ETERNUS SF AdvancedCopy Manager	
B.1.1 通信デーモン(サービス)のポート番号を変更する場合	
B.1.2 スタートアップアカウントを変更する場合	
B.2 ETERNUS SF Storage Cruiser Manager	
B.2.1 管理者用ログインアカウントの作成	
B.3 Interstage Application Server/Web Server	
B.3.1 Java EEを使用する場合	
B.3.2 Interstage HTTP Serverを使用する場合	
B.4 Interstage Charset Manager Standard Edition Agent	
B.5 Interstage List Creator.	
B.6 NetCOBOL 開発・運用パッケージ	
B.7 Symantec Endpoint Protection	
B.8 Symfoware Server(サーバ機能)	
B.8.1 複数のRDBシステムを利用する場合【Linux】	
B.8.2 データベースのセットアップ	
B.8.3 配備時のエラーメッセージ【Linux】	
B.9 Symfoware Server(クライアント機能)	214
B.9.1 埋込みSQL連携を利用する場合	
B.9.2 Java連携を利用する場合	214
B.9.3 ODBC連携を利用する場合【Windows】	
B.9.4 Symfoware .NET Data Provider連携を利用する場合【Windows】	
B.10 Systemwalker Centric Manager (業務サーバ・部門管理サーバ)	
B.11 Systemwalker Centric Manager (運用管理サーバ)	
B.12 Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 エージェント	
B.12.1 クローニングイメージ採取前に、L-Server上で必要な業務の構築を行っている場合(運用A)	
B.12.2 配備後に、必要な業務の構築を行う場合(運用B)	
B.13 Systemwalker Operation Manager	
B.14 Systemwalker Runbook Automation	
B.15 Systemwalker Service Ouality Coordinator	
B.15.1 Agentの接続先ManagerのIPアドレス・ホスト名の変更	
B.16 UpdateAdvisor	

第1部 概要

ここでは、本製品の概要について説明します。

第1章 機能概要

本章では、ソフトウェアパラメーター設定機能の概要について説明します。

1.1 ソフトウェアパラメーター設定機能とは

ソフトウェアパラメーター設定機能は、L-Platformを配備する場合に、搭載しているソフトウェアのパラメーターを設定する機能です。ソフトウェアへのパラメーター設定を自動化することにより、インフラ管理者やテナント管理者は作業負担を軽減することができます。さらに、クローニングイメージに対して、複数のソフトウェアのパラメーター情報を定義できるため、クローニングイメージ数を削減でき、管理コストを削減できます。また、L-Serverの利用用途ごとに定義されたソフトウェアのパラメーター情報を、L-Platformの配備時に自動設定されるため、テナント利用者は即座にL-Serverが利用できます。

ソフトウェアパラメーター設定機能は、Systemwalker Software Configuration Manager V14gで提供していた機能と、同等の機能を ServerView Resource Orchestrator V3 Cloud Editionで提供します。この機能は標準のインストール方法では動作していないため、機 能を有効にするには設定変更が必要です。

1.2 機能概要

ソフトウェアパラメーター設定機能は、ServerView Resource Orchestratorの一部の機能として追加されます。また、クローニングイメージを作成する場合には、この機能固有の手順が必要になります。

この機能を有効にすると、ServerView Resource Orchestratorに追加される動作や手順について、以下に説明します。

L-Platform管理

L-Platformを配備するときにソフトウェアのパラメーターを設定するため、L-Platform管理の一部として、RORコンソールに機能が追加されます。

・ 設定するパラメーターの値を選択

[L-Platform]タブでL-Platform利用申請をした場合に、[構成変更]ページでパラメーターの値を選択することができます。パラメーターの値やパラメーターの選択肢は、L-Platformテンプレートで定義できます。

利用申請						_ & ×
L-Platform新規作成 1.テンプレ	ノート検索 2.基本情報	3.構成変更	4.構成確認	5.利用許諾	完了	
Step 3. L-Platformの構成やスペックを3	変更します。オブションをドラッグ&	ドロッブで追加する	らこともできます	0		
MwPara_TP001_	テンプレ	一卜名:MwPara_	TP001_		追加オブション	
MNGMNT adminiar2 Image: Second Sec	スペッ? ation Server Enterprise Edition	ク NIC	その他	192.0.2.0/24 ドリ除 ソフトウェア詳細 NIC治り版 NIC治り除	サーバ OS (がし) 用途 (かし)	セグメント その他 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
			•			τ
					1.000	

・配備時にパラメーターを設定

[L-Platform]タブでL-Platform利用申請をすると、配備したL-Serverのソフトウェアにパラメーターを設定します。このとき、管理サーバから配備したL-Serverに通信して、ソフトウェアにパラメーターを設定します。

L-Platformテンプレート管理

ソフトウェアのパラメーターやパラメーターに設定する値は、L-Platformテンプレートの一部として定義します。このため、L-Platformテンプレート管理の一部として、RORコンソールやコマンドに機能が追加されます。

L-Platformテンプレート						_ 🗆 ×
テンプレート セ	2グメント イメージ ソフト	ウェア	パラメータ	<u>۶</u>		
, (すべて)	▼ 方式 (す ⁄	ና ()	•		e) ソフトウェア設定追加
テナント	名称			ID	パ •	パラメーター追加
(グローバル)	CMD Interstage Application Serv	er		RS00000001	setupscript_isa	
(グローバル)	Shell Interstage Application Serv	er		RS0000002	setupscript_isa 🗏	
(グローバル)	CMD Interstage List Creator Set	ир		RS00000100	setupscript_lc_	
(グローバル)	Shell Interstage List Creator Set	up		RS00000101	setupscript_lc_:	
(グローバル)	CMD Interstage Charset Manage	r Setup		RS00000600	setupscript_isc	
(グローバル)	Shell Interstage Charset Manage	r Setup		RS00000601	setupscript_isc	
(グローバル)	CMD Systemwalker Centric Man	ager (Age	nt) Setup	RS00010000	setupscript_sw	
(グローバル)	Shell Systemwalker Centric Man	ager (Age	nt) Setup	RS00010001	setupscript_sw	
(グローバル)	CMD Systemwalker Operation M	anager Se	tup	RS00010100	setupscript_sw 🗸	
•	1111]		•]
CMD Interstage A	Application Server		スペ	ック	その他	編集
キー名	ラベル	型		設定値	-	アップロード
hostname	ホスト名	string	#[server.os.co	omputername}	=	ダウンロード
ipaddress	IPアドレス	string	#[servernic.ip	oaddress}		
J2ee Ijserver Definition	IJServer定義ファイル	string				関連付け
Maa Suatam Dafinition	INEESフランマデル学業コップル面報	otring			• •	削除

ソフトウェアパラメーター設定機能に関連するL-Platformテンプレートを、以下に説明します。

・ソフトウェア設定情報

ソフトウェアに設定できるパラメーターの一覧やパラメーターを設定する方法が定義できます。ただし、ソフトウェア設定情報はパラ メーターを定義するだけのものです。このため、対応するソフトウェア情報と関連づける必要があります。一部のミドルウェアは、ソ フトウェア設定情報とソフトウェア情報との関連づけをしたものが登録されています。

・パラメーター情報

ソフトウェア設定情報で定義したパラメーターに対して、設定する値を定義できます。画面上でパラメーターの値を指定するには、 コンボボックスの中から選択します。パラメーター情報は、この1つの選択肢を定義するものです。

・テンプレート情報

テンプレート情報は、ネットワーク、L-Server、ディスクなどのL-Platformの構成を定義するものです。この中で、ソフトウェアのパラ メーターに設定する値の選択肢も定義できます。パラメーターに設定する値は、パラメーター情報で指定します。画面上でパラメー ターの値はコンボボックスで選択します。この選択肢を定義することができます。

L-Platformテンプレートを構成する各種情報の相互関係を以下に示します。

図1.1 L-Platformテンプレートを構成する各種情報の相互関係図



クローニングイメージの作成

クローニングイメージを作成する場合には、この機能固有の以下の手順が必要になります。

1. L-Serverにエージェントのインストール

ソフトウェアにパラメーターを設定するには、管理サーバから配備したL-Serverに通信する必要があります。このためには、L-ServerにSystemwalker Software Configuration Managerのエージェントをインストールする必要があります。

2. ソフトウェア情報が登録されているミドルウェア

ソフトウェア情報が登録されているミドルウェアは、インストールの手順に従ってインストールしてください。この手順でミドルウェア をインストールすると、配備後にミドルウェアが正常に動作します。OSのIPアドレスやホスト名が変更されると影響を受けるミドル ウェアは、配備後に新しいIPアドレスやホスト名をソフトウェアパラメーター設定機能で設定します。

1.3 ソフトウェア環境

本製品を導入するために必要なソフトウェア資源について説明します。

1.3.1 動作OS

動作するOSを以下に示します。

管理サーバ

ServerView Resource Orchestrator V3 Cloud Editionが動作するOSと同じになります。

管理対象サーバ

- VMware
- Hyper-V



物理L-Serverはサポートしていません。	

L-ServerのOS (32bit版 エージェント)

- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2 (注1)
- Windows Server 2003 R2 (Service Pack 2)
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 (for x86)
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 (for x86)
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 (for Intel64) (注2)
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 (for Intel64) (注2)

L-ServerのOS (64bit版 エージェント)

- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2003 R2 (Service Pack 2)
- Red Hat Enterprise Linux 5.5 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 5.6 (for Intel64)

注1) WOW64 (Windows 32-bit On Windows 64-bit) サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

注2) 32ビット互換モードで動作します。

注意

管理対象サーバがHyper-Vでかつ、L-ServerのOSがRed Hat Enterprise Linuxの場合は、サポートしていません。

.

1.3.2 必須ソフトウェア

必須ソフトウェアを以下に示します。

管理サーバ

· ServerView Resource Orchestrator V3 Cloud Edition

L-Server

Systemwalker Software Configuration Manager V14g V14.1

1.4 ハードウェア環境

この機能を使用する場合は、ServerView Resource Orchestrator V3 Cloud Editionのハードウェア条件を満たす必要があります。

1.5 システム構成

ここでは、この機能のシステム構成について説明します。

システム構成は、ServerView Resource Orchestratorと同じものになります。ただし、管理LANで管理サーバとL-Serverを繋ぐ必要がある部分が異なります。

図1.2 ソフトウェアパラメーター設定機能を使用したシステム構成



管理サーバ

ServerView Resource Orchestratorが動作するサーバです。そして、ソフトウェアパラメーター設定機能も動作します。テンプレートの管理、L-Platformの配備、スナップショットの採取・リストアなどの管理を行うサーバです。

管理クライアント

ServerView Resource Orchestratorの管理サーバを操作するクライアントです。

管理対象サーバ

VMwareやHyper-Vなどのサーバ仮想化ソフトウェアを運用するサーバになります。管理サーバによって管理されます。

L-Platform

多階層システム(Web/AP/DB)など複数のL-Serverとストレージ、ネットワークから構成されるシステム全体をまとめて運用、管理するためのリソースです。 L-Platformは、管理対象サーバのサーバ仮想化ソフトウェア上に配備されます。

L-Server

サーバと、サーバに接続されたストレージおよびネットワークの論理的な仕様(CPU数、メモリ容量、ディスク容量、NIC数など)を定義したリソースです。

ソフトウェアパラメーター設定機能は、配備されたL-Serverに通信をして、ソフトウェアにパラメーターを設定します。通信は管理LANを 経由して行います。

管理LAN

管理対象サーバやL-Serverを管理サーバから管理するためのLANです。 管理対象サーバやL-Serverで業務を行うための業務LANとは別に設置します。 ソフトウェアパラメーター設定機能を使用する場合は、管理サーバとL-Serverを管理LANで繋ぐ必要があります。

第2部 導入

ここでは、ソフトウェアパラメーター設定機能の導入時に必要な操作および設定について説明しています。

第2章 セットアップ	9
第3章 エージェントのインストール	.11
第4章 エージェントのアンインストール	.19

第2章 セットアップ

本章では、ServerView Resource Orchestratorをセットアップする作業について説明しています。

2.1 セットアップの作業

ソフトウェアパラメーター設定機能を使用するためには、ServerView Resource Orchestratorのセットアップが必要です。このセットアップの作業を以下に示します。これらの作業は、スーパーユーザーで行ってください。

• マネージャーの設定変更

ソフトウェアパラメーター設定機能を有効にするには、マネージャーの設定変更が必要です。 マネージャーは、管理サーバ上で動作するServerView Resource Orchestrator のプログラムです。ServerView Resource Orchestrator に登録されたリソースを管理、制御します。

• ミドルウェア情報の登録

ミドルウェアのソフトウェア情報およびソフトウェア設定情報は、ServerView Resource Orchestrator に登録していません。このため、 これらの情報をコマンドで登録する必要があります。

• ポート番号の確認

ソフトウェアパラメーター設定機能は、管理サーバと配備したL-Serverの間で通信をします。このため、管理サーバのポート番号を 確認します。

2.1.1 マネージャーの設定変更

マネージャーの設定変更をして、ソフトウェアパラメーター設定機能を有効にします。

設定変更の手順を以下に示します。

1. 定義ファイルをエディタで開きます。定義ファイルは、以下の場所に格納されています。

[Windows]

<ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥config¥vsys_config.xml

[Linux]

/etc/opt/FJSVcfmg/config/vsys_config.xml

2. 以下のキーと値を追加してください。

キー名	内容
use-mwsetup	no:ソフトウェアパラメーター設定機能の無効
	yes:ソフトウェアパラメーター設定機能の有効

設定例を以下に示します。

- 3. ファイルを保存します。
- 4. マネージャーを再起動します。

マネージャーの再起動については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 導入ガイド』の「マネージャーの起動と停止」を参照してください。

2.1.2 ミドルウェア情報の登録

ミドルウェアのソフトウェア情報とソフトウェア設定情報を登録します。

登録されるソフトウェア情報とソフトウェア設定情報については、「第15章 ソフトウェア情報およびソフトウェアID」と「第16章 ソフトウェア 設定ID」を参照してください。ソフトウェアIDは、コマンドの実行時に決定されます。

ミドルウェア情報を登録する手順を以下に示します。

- 1. マネージャーが起動しているときに、コマンドを実行してください。
- 2. ミドルウェア情報を登録するコマンドを実行します。コマンドの格納場所は、以下になります。

[Windows]

<ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_registermwsetup.bat

[Linux]

$/ \texttt{opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_registermwsetup}$

3. メッセージの確認

コマンドが成功すると、以下のようなメッセージが表示されます。ソフトウェアIDは、「start」のIDで始まり、「end」のIDで終わるものが登録されたことになります。

INF0: SPAC00003: The registration processing is completed. [start=SW00000010, end=SW00000057]

エラーメッセージが出力された場合は、メッセージの説明を確認してください。メッセージの詳細は、「第21章 ソフトウェアパラメー ター設定コマンドが出力するメッセージ」を参照してください。

2.1.3 ポート番号の確認

管理サーバのポート番号がすでに使用されていないかを確認します。

以下のコマンドを実行し、ポート番号の使用状況を出力します。

netstat -an

以下の確認および設定が必要になります。

・ 受信を許可する設定が必要なポート

「外部のサーバからの受信を許可する必要のあるポート番号」に記載しているポートの設定が必要です。

外部のサーバからの受信を許可する必要のあるポート番号

機能	使用ポート番号/プロ トコル	変更
ファイル転送基盤	9664/tcp	可能

第3章 エージェントのインストール

本章では、Systemwalker Software Configuration Managerのエージェントをインストールする手順について説明します。

エージェントは、L-Server上で動作するSystemwalker Software Configuration Managerのプログラムです。管理サーバから配備したL-Serverに通信をして、ソフトウェアにパラメーターが設定できるようにします。

クローニングイメージを作成する場合は、インフラ管理者用L-ServerにSystemwalker Software Configuration Managerのエージェントを インストールしてください。ただし、実際にインストールするソフトウェアは、「Systemwalker Runbook Automation V14g 業務サーバ」に なります。

インストールの手順については、以下を説明します。

インストール作業は、スーパーユーザーで行ってください。

- インストール前の作業
- ・インストール

3.1 インストール前の作業

インストールする前に必要な作業について説明します。

3.1.1 ポート番号の確認

Systemwalker Software Configuration Managerのエージェントで使用するポート番号がすでに使用されていないかを確認します。

以下のコマンドを実行し、ポート番号の使用状況を出力します。

netstat -an

以下の確認および設定が必要になります。

・ 他製品に使用されていないか確認が必要なポート

全ポートの確認が必要です。

• 受信を許可する設定が必要なポート

「外部のサーバからの受信を許可する必要のあるポート番号」に記載している全ポートの設定が必要です。

外部のサーバからの受信を許可する必要のあるポート番号

	機能		使用ポート番号/プロ トコル	変更
ファイル	転送基盤		9664/tcp	可能

内部で使用するポート番号

機能	使用ポート番号/プロ トコル	変更
通信基盤	18005/tcp	不可
	18009/tcp	

3.1.2 システムパラメーターのチューニング【Linux】

システムパラメーターのチューニングを行う必要があります。

システムパラメーターのチューニング値

チューニングが必要なシステムパラメーターとその値については、以下のシステムパラメーターのチューニング値を参照してください。

・ セマフォ

セマフォの設定値は、各パラメーター値を以下の形式で指定します。

kernel.sem = para1 para2 para3 para4

パラメーター	説明	値	種別
para1	セマフォ識別子あたりの 最大セマフォ数	1	最大
para2	システム全体のセマフォ 数	2	加算
para3	セマフォコールあたりの 最大演算子数	1	最大
para4	システム全体のセマフォ 演算子数	2	加算

・ メッセージキュー

パラメーター	説明	值	種別
kernel.msgmnb	1つのメッセージキューに保持できるメッ セージの最大値	106496	最大
kernel.msgmni	メッセージキューのIDの最大値	512	加算

パラメーターの種別による設定

パラメーターの「種別」により、以下のように設定してください。

・ 種別が最大の場合

すでに設定されている値(初期値または以前の設定値)が表の値以上の場合は変更不要です。表の値より小さい場合は、表の値 に変更してください。

• 種別が加算の場合

すでに設定されている値(初期値または以前の設定値)に表の値を加算してください。加算する前にシステム上限値を確認し、加 算した値がシステム上限値を超える場合は、システム上限値を設定してください。

詳細については、『Linuxのマニュアル』などを参照してください。

チューニング作業手順

以下の手順でチューニング作業を実施します。

1. 以下のコマンドを使用して、現在システムに設定されている該当するパラメーターの設定値を確認します。

```
# /sbin/sysctl -a
```

```
例
# /sbin/sysct1 -a

(省略)
kernel.sem = 250 32000 32 128
kernel.msgmnb = 65536
kernel.msgmni = 16
```

```
(省略)
- - -
```

- 2. 「システムパラメーターのチューニング値」を参照し、現在の設定値と比較を行い、パラメーターごとに最大、加算の種別を考慮 して、適切な設定値を算出します。
- 3. /etc/sysctl.confを編集します。以下の例のように編集します。

```
例
kernel.sem = 250 32002 32 130
kernel.msgmnb = 106496
kernel.msgmni = 528
```

4. /etc/sysctl/confへ編集内容が反映されていることを、以下のコマンドで確認します。

/bin/cat /etc/sysctl.conf

5. 4.の設定を有効にするために、次のどちらかの方法を実行します。

```
- システムをリブートして設定を反映
```

/sbin/shutdown -r now

- /sbin/sysctl -p を使用して設定を反映

/sbin/sysctl -p /etc/sysctl.conf (注)

注)このコマンドを使用した場合は、リブートの必要がありません。

6. 設定したシステムパラメーターが反映されていることを、以下のコマンドの出力で確認します。

```
# /sbin/sysctl -a
```

🔰 例

```
# /sbin/sysctl -a
(省略)
kernel.sem = 250 32002 32 130
...
kernel.msgmnb = 106496
kernel.msgmni = 528
...
(省略)
...
```

3.2 インストール

L-ServerサーバへSystemwalker Software Configuration Managerのエージェントのインストールを行います。

必要に応じてWindowsおよびLinuxマシンそれぞれへのインストールを行います。



[Windows]

- 1. Administrator権限でログインします。
- 2. DVD-ROMをDVD-ROM装置にセットします。

"Systemwalker Software Configuration Manager V14gメディアパック(14.1.0)"のDVD-ROMをDVD-ROM装置にセットします。 以下の画面が表示されます。

「業務サーバへのインストール(32bit版)」または「業務サーバへのインストール(64bit版)」を選択します。

32bit版および64bit版の選択は、インストール先となるサーバのCPUアーキテクチャーによって決定してください。



自動的に上の画面が表示されない場合は、DVD-ROMのswsetup.exeを実行し、インストーラを起動してください。

3. [ようこそ]画面が表示されます。

[次へ]ボタンをクリックしてください。



4. [インストール先の選択]画面が表示されます。

インストール先のフォルダーを指定し、[次へ]ボタンをクリックします。

🕌 Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)	
Systemwalker Runbook Automation(業務サーパ) インストール先の選択	Systemwalker
インストールフォルタを変更する場合は、[参照]ホタンをクリックしてフォルタマ	を選択してください。
必ずNTFS形式のディスクを指定してください。	
インストールに必要なディスク容量: 130MB	
インストール先のフォルダ	
C:¥Fujitsu¥Systemwalker¥SWRBAA	参照(<u>R</u>)
く 戻る(<u>B</u>)	<u> たへ(N) > キャンセル</u>



- インストール先フォルダーにはNTFS形式のディスクを指定してください。

- インストール先のパス長は最大58バイトです。
- 必ず新規のフォルダーを指定してください。
- 「
 ¥
 」で開始するパスおよび相対パス表記での指定はできません。

- フォルダー名に指定可能な文字は、半角英数字、「-」(ハイフン)、「_」(アンダースコア)です。

5. [インストールの確認]画面が表示されます。

設定に問題がない場合は、[確認]ボタンをクリックしてインストールを開始してください。

🛃 Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)	
インストール確認	Systemwalker
現在の設定でよい場合は、[確認]ボタンをクリックしてください。 インストールを開始します 変更を必要とする場合は、「戻る]ボタンをクリックしてください。	o
=== <インストール先ディレクトリ> === インストール先のフォルダ G:¥Fujitsu¥Systemwalker¥SWRBAA	
く 戻る(<u>B</u>) 確認	++>th

6. [完了]ボタンをクリックします。

🕌 Systemwalker Runbook Auto	mation V14g(業務サーバ)	
Systemwalker	Systemwalker Runbook Automation V14g (業務サーバ) のイ ストールが完了しました。	2
	完了	

[Linux]

以下の手順を実施します。

- 1. システム上でスーパーユーザーになります。
- 2. DVD-ROMをDVD-ROM装置にセットします。

"Systemwalker Software Configuration Manager V14g メディアパック (14.1.0)"のDVD-ROMをDVD-ROM装置にセットします。

DVD-ROMがマウントされていない場合は、以下のコマンドを実行してDVD-ROMをマウントします。

mount -t iso9660 -r /dev/mnt DVD-ROMのマウントポイント

3. 共通インストーラを起動します。

インストールコマンド(swsetup)を起動します。

cd <DVD-ROMのマウントポイント> # ./swsetup



RHEL5(x86)/(Intel64)で自動マウントデーモン(autofs)によるDVD-ROMの自動マウントを行った場合、マウントオプション に"noexec"が設定されるため、swsetupの実行に失敗します。

この場合、mountコマンドによりDVD-ROMを適切に再マウントしてからインストールを実行してください。

なお、マウントされているDVD-ROMのマウントオプションについては、mountコマンドを引数なしで実行することで確認できます。

4. インストールを開始します。

「ようこそ」画面が表示されます。[Enter]キーを押します。

Systemwalker Software Configuration Manager セットアップ V14.1.0 Copyright 2010-2011 FUJITSU LIMITED

Systemwalkerセットアップへようこそ!! セットアップはSystemwalker Software Configuration Managerをインストールします。 リターンキーを押してください。

5. インストール先のサーバの選択画面が表示されます。

「業務サーバ」を選択します。"2"または"3"を入力します。

32bit版および64bit版の選択については、インストール先となるサーバのCPUアーキテクチャーによって決定してください。



6. 業務サーバのインストールが起動します。インストールを開始する場合は"y"を入力します。

```
インストールの準備中です。
しばらくお待ちください。
Systemwalker Runbook Automation V14g (業務サーバ)
インストールを開始しますか?
[y,n]
=>
```

7. インストール先の確認を行います。格納先は変更不可なので、"y"を入力します。

```
=== <インストール先ディレクトリ> ===
プログラムの配置先(変更不可): /opt
設定ファイルの配置先(変更不可): /etc/opt
作業ファイルの配置先(変更不可): /var/opt
この設定でインストールしますか?
[y, q]
=>
```

8. インストールを開始します。

インストールの準備が整うと、以下が表示されインストールが開始されます。

インストール処理中です。

9. インストールを終了します。

インストールが完了すると以下の画面が表示されます。

Systemwalker Runbook Automation V14g (業務サーバ) インストールが完了しました。

第4章 エージェントのアンインストール

本章では、Systemwalker Software Configuration Managerのエージェントをアンインストールする手順について説明します。

アンインストールの手順については、以下を説明します。

アンインストール作業は、スーパーユーザーで行ってください。

- ・ アンインストール
- アンインストール後の作業

4.1 アンインストール

L-ServerサーバからSystemwalker Software Configuration Managerのエージェントをアンインストールします。

必要に応じてWindowsおよびLinuxマシンそれぞれからアンインストールを行います。

[Windows]

- 1. Administrator権限でログインします。
- 2. エージェントが起動している場合は停止します。以下のコマンドを実行して停止してください。

%F4AN_INSTALL_PATH%¥F4ANswnc¥bin¥swncctrl stop

3. アンインストーラを起動します。

[スタート]メニューの[プログラム]または[すべてのプログラム]から、[Fujitsu]-[アンインストールと管理(ミドルウェア)]を選択します。

ł	アンインストールと管理(ミ	ドルウェア)				
						前耶条
	インストール済みソフトリ	フェバー情報の不整合	なインストール			
	RootPackages					
r						
		記明 Suctoring United	ハージョン	, 001	<u>インストール日付</u>	<u>インストール先ティレクトリ</u>
	– Systemwalker Runbo ្រ	systemwalker Runbook	V14.1.0	201	- -	C:#Fujitsu#Systemwalke
Ľ						
						問心ろ
						1910 5

Systemwalker Runbook Automation のインストールが失敗した場合などでアンインストールを行う場合には、[情報が不整合なインストール]タブにSystemwalker Runbook Automationが表示される場合があります。[インストール済みソフトウェア]タブに表示されていない場合は、[情報が不整合なインストール]タブをクリックして確認してください。以降のアンインストール手順は同じです。

4. Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

削除してもよければ、[アンインストール]をクリックします。

🔮 Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)バージョン V14.1.0 📃 🗖 🗙					
	Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ) のアンインストール				
	以下の場所からSystemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)がアンインス トールされます:				
	C:¥Fujitsu¥Systemwalker¥SWFBAA				
A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	「アンインストール」を押すと、アンインストールを開始します。				
XXX					
	<戻る アンインストール キャンセル				

5. アンインストールが完了したら[終了]ボタンをクリックし、アンインストーラを終了します。

🛃 Systemwalker Runbook Autoi	mation V14g(業務サーバ)バージョン V14.1.0	_ 🗆 🗙
	以下のソフトウェアがアン インストー ルされました Systemwalker Runbook Automation V14g (業務サーバ)	
	149 J 1617 9 C / V 1 / ALT V(249 J 64 9 *	
	〈戻る 終了 キャ	ッシセル

[Linux]

- 1. システム上でスーパーユーザーになります。
- 2. エージェントが起動している場合は停止します。以下のコマンドを実行して停止してください。

/opt/FJSVswnc/bin/swncctrl stop

3. アンイントーラを起動します。

/opt/FJSVcir/cir/bin/cimanager.sh -c

4. アンインストールを行う製品の選択画面が表示されます。

Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)を選択してください。"q"を選択すると、アンインストーラを終了します。

アンインストールと管理(ミドルウェア)をロードしています
インストール済みソフトウェア:
1. Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ) V14.1.0
アンインストールするソフトウェアの番号を入力してください。
[number, q]
=>

5. アンインストールを実行します。

アンインストールを行っても良い場合には、"y"を選択します。"b"を選択すると一つ前の画面に戻ります。"q"を選択すると、アンインストーラを終了します。

```
Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)

説明: Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)

バージョン: V14.1.0

会社名: 富士通株式会社

インストール先ディレクトリ: /opt

インストール日付: 2010-12-10

アンインストールを開始します。よろしいですか?

[y, b, q]

=>
```

6. アンインストールを開始します。

アンインストールが完了すると以下の画面が表示されます。

アンインストール処理中です。

以下のソフトウェアがアンインストールされました: Systemwalker Runbook Automation V14g(業務サーバ)

アンインストールと管理(ミドルウェア)を終了します。



アンインストール後の注意事項は、『Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド』の「アンインストール後の注意事項」を参照してください。

4.2 アンインストール後の作業

アンインストールしたあとに必要な作業について説明します。

4.2.1 アンインストール後に残るファイルについて

アンインストール後に、以下のディレクトリと配下にファイルが残ります。不要な場合は手動で削除してください。

[Windows]

%SystemDrive%¥ProgramData¥Fujitsu¥FJSVswrbac¥cfmg¥log なお、Windows Server 2003の場合は、 %SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Fujitsu¥FJSVswrbac¥cfmg¥log



ディレクトリ「%SystemDrive%¥ProgramData」や「Application Data」は「隠しフォルダー」のため、通常は表示されません。

そのため、このディレクトリ内を参照するには、以下のいずれかの方法で行います。

- フォルダー名として直接「%SystemDrive%¥ProgramData」や「%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data」を指定します。
- エクスプローラにおいて、[整理]メニューの[フォルダーと検索のオプション]を選択し、[表示]タブで[ファイルとフォルダーの表示]-「隠しファイル、隠しフォルダー、または隠しドライブを表示する」を選択し適用します。

4.2.2「アンインストールと管理(ミドルウェア)」のアンインストール

「アンインストールと管理(ミドルウェア)」は、富士通ミドルウェア製品共通のツールです。

インストールされている富士通ミドルウェア製品情報の管理や製品のアンインストーラを起動します。

本製品は、「アンインストールと管理(ミドルウェア)」に対応しています。

本製品をインストールする際、最初に「アンインストールと管理(ミドルウェア)」がインストールされ、以降、「アンインストールと管理(ミドル ウェア)」により、富士通ミドルウェア製品のインストールおよびアンインストールの制御が行われます。なお、すでに「アンインストールと 管理(ミドルウェア)」がインストールされている場合は、インストール処理は行いません。

ここでは、「アンインストールと管理(ミドルウェア)」のアンインストール方法や注意事項について説明します。



.....

- ・本製品をアンインストールする場合、「アンインストールと管理(ミドルウェア)」からアンインストールを行ってください。
- ・本ツールは、本製品以外にほかの富士通ミドルウェア製品情報も含めて管理しています。どうしても必要な場合を除いて、本ツールをアンインストールしないでください。

誤ってアンインストールしてしまった場合は、下記手順に従い再度インストールしてください。

[Windows]

- 1. インストール対象マシンにAdministrator権限でログインします。
- 2. DVD-ROMをDVD-ROM装置にセットします。

"Systemwalker Software Configuration Manager V14g メディアパック (14.1.0)"のDVD-ROMをDVD-ROM装置にセットします。

3. インストールコマンドを実行します。

<DVD-ROMのマウントポイント>¥CIRインストーラroot¥cirinst.exe

[Linux]

- 1. システム上でスーパーユーザーになります。
- 2. DVD-ROMをDVD-ROM装置にセットします。

"Systemwalker Software Configuration Manager V14gメディアパック(14.1.0)"のDVD-ROMをDVD-ROM装置にセットします。 DVD-ROMがマウントされていない場合は、以下のコマンドを実行してDVD-ROMをマウントします。 # mount -t iso9660 -r /dev/mnt DVD-ROMのマウントポイント

3. インストールコマンドを実行します。

<DVD-ROMのマウントポイント>/CIRインストーラroot/cirinst.sh

「アンインストールと管理(ミドルウェア)」をアンインストールする場合は、以下の手順を実施してください。

1. 「アンインストールと管理(ミドルウェア)」を起動してほかの富士通ミドルウェア製品が残っていないか確認します。起動方法は以下のとおりです。

[Windows]

「スタート」ボタン - 「全てのプログラム」 - 「Fujitsu」 - 「アンインストールと管理(ミドルウェア)」をクリックします。

[Linux]

/opt/FJSVcir/cir/bin/cimanager.sh [-c]

-c:コマンドインターフェース



コマンドのパスに空白を含めると起動に失敗しますので、空白を含むディレクトリに移動させないでください。



コマンドモードで起動する場合は、-cを指定してください。-cの指定がない場合は、GUI環境がある場合はGUIモード、GUI環境がない場合はコマンドモードで起動されます。

2. インストールされている富士通ミドルウェア製品が何もない場合、下記のアンインストールコマンドを実行します。

[Windows]

\$SystemDrive\$FujitsuF4CR\$bin\$cirremove.exe

[Linux]

/opt/FJSVcir/bin/cirremove.sh

- 3. "本ソフトウェアは富士通製品共通のツールです。本当に削除しますか? [y/n]:"と表示されたら、「y」を入力して継続します。 数秒ほどでアンインストールが完了します。
- 4. アンインストール完了後、以下のディレクトリおよびその配下のファイルが残りますので削除します。

[Windows]

%SystemDrive%¥FujitsuF4CR

[Linux]

/var/opt/FJSVcir/

第3部 運用

ここでは、ソフトウェアパラメーター設定機能の運用について説明します。

第5章 運用の手順	5
第6章 機能詳細	9

第5章 運用の手順

本章では、L-Platformテンプレートの作成手順と、L-Platformの利用申請について説明します。

ソフトウェアパラメーター設定機能を使用する場合は、ServerView Resource Orchestratorの運用手順に、この機能の運用手順を追加 する必要があります。対象となるServerView Resource Orchestratorの運用手順は、以下になります。

- L-Platformテンプレートの作成
- L-Platformの利用申請

これ以降の説明では、ServerView Resource Orchestratorの手順については別マニュアルの参照先を示して、ソフトウェアパラメーター 設定機能の手順については説明を示します。

5.1 L-Platformテンプレートの作成

L-Platformテンプレートを作成するまでの手順について説明します。

- この手順では、新規に資産を作成していますが、以前に作成した資産を流用することもできます。
 - 1. L-Serverテンプレートの作成
 - 2. クローニングイメージの採取
 - a. インフラ管理者用L-Serverの作成
 - b. OSの手動インストール
 - c. 必須ソフトウェアのインストール
 - d. ミドルウェア・ソフトウェアのインストール
 - e. クローニングイメージの採取
 - 3. L-Platformテンプレートの作成
 - a. L-Platformテンプレートの作成
 - b. ソフトウェア情報の作成
 - c. イメージ情報の作成
 - d. セグメント情報の作成
 - e. ソフトウェア設定情報の作成
 - f. パラメーター情報の作成
 - g. テンプレート情報の作成

5.1.1 L-Serverテンプレートの作成

L-Serverの仕様が定義できるL-Serverテンプレートを作成します。これは、インフラ管理者用L-Serverを作成する場合や、L-Platformテンプレートを作成する場合に必要になります。手順の詳細については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 導入 ガイド』の「L-Serverテンプレートの作成」を参照してください。

5.1.2 クローニングイメージの採取

配備するサーバのシステムディスク(OSがインストールされたディスク)になるクローニングイメージを採取します。

ソフトウェアパラメーター設定機能の固有な手順は、「必須ソフトウェアのインストール」と「ミドルウェア・ソフトウェアのインストール」です。 その他の手順については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 導入ガイド』の「クローニングイメージの採取と登録」を参照してください。また、サーバ仮想化ソフトウェアの固有な手順として「仮想L-Server作成のための設計と設定」のセットアップも合わせて参照してください。

1. インフラ管理者用L-Serverの作成

クローニングイメージを採取するために、インフラ管理者用L-Serverを作成します。

2. OSの手動インストール

L-ServerにOSをインストールします。VMwareの場合は、OSにVMware Toolsをインストールします。

3. 必須ソフトウェアのインストール

本製品のエージェントをインストールします。

インストール・セットアップの詳細については、「3.2 インストール」を参照してください。



.

「Systemwalker Runbook Automation」を同時にインストールする場合は不要な作業です。

4. ミドルウェア・ソフトウェアのインストール

必要なミドルウェアやソフトウェアをインストールしてください。

OSやミドルウェアをサーバ仮想化ソフトウェアで正常に動作させるために、インストール手順が示されているものがあります。詳細については、「付録Aオペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)」を参照してください。

5. クローニングイメージの採取

L-Serverを停止してから、クローニングイメージを採取します。

5.1.3 L-Platformテンプレートの作成

L-Platformの仕様が定義できるL-Platformテンプレートを作成します。

ソフトウェアパラメーター設定機能の固有な手順は、「ソフトウェア設定情報の作成」、「パラメーター情報の作成」および「テンプレート 情報の作成」の一部です。その他の手順については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイド インフラ管 理者編』または『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイド テナント管理者編』の「テンプレート」を参照してくだ さい。

1. L-Platformテンプレートの作成

GUIでL-Platformテンプレートを作成する場合は、RORコンソールの[テンプレート]タブで作業します。

2. ソフトウェア情報の作成

イメージに含まれるソフトウェアの構成を定義するソフトウェア情報を作成します。

すでに登録してあるソフトウェア情報を使用することもできます。詳細については、「第15章 ソフトウェア情報およびソフトウェア ID」や『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition リファレンスガイド インフラ管理者編』の「登録済ソフトウェアID」を 参照してください。

3. イメージ情報の作成

イメージの構成を定義するイメージ情報を作成します。

4. セグメント情報の作成

ネットワークリソースの構成を定義するセグメント情報を作成します。

ソフトウェアパラメーター設定機能を使用する場合は、管理サーバとL-Serverを繋ぐ管理LANが必要です。 詳細な説明については、「6.3 管理LANの設定」を参照してください。

5. ソフトウェア設定情報の作成

ソフトウェアに設定できるパラメーターの構成を定義するソフトウェア設定情報を作成します。L-Platformを配備するときにソフト ウェアのパラメーターを設定したい場合は、ソフトウェア設定情報を作成してください。すでに登録してあるソフトウェア設定情報 を使用することもできます。

登録してあるソフトウェア設定情報については、「第16章 ソフトウェア設定ID」を参照してください。

詳細な説明については、「6.1 パラメーターの定義」を参照してください。

GUIの操作については、「7.3 ソフトウェア設定情報とパラメーター情報の操作」を参照してください。

コマンドの操作については、「第10章 L-Platformテンプレート管理コマンド」を参照してください。

6. パラメーター情報の作成

ソフトウェアのパラメーターに設定する値を定義するパラメーター情報を作成します。ソフトウェア設定情報で設定した値をカスタ マイズする場合は、パラメーター情報を作成してください。

詳細な説明については、「6.2 パラメーター値の設定」を参照してください。

GUIの操作については、「7.3 ソフトウェア設定情報とパラメーター情報の操作」を参照してください。

コマンドの操作については、「第10章 L-Platformテンプレート管理コマンド」を参照してください。

7. テンプレート情報の作成

L-Platformテンプレートの構成を定義するテンプレート情報を作成します。このL-Platformテンプレートでは、ソフトウェアのパラ メーターに設定する値の選択肢も定義できます。

詳細な説明については、「6.2 パラメーター値の設定」と「6.3 管理LANの設定」を参照してください。

GUIの操作については、「7.4 テンプレート情報の操作」を参照してください。

コマンドの操作については、「第10章 L-Platformテンプレート管理コマンド」を参照してください。

5.2 L-Platformの利用申請

L-Platformの利用申請をする手順について説明します。

- 1. L-Platformの利用申請
 - a. 新規のL-Platform利用申請
 - b. L-Platformの構成変更
 - c. 利用申請の申込
- 2. ミドルウェアの設定
- 3. エラー発生時の対処

5.2.1 L-Platformの利用申請

L-Platformテンプレートで定義したL-Platformを配備するために、L-Platformの利用申請をします。

ソフトウェアパラメーター設定機能の固有な手順は、「L-Platformの構成変更」の一部です。その他の手順については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイドテナント管理者編』または『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイドテナント利用者編』の「L-Platform」を参照してください。

1. 新規のL-Platform利用申請

GUIで新規にL-Platformの利用申請をする場合は、RORコンソールの[L-Platform]タブで作業します。

2. L-Platformの構成変更

L-Platformテンプレートの構成変更が可能な場合は、L-Platformの構成を変更します。この構成変更でソフトウェアのパラメーターに設定する値を選択できます。

GUIの操作については、「8.2 ソフトウェアの構成変更」を参照してください。

3. 利用申請の申込

L-Platformテンプレートの変更が完了してから、L-Platformの利用申請を申し込みます。

L-Platformを配備後にイベントログにエラーが出力される場合があります。

5.2.2 ミドルウェアの設定

L-Platformを配備後にミドルウェアの設定が必要なものがあります。詳細については、「付録Bオペレーティングシステム・ミドルウェア 個別処理(配備後編)」を参照してください。
5.2.3 エラー発生時の対処

イベントログのエラーを確認してください。そのあと、調査ログの内容を確認してください。 ソフトウェアパラメーター設定機能の固有なエラーは、「第18章 イベントログ」と「9.1 ログ出力」を参照してください。

第6章 機能詳細

本章では、ソフトウェアパラメーター設定機能の詳細について、以下の説明をしています。

- パラメーターの定義
- ・ パラメーター値の設定
- 管理LANの設定

6.1 パラメーターの定義

ソフトウェアのパラメーターを定義するには、以下の機能を使用します。

• ソフトウェア設定情報

ソフトウェアに設定できるパラメーターは、ソフトウェア設定情報で定義します。このソフトウェア設定情報には、パラメーター一覧 (キー名、型、およびデフォルト値)と設定方式を記述します。

ソフトウェア設定情報の関連付け

ソフトウェア設定情報は、ソフトウェアに設定できるパラメーターを定義していますが、対象となるソフトウェアを指定していません。 それには、ソフトウェア設定情報とソフトウェア情報を関連付ける必要があります。この関連付けをすると、常にパラメーターのデフォ ルト値がソフトウェアに設定されるようになります。

• ソフトウェア設定スクリプト

実際にソフトウェアにパラメーターを設定するのは、ソフトウェア設定スクリプトになります。このスクリプトは、配備したサーバに転送されて、そのサーバ上で実行されます。

・ パッケージファイル

ソフトウェア設定スクリプトはZIP形式で圧縮したパッケージファイルにして、ソフトウェア設定情報と関連付けます。

値に指定できる変数
 デフォルト値には、変数を記述することもできます。

6.1.1 ソフトウェア設定情報

ソフトウェア設定情報とは、パラメーター一覧(キー名、型およびデフォルト値)と設定方式を記述したものです。

パラメーター一覧には、ソフトウェアに設定できる複数のパラメーターを記述します。1つのパラメーターは、キー名、型およびデフォルト値で表します。ただし、デフォルト値は省略することが可能です。

パラメーターの設定方式は、パラメーターの値を、どのような方式でソフトウェアに設定するかを指定します。この方式は、Windowsで 使用できるバッチファイルのソフトウェア設定スクリプトか、Linuxで使用できるシェルスクリプトのソフトウェア設定スクリプトかを選択でき ます。

ソフトウェア設定情報には、以下の3通りがあります。

- a. 本製品で提供するもの
- b. Webで公開するもの
- c. ユーザーが作成するもの

a.については、「第16章 ソフトウェア設定ID」を参照してください。

b.については、ソフトウェア技術情報ホームページを参照してください。

${\tt URL} \ : {\tt http://software.\,fujitsu.\,com/jp/technical/}$

c.はGUIやコマンドで作成できます。GUIの操作については、「7.3 ソフトウェア設定情報とパラメーター情報の操作」を参照してください。 コマンドの操作については、「10.2 ソフトウェア設定情報操作」を参照してください。

6.1.2 ソフトウェア設定情報の関連付け

ソフトウェア設定情報は、ソフトウェアに設定できるパラメーターを定義していますが、対象となるソフトウェアを指定していません。それ には、ソフトウェア設定情報とソフトウェア情報を関連付ける必要があります。

ソフトウェア設定情報1つに対して、複数のソフトウェア情報を関連付けることができます。そのため、ソフトウェアに複数のエディションが存在しても、ソフトウェア設定情報を1つに集約できます。ただし、Windows版とLinux版は混在できないため、このような場合は別々のソフトウェア設定情報を作成する必要があります。

ソフトウェア設定情報とソフトウェア情報を関連付けると、ソフトウェアにパラメーターを設定するソフトウェア設定スクリプトがサーバ配備 時に動作します。ただし、ソフトウェア設定情報にあるすべてのデフォルト値が省略されていると動作しません。このようなソフトウェア設 定スクリプトが動作するのは、パラメーター情報で値を設定した場合になります。

6.1.3 ソフトウェア設定スクリプト

ソフトウェア設定スクリプトとは、ソフトウェアにパラメーターを設定するためのスクリプトです。このスクリプトは、L-Serverに転送されて、 L-Server上で実行されます。

ソフトウェア設定スクリプトは、複数のファイルで構成されています。また、Windowsで使用できるバッチファイルと、Linuxで使用できる シェルスクリプトが決められています。このファイルの説明を、以下に示します。

• スタートアップスクリプト

スタートアップスクリプトは、必ず初めに呼び出されるスクリプトです。

このスクリプトはファイル名が決められていて、バッチファイルがstartup.cmdで、シェルスクリプトがstartup.shです。このスクリプトの処理では、必ず入力となる環境変数設定スクリプトを呼び出すことと、出力となる結果を復帰することが必要です。このほかの処理は、 ソフトウェアごとに作成することができます。

・ 環境変数設定スクリプト

スタートアップスクリプトへの入力は、環境変数を経由して渡します。この環境変数を設定するのが、環境変数設定スクリプトです。

このスクリプトはファイル名が決められていて、バッチファイルがsetenv.cmdで、シェルスクリプトがsetenv.shです。

環境変数設定スクリプトは、本製品がソフトウェア設定情報やパラメーター情報から生成します。

・ 添付ファイル

スタートアップスクリプトでは、任意のファイルを使用できます。

添付ファイルにシェルスクリプトを含める場合は、実行権をシェルスクリプトのスタートアップスクリプトの中で設定してください。

スタートアップスクリプト (バッチファイル) の形式【Windows】

バッチファイルのスタートアップスクリプト (startup.cmd) は、以下の形式で作成します。

初めに環境変数設定スクリプト (setenv.cmd) を呼び出します。最後に処理が成功した場合は0を復帰して、失敗した場合は0以外を復帰します。標準出力と標準エラー出力は、エージェントのログに出力されます。

```
@echo off
setlocal
@rem 環境変数を設定する
call .¥setenv.cmd
@rem ソフトウェアのセットアップ処理
<各ソフトウェアの処理>
@rem 結果(正常)を復帰する
if ERRORLEVEL 1 goto ERROR_END
endlocal
exit /B 0
@rem 結果(異常)を復帰する
: ERROR_END
echo ERRORO001 setup failed 1>&2
endlocal
exit /B 1
```

スタートアップスクリプト(シェルスクリプト)の形式【Linux】

シェルスクリプトのスタートアップスクリプト(startup.sh)は、以下の形式で作成します。

初めに環境変数設定スクリプト(setenv.sh)を呼び出します。最後に処理が成功した場合は0を復帰して、失敗した場合は0以外を復帰します。標準出力と標準エラー出力は、エージェントのログに出力されます。

#!/bin/sh
環境変数を設定する
source ./setenv.sh
ソフトウェアのセットアップ処理
<各ソフトウェアの処理>
結果を復帰する
if [\$? = "0"]: then
正常を復帰する
exit 0
else
異常を復帰する
echo "ERROR0001 setup failed" 1>&2
exit 1
fi

環境変数設定スクリプト (バッチファイル) の形式【Windows】

バッチファイルの環境変数設定スクリプト(setenv.cmd)は、以下の形式で本製品が生成します。

環境変数の名前は、ソフトウェア設定情報(パラメーター情報)にあるパラメーターのキーが設定されます。ただし、パラメーターのキー は英数字と「.」の組合せですが、環境変数名は「.」を「_」に変換した名前になります。環境変数の値は、ソフトウェア設定情報やパラメー ター情報にあるパラメーターの値が設定されます。

set パラメーターのキー=パラメーターの値 <パラメーターの数だけ環境変数を定義します>

環境変数設定スクリプト(シェルスクリプト)の形式【Linux】

シェルスクリプトの環境変数設定スクリプト(setenv.sh)は、以下の形式で本製品が生成します。

環境変数の名前は、ソフトウェア設定情報(パラメーター情報)にあるパラメーターのキーが設定されます。ただし、パラメーターのキー は英数字と「.」の組合せですが、環境変数名は「.」を「_」に変換した名前になります。環境変数の値は、ソフトウェア設定情報やパラメー ター情報にあるパラメーターの値が設定されます。

set パラメーターのキー=パラメーターの値 <パラメーターの数だけ環境変数を定義します>



・ソフトウェア設定スクリプト

- 実行順序

ソフトウェア設定スクリプトが動作する順番は、イメージ情報に記述されたソフトウェア情報の順番になります。

- ・ スタートアップスクリプト
 - 実行権限

Windows版では、Administratorで実行されます。

Linux版では、スーパーユーザーで実行されます。

- カレントディレクトリ

スタートアップスクリプトのファイルが格納されているパスが、カレントディレクトリになります。

- 実行権【Linux】

スタートアップスクリプトのシェルスクリプトは、実行時に自動的に実行権が設定されます。

- 改行

Windows版では、CR+LFです。

Linux版では、LFです。

ー バイトオーダーマーク(BOM)【Linux】

シェルスクリプトでは、UTF-8のバイトオーダーマーク(BOM)を含めないでください。

・環境変数設定スクリプト

- 環境変数の定義

パラメーターの値を設定しない場合は、環境変数を定義しません。このため、スタートアップスクリプトでは、パラメーターの値を設定するかしないかを、環境変数の定義があるかなしかで判断します。

環境変数が定義されているか判定する方法を、以下に示します。

バッチファイルの場合:【Windows】

if defined <環境変数> (<定義されている処理>) else <定義されていない処理> 例: set PARAM=%hostname% if defined parameter_Key1 (set PARAM=-v %parameter_Key1% %PARAM%)

シェルスクリプトの場合:【Linux】

```
${<環境変数>+${<環境変数>}}
例:
PARAM=${hostname}
PARAM="${parameter_Key1+"-v ${parameter_Key1}"} ${PARAM}"
```

- 値の空文字列【Windows】

Windowsの環境変数は空文字列を設定できません。このため、バッチファイルの空文字列は、「__EMPTY__」(「

__」は「_」と「_」が2つ続いています)を設定します。このため、パラメーターの値として、「__EMPTY__」を使用はできないことに 注意してください。

- ・ 添付ファイル
 - 実行権【Linux】

添付ファイルにシェルスクリプトを含める場合は、実行権をシェルスクリプトのスタートアップスクリプトの中で設定してください。

6.1.4 パッケージファイル

パッケージファイルとは、1つ以上のファイルをZIP形式で圧縮したファイルです。このファイルは、ソフトウェア設定スクリプトをソフトウェ ア設定情報やパラメーター情報に関連付けるために使用します。また、このファイルは、L-Serverに転送されてから、L-Server上で解凍 されます。

ソフトウェア設定情報に登録するパッケージファイルを、スクリプトパッケージと呼びます。パラメーター情報に登録するパッケージファ イルを、パラメーターパッケージと呼びます。それぞれのパッケージファイルの中に含まれるソフトウェア設定スクリプトは異なります。こ の説明を以下に示します。

・ スクリプトパッケージ

ソフトウェア設定スクリプトのスタートアップスクリプトと添付ファイルを含めます。スタートアップスクリプトは、必ず含める必要があります。

・ パラメーターパッケージ

ソフトウェア設定スクリプトの添付ファイルを含めます。

ソフトウェア設定スクリプトの実行イメージ

スクリプトパッケージやパラメーターパッケージはL-Serverに転送されて、L-Server上で解凍されます。また、本製品が生成する環境変数設定スクリプトもL-Server上に転送されます。これらのソフトウェア設定スクリプトは、L-Server上のワークディレクトリに、以下の構造で格納されます。そして、スタートアップスクリプトが格納されているディレクトリをカレントディレクトリとして、スタートアップスクリプトが実行されます。

<ワークディレクトリ> + <ソフトウェアID> + scriptpkg | + スタートアップスクリプト(startup.cmd、startup.sh) | + 環境変数設定スクリプト(setenv.cmd、setenv.sh) | + スクリプトパッケージの添付ファイル + parampkg + パラメーターパッケージの添付ファイル

各ディレクトリの説明を以下に示します。

・ ソフトウェアIDディレクトリ

ソフトウェアごとに独立したディレクトリを作成します。このディレクトリの名前は、ソフトウェアIDになります。

• scriptpkgディレクトリ

スクリプトパッケージを解凍したスタートアップスクリプトと添付ファイルが格納されます。また、環境変数設定スクリプトも格納します

• parampkgディレクトリ

パラメーターパッケージを解凍した添付ファイルが格納されます。スタートアップスクリプトからパラメーターパッケージの添付ファイルを使用する場合は、相対パスで添付ファイルを参照するようにします。



・ パッケージファイル

- スタートアップスクリプトの格納位置

スタートアップスクリプトは、ディレクトリの配下ではなく、ZIPファイルのルートに格納してください。

スタートアップスクリプトをディレクトリの配下に格納すると、このスクリプトが実行できません。

- 日本語名のファイルは禁止

日本語名のファイルを含めることはできません。

- ファイルの削除

L-Serverに転送したファイルは、スクリプトを実行したあとに削除されます。

6.1.5 値に指定できる変数

L-Serverを配備してから決定される値 (コンピュータ名、ホスト名、IPアドレス)をパラメーターの値に指定する場合は、パラメーターの値 に変数を記述します。

変数は、以下の形式で記述します。

#{変数名} 例:

<value>#{server.os.computername}</value>

変数の一覧

使用できる変数と説明を、以下に示します。

変数名	説明
server.os.computername	コンピュータ名/ホスト名
server.nic.ipaddress	IPアドレス NIC連番に指定した一番若い番号のNICのIPアドレス
server.nic[NIC連番].ipaddress	IPアドレス NIC連番は、テンプレート情報のNIC連番に指定している数値です。 例えば、以下のように指定します。 [1]:NIC連番の1に指定したNICのIPアドレス [2]:NIC連番の2に指定したNICのIPアドレス
server.nic[NIC_BUSINESS].ipaddress	IPアドレス 業務セグメントに接続しているNICのIPアドレス。複数存在する場合は一番若い 番号のNICのIPアドレス。存在しない場合は管理セグメントに接続しているNIC のIPアドレス。
server.nic[NIC_MANAGEMENT].ipaddress	IPアドレス 管理セグメントに接続しているNICのIPアドレス。複数存在する場合は一番若い 番号のNICのIPアドレス。存在しない場合は業務セグメントに接続しているNIC のIPアドレス。
server.nic[NIC_CONTROL].ipaddress	IPアドレス 制御NICのIPアドレス



・変数

ー エスケープシーケンス

パラメーターの値として文字「#」を指定したい場合は、「¥#」のように「¥」でエスケープします。文字「¥」を指定したい場合は、「¥ ¥」と記述してください。

6.2 パラメーター値の設定

ソフトウェアのパラメーターに値を設定するには、以下の機能を使用します。

- パラメーター情報
 ソフトウェアのパラメーターに値を設定するには、パラメーター情報を定義します。
- ・ テンプレート情報で使用するパラメーターの設定
 ソフトウェアのパラメーターに設定する値の選択肢は、テンプレート情報で定義します。
- ・ パッケージファイル

パラメーター情報には、パラメーターパッケージを登録することができます。詳細については、「6.1.4 パッケージファイル」を参照してください。

値に指定できる変数

値には、変数を記述することもできます。詳細については、「6.1.5 値に指定できる変数」を参照してください。

6.2.1 パラメーター情報

パラメーター情報とは、ソフトウェアに設定するパラメーターの値を記述したものです。ソフトウェアに値を設定できるパラメーターは、ソフトウェア設定情報で定義したパラメーターになります。

画面上では、ソフトウェアをセットアップする内容が選択できます。これは、テンプレート情報に選択できるパラメーター情報を記述する ことで実現できます。

パラメーター情報のパラメーター一覧には、ソフトウェア設定情報にあるパラメーターの中で、値を設定するものを指定します。

6.2.2 テンプレート情報で使用するパラメーターの設定

テンプレート情報は、L-Platformテンプレートの構成を定義するものです。この中で、ソフトウェアのパラメーターに設定する値の選択 肢も定義できます。

画面上では、ソフトウェアをセットアップする内容が選択できます。これは、パラメーター情報を複数定義して、これをテンプレート情報 で指定します。

6.3 管理LANの設定

ソフトウェアパラメーター設定機能では、管理サーバから配備したL-Serverに通信をして、ソフトウェアのパラメーターを設定します。このため、管理サーバとL-Serverを管理LANで繋ぐ必要があります。

L-Platformテンプレートを作成する場合は、以下の設定が必要になります。

• セグメント情報

ネットワークリソースに管理サーバとL-Serverを繋ぐ管理LANを用意します。そして、管理LANに対応するセグメント情報を作成します。

テンプレート情報

テンプレート情報に管理LANのセグメント情報を追加します。そして、管理LANのセグメントにL-Serverを接続します。このとき、管理LANのセグメントに接続したNICが判断できるように、制御NICを指定してください。

第4部 操作

ここでは、ソフトウェアパラメーター設定機能で提供する機能の操作方法について説明します。

第7章 テンプレート

本章では、L-Platformテンプレートの作成および管理方法について説明します。

7.1 L-Platformテンプレートの構成

ここでは、L-Platformテンプレートを構成する各種情報について説明します。

L-Platformテンプレートを構成する情報は以下のとおりです。ソフトウェアパラメーター設定機能の固有なものは、ソフトウェア設定情報とパラメーター情報です。

表7.1 L-Platformテンプレートを構成する情報

情報	説明
テンプレート情報	L-Platformテンプレートの構成を定義
セグメント情報	ネットワークリソースの構成を定義
イメージ情報	クローニングイメージの構成を定義
ソフトウェア情報	クローニングイメージに含まれるソフトウェアの構成を定義
ソフトウェア設定情報	ソフトウェアに設定できるパラメーターの構成を定義
パラメーター情報	ソフトウェアのパラメーターに設定する値を定義

L-Platformテンプレートを構成する各種情報の相互関係を以下に示します。



図7.1 L-Platformテンプレートを構成する各種情報の相互関係図

7.2 L-Platformテンプレートウィンドウ

[L-Platformテンプレート]ウィンドウは、L-Platformテンプレートの構成を定義することができます。

このウィンドウは、RORコンソールの[テンプレート]タブで、以下のいずれかの方法で表示されます。

- ・メニューから[テンプレート管理]を選択する
- ・ [スタートアップ]ウィンドウの各情報のボタンイメージをクリックする

[L-Platformテンプレート]ウィンドウは、5つのタブから構成されています。タブ名とL-Platformテンプレートを構成する情報との対応関係は以下のとおりです。

表7.2 タブ名とL-Platformテンプレートを構成する情報との対応関係

タブ名	情報
テンプレート	テンプレート情報
セグメント	セグメント情報
イメージ	イメージ情報
ソフトウェア	ソフトウェア情報
パラメーター	ソフトウェア設定情報とパラメーター情報

ソフトウェアパラメーター設定機能の固有な操作は、「ソフトウェア設定情報とパラメーター情報」と「テンプレート情報で使用するパラ メーターの設定」です。このほかの操作については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイド インフラ管理 者編またはテナント管理者編』の「テンプレート」を参照してください。

7.3 ソフトウェア設定情報とパラメーター情報の操作

ソフトウェア設定情報では、ソフトウェアに設定するパラメーター一覧(キー名、型およびデフォルト値)と設定方式を記述します。

パラメーター情報では、ソフトウェア設定情報で定義した値をカスタマイズする定義をします。

ソフトウェア設定情報およびパラメーター情報は、[L-Platformテンプレート]ウィンドウの[パラメーター]タブで定義します。

[パラメーター]タブでは、ページ上部にソフトウェア設定情報またはパラメーター情報をツリー形式の一覧で表示します。一覧より、ソフトウェア設定情報またはパラメーター情報を選択すると、ページ下部に選択したソフトウェア設定情報またはパラメーター情報の詳細が表示されます。

ソフトウェア設定情報またはパラメーター情報の一覧はテナントおよび方式 (コマンド、シェル) で絞り込むことができます。

表示順は、ヘッダー(名称、IDなど)をクリックすることで、昇順または降順に変更できます。

図7.2 [パラメーター]タブ

L-Platformテンプレート	L-Platformテンプレート _ ロ ×					
テンプレート セ	テンプレート セグメント イメージ ソフトウェア パラメーター					
ਰਿਸਟ) (ਰਾਨਰ)	· 方式 (す	ላ (ን	•		e	2 ソフトウェア設定追加
テナント	名称			ID	К	▲ パラメーター追加
(グローバル)	CMD Interstage Application Ser	ver		RS0000001	setupscript_isa	
(グローバル)	Shell Interstage Application Ser	ver		RS0000002	setupscript_isa	
(グローバル)	CMD Interstage List Creator Se	tup		RS00000100	setupscript_lc_	
(グローバル)	Shell Interstage List Creator Se	tup		RS00000101	setupscript_lc_;	
(グローバル)	CMD Interstage Charset Manage	er Setup		RS00000600	setupscript_isc	
(グローバル)	Shell Interstage Charset Manage	er Setup		RS00000601	setupscript_isc	
(グローバル)	CMD Systemwalker Centric Mar	nager (Age	nt) Setup	RS00010000	setupscript_sw	
(グローバル)	Shell Systemwalker Centric Mar	Shell Systemwalker Centric Manager (Agent) Setup			setupscript_sw	
(グローバル)	CMD Systemwalker Operation Manager Setup			RS00010100	setupscript_sw	•
•	1111]		Þ	
CMD Interstage A	Application Server		スペ	ック	その他	編集
キー名	ラベル	型		設定値	-	- アップロード
hostname	ホスト名	string	#{server.os.computername}			
ipaddress	IPアドレス	string	ring #{server.nic.ipaddress}			
J2ee Ijserver Definition	IJServer定義ファイル	string				関連付け
1900 Suptom Datinitian	INEES フラン学業コーズル東報	otring			•	削除

ボタン名称	説明
ソフトウェア設定追加	ソフトウェア設定情報を追加します。
	詳細は、「7.3.1 ソフトウェア設定情報の追加」を参照してください。
パラメーター追加	パラメーター情報を追加します。
	詳細は、「7.3.6 パラメーター情報の追加」を参照してください。
編集	選択したソフトウェア設定情報を編集します。
	詳細は、「7.3.2 ソフトウェア設定情報の編集」を参照してください。
アップロード	パッケージファイルをアップロードします。
	詳細は、「7.3.4 パッケージファイルのアップロード」を参照してください。
ダウンロード	パッケージファイルをダウンロードします。
	詳細は、「7.3.5 パッケージファイルのダウンロード」を参照してください。
関連付け	ソフトウェア設定情報とソフトウェアを関連付けます。
	詳細は、「7.3.9ソフトウェア情報の関連付け」を参照してください。
削除	選択したパラメーター情報を削除します。
	詳細は、「7.3.8 パラメーター情報の削除」を参照してください。

7.3.1 ソフトウェア設定情報の追加

ソフトウェア設定情報を追加するには、[ソフトウェア設定追加]ウィンドウで定義します。

ソフトウェア設定情報を追加する操作手順は、以下のとおりです。

1. [パラメーター]タブで、設定するソフトウェアを選択します。

2. [ソフトウェア設定追加]ボタンをクリックすると、[ソフトウェア設定追加]ウィンドウが表示されます。

ソフトウェア設定追加	-			×
テナント (グローバル)	設定			
ソフトウェア設定名			方式 =	1マンド ・
説明				
十一名	ラベル	型	設定値	追加
				<u>ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ</u>
				下へ
			•	
) etn	± + 1/2
			7670	+7/2/

図7.3 [ソフトウェア設定追加]ウィンドウ

3. 以下の情報を設定し、[キー追加]ボタンをクリックします。

項目	説明	
テナント	[設定]ボタンをクリックして、[テナント選択]ウィンドウからソフトウェア設定情報が所属するテ ナントを選択します。	
ソフトウェア設定名	ソフトウェア設定情報名を64文字以内で指定します。	
方式	パラメーター設定方式を以下から選択します。	
	・ コマンド:スタートアップスクリプトの「startup.cmd」を呼び出します。	
	・ シェル:スタートアップスクリプトの「startup.sh」を呼び出します。	
説明	ソフトウェア設定情報の説明を256文字以内で入力します。	

入力した情報が反映され、ページ下部にキー情報を入力するフィールドが表示されます。
 入力フィールドに値を入力すると、自動的にページ上部の一覧に反映されます。

図7.4 [ソフトウェア設定追加]ウィンドウ (キー情報追加)

ソフトウ	ェア設定追加				×
テナント	・ (グローバル)) 設定			
ソフトウ	ェア設定名 Ir	 nterstage Application Server 設定 [。]	情報	方式 🔤	בדא ארדם (•
説明					
	キー名	ラベル	型	設定値	1 キー追加
key1			string		
					 下へ
•					-
+-*	kov1				- BIRA
	Keyi				1990
	ラベル				
	型	string 🔻			
	設定値				
	說明				
				追加	キャンセル

項目	説明			
キー名	パラメーターのキーを256Bytes以内で指定します。			
	使用可能文字は英数字と「.」です。ただし、先頭文字は英字を指定します。			
	デフォルトは、「key + "通し番号 (1から)"」で設定されます。			
ラベル	パラメーターを画面上に表示する場合のラベルを64文字以内で指定します。			
型	値の型を以下から選択します。			
	・ boolean:真偽値 (true、false)			
	• number:数值 (-2,147,483,648 ~2,147,483,647)			
	・ string:文字列 (空文字の指定も可能)			
	・ string(設定値なし)			
	デフォルトは、「string」で設定されます。			
設定値	配備時にソフトウェアが動作するために必要となるパラメーターの値を4096文字以内で指定します。			
	配備時に設定しないパラメーターは、設定値を省略します。			
説明	パラメーターの説明を256文字以内で入力します。			

5. [追加]ボタンをクリックすると、ソフトウェア設定情報が追加された旨のメッセージが表示され、ソフトウェア設定情報が追加されま す。

キーの変更

一覧からキーを選択すると、[ソフトウェア設定追加]下部にキーの詳細情報が表示されます。

キーの詳細情報を変更すると、変更内容が[ソフトウェア設定追加]ウィンドウ上部に反映されます。ただし、変更した値に構文エラーがある場合は、エラーメッセージが表示され、変更前の値に戻ります。

以下の項目の変更が可能です。

- キー名
- ・ラベル
- 型
- 設定値
- 説明

キーの削除

一覧より削除するキーを選択し、[削除]ボタンをクリックします。削除確認メッセージが表示されます。

[はい]ボタンをクリックすると、一覧からキーが削除されます。

7.3.2 ソフトウェア設定情報の編集

登録してあるソフトウェア設定情報を編集する操作手順は、以下のとおりです。

1. [パラメーター]タブで、編集するソフトウェア設定情報を選択します。

2. [編集]ボタンをクリックすると、[ソフトウェア設定編集]ウィンドウが表示されます。

ソフトウェア設定編集	······································				×
テナント (グローバル	•)				
ソフトウェア設定名	Interstage Application Server 🎛	定情報		方式コマ	シド ・
説明					
+-名	ラベル	ΨŪ		設定値	牛ー追加
hostname	ホスト名	string	host001	BAACIE	
					 不不
E T					
	1111			•	
キー名 hostname					肖邶余
ラベル	ホスト名				
型	string 🔹				
設定値	host001				
説明					
				ОК	キャンセル

図7.5 [ソフトウェア設定編集]ウィンドウ

3. 必要に応じて、各項目の情報を編集します。[ソフトウェア設定追加]ウィンドウで設定した項目が編集できます。 各項目の指定内容については、「7.3.1 ソフトウェア設定情報の追加」を参照してください。

7.3.3 ソフトウェア設定情報の削除

ソフトウェア設定情報を削除する操作手順は、以下のとおりです。

- 1. 一覧から削除するソフトウェア設定情報を選択します。
- 2. [削除]ボタンをクリックすると、選択したソフトウェア設定情報が削除されます。

ただし、選択したソフトウェア設定情報と関連付いているパラメーター情報を使用しているL-Platformテンプレートが存在するか確認し、存在する場合は、エラーメッセージが表示されます。

G 注意

- ソフトウェア設定情報と関連付いているパラメーター情報が存在する場合は、すべて削除します。
- ・ ソフトウェア設定情報と関連付いているソフトウェア情報がある場合は、関連付けをすべて解除します。

7.3.4 パッケージファイルのアップロード

パッケージファイルとは、1つ以上のファイルをZIP形式で圧縮したファイルです。

ソフトウェア設定情報で定義した情報をスクリプトパッケージ、パラメーター情報で定義した情報はパラメーターパッケージとして、アップロードします。

パッケージファイルは、L-Serverに転送されてから、L-Server上で解凍されます。

パッケージファイルをアップロードする操作手順は、以下のとおりです。

- 1. [パラメーター]タブで、ソフトウェア設定情報またはパラメーター情報を選択します。
- 2. [アップロード] ボタンをクリックすると、アップロードが開始します。
- 3. アップロードが完了すると、[パラメーター]タブの一覧で表示されるパッケージにファイル名が表示されます。

アップロードできるファイルサイズは、2MB以下です。

7.3.5 パッケージファイルのダウンロード

パッケージファイルをダウンロードする操作手順は、以下のとおりです。

- 1. [パラメーター]タブで、ソフトウェア設定情報またはパラメーター情報を選択します。
- 2. [ダウンロード]ボタンをクリックし、パッケージファイルのダウンロード先を指定します。

7.3.6 パラメーター情報の追加

パラメーター情報を追加する操作手順は、以下のとおりです。

- 1. [パラメーター]タブで、パラメーター情報を追加するソフトウェア設定情報またはパラメーター情報を選択します。
- 2. [パラメーター追加]ボタンをクリックすると、[パラメーター追加]ウィンドウが表示されます。

パラメー:	ター追加						×
テナント パラメー:	(グローバル) ター名	設定					
説明							
変更	+-	名	ラベル	型		設定値	
	hostname		ホスト名	string	host1		
L							
hostnam	ne					2刀期化	:
ホストネ	名						
i	設定値	host1					
		🔄 空文字					
							_
						追加キャンセ	UL I

図7.6 [パラメーター追加]ウィンドウ

🕑 ポイント

- 型がstringで、設定値がない場合、ウィンドウ上部の一覧の型には、「string(省略)」と表示されます。

.

- ソフトウェア設定情報で設定した値から変更があった場合、「変更」欄に「あり」が表示されます。

3. パラメーター情報を入力します。

項目	説明
テナント	[設定]ボタンをクリックして、[テナント選択]ウィンドウからパラメーター情報 が所属するテナントを選択します。
パラメーター名	パラメーター情報の名前を64文字以内で指定します。
説明	パラメーター情報の説明を256文字以内で入力します。
設定値	ウィンドウ上部の一覧で選択したキーのパラメーターの値を4096文字以内 で指定します。
	初期値は、ソフトウェア設定情報で設定した値です。

設定値を入力すると入力した値の構文チェックを行い、構文が正しい場合は選択中のキーの[変更]に「あり」を、設定値に入力 した値を表示します。

몓 ポイント

- 型が「string」の場合、ページ下部の設定値の下に、空文字のチェックボックスが表示されます。

ーキーを選択して、[初期化]ボタンをクリックすると、[変更]欄の「あり」が消え、ソフトウェア設定で設定した値に戻ります。

4. [追加]ボタンをクリックすると、パラメーター情報が追加された旨のメッセージが表示され、更新された[パラメーター]タブの一覧 に戻ります。

7.3.7 パラメーター情報の編集

パラメーター情報を編集する操作手順は、以下のとおりです。

1. [パラメーター]タブで、編集するパラメーター情報を選択します。

🕑 ポイント

.....

パラメーター情報は、ソフトウェア設定情報の配下にツリー形式で表示されます。

ソフトウェア設定情報の前の[]]部分をクリックすると、追加されたパラメーター情報が表示されます。

2. [編集]ボタンをクリックすると、[パラメーター編集]ウィンドウが表示されます。

型が「string」の場合、ページ下部の設定値の下に、空文字のチェックボックスが表示されます。

図7.7 [パラメーター編集]ウィンドウ

パラメーター編集							×				
テナント	テナント (グローバル)										
パラメー	パラメーター名 Sample1										
説明											
変更		キー名			ラベル		型		設定値	<u>ā</u>	
	hostna	ime		ホスト名			string	host1			
hostnai	me									初期化	
ホスト	名										
	設定値	ho	ost1								
			空文字								
									ОК	キャンセル]

- 3. 必要に応じて、パラメーター情報を編集します。
- 4. [編集]ボタンをクリックすると、パラメーター情報が編集された旨のメッセージが表示され、編集された[パラメーター]タブの一覧 に戻ります。

関 ポイント

- ・ パラメーター情報が編集されると、「変更」欄に「あり」が表示されます。
- ・ パラメーターの追加で指定したすべての項目が編集可能です。
- ・ [パラメーター編集]ウィンドウの操作手順は、[パラメーター追加]ウィンドウと同じ手順になります。 詳細は、「7.3.6 パラメーター情報の追加」を参照してください。

.

7.3.8 パラメーター情報の削除

パラメーター情報を削除する操作手順は、以下のとおりです。

1. [パラメーター]タブで、削除するパラメーター情報を選択します。

🕑 ポイント

.....

パラメーター情報は、ソフトウェア設定情報の配下にツリー形式で表示されます。

ソフトウェア設定情報の前の[▶]部分をクリックすると、追加されたパラメーター情報が表示されます。

2. [削除]ボタンをクリックすると、削除確認のメッセージを表示されます。

3. [はい]ボタンをクリックすると、選択したパラメーラー情報が削除されます。

削除しようとしたパラメーターを使用しているL-Platformテンプレートが存在した場合は、エラーメッセージが表示され、削除されません。

7.3.9 ソフトウェア情報の関連付け

ソフトウェア設定情報では、ソフトウェアに設定できるパラメーターを定義していますが、対象となるソフトウェアを指定していません。そのため、ソフトウェア設定情報とソフトウェア情報を関連付ける必要があります。

ソフトウェア設定情報1つに対して、複数のソフトウェア情報を関連付けることができます。そのため、ソフトウェアに複数のエディションが存在しても、ソフトウェア設定情報を1つに集約できます。ただし、Windows版とLinux版は混在できないため、このような場合は別々のソフトウェア設定情報を作成する必要があります。

ソフトウェア設定情報とソフトウェア情報を関連付けると、ソフトウェアにパラメーターを設定するソフトウェア設定スクリプトがL-Serverの 配備時に動作します。ただし、ソフトウェア設定情報にあるすべてのデフォルト値が省略されていると動作しません。ソフトウェア設定ス クリプトが動作するのは、パラメーター情報で値を設定した場合になります。

ソフトウェア設定情報とソフトウェアを関連付ける操作手順は、以下のとおりです。

- 1. [パラメーター]タブで、関連付けるソフトウェア設定情報を選択します。
- 2. [関連付け]ボタンをクリックすると、[ソフトウェア設定関連付け]ウィンドウが表示されます。

ただし、[関連付け]ボタンは、ソフトウェア設定情報を選択した場合だけ表示されます。

図7.8 [ソフト設定関連付け]ウィンドウ

nters R	tage Applicat 明連付けされた	ion Server	設定情報 ひみ表示する				
	テナント	カテゴリ	ソフトウェア名	バージョン	ライセンス	サポート	ソフトウェアル
√ (2	グローバル)	Middle	Interstage Appli	V10.0.0			SW0000015
√ (2	グローバル)	Middle	Interstage Web	V10.0.0			SW00000016
V (2	グローバル)	Middle	Interstage Web	V10.0.0			SW00000017
✓ (2	グローバル)	Middle	Interstage Appli	V10.0.0			SW0000018
						3	定 キャンセル

- 3. ソフトウェア設定情報と関連付けるソフトウェア情報のチェックボックスをチェックします。
- 4. [確定]ボタンをクリックすると、ソフトウェア設定情報とソフトウェア情報を関連付けます。
- 5. [関連付けされたソフトウェアだけ表示する]チェックボックスをチェックした場合、すでに関連付けされたソフトウェアだけ一覧に 表示されます。

チェックされていない場合、以下のソフトウェアを表示します。

- 本ソフトウェア設定情報に関連付けされたソフトウェア

ソフトウェア設定	ソフトウェア				
方式	カテゴリ	OS			
コマンド	・ ミドルウェア	・なし			
	・ アプリケーション	• Windows			
		• Windows64			
シェル	・ ミドルウェア	・なし			
	・ アプリケーション	• Linux			
		• Linux64			

- ほかのソフトウェア設定情報と関連付けされていない以下の条件のソフトウェア

7.4 テンプレート情報の操作

テンプレート情報では、L-Platformテンプレートの構成を定義します。

図7.9 [テンプレート]タブ

L-Platformテンプレート			_ 🗆 ×
テンプレート セグメント イメージ ソフトウェア	パラメーター		
• • • •	Manual_Sample		新規作成
キーワード Manual_Sample 絞り込み	Business AUTO1	自動選択	編集
並び順 昇順降順 <1 ▼ / 1 頁 >	£		参照作成
Manual_Sample 非公開	1Ni		ĭilR≎
Manual用			Нлы
			公開
			パラメーター設定
	テンプレート情報	-	
	テンプレート名	Manual_Sample	
	テナント	(グローバル)	
	テンプレートID	template-132f21c21dd	
	説明	Manual用	
	キーワード	Manual_Sample	
	最大セグメント数	1 (8	
	最大イメージ数	1 (8	

ボタン名称	説明
パラメーター設定	テンプレート情報で使用するパラメーターの設定をします。
	詳細は、「7.4.1 テンプレート情報で使用するパラメーターの設定」を参照してください。

7.4.1 テンプレート情報で使用するパラメーターの設定

L-Platformテンプレート作成時に使用するパラメーターの設定手順は、以下のとおりです。

1. [L-Platformテンプレート]ウィンドウの[テンプレート]タブで、パラメーターを設定するL-Platformテンプレートを選択し、[パラメー ター設定]ボタンをクリックします。

[パラメーター設定]ウィンドウが表示されます。

- 2. L-Platformテンプレートで使用するパラメーターのチェックボックスをチェックし、[設定]ボタンをクリックします。 パラメーターの設定は、未設定または複数選択ができます。
- 3. パラメーターが設定されます。

パラメーター設定				_ 0 ×
商品発注システム				
名	称			
▼ AP APサーバー				
OS Windows Server 2	008 R2 Enterprise	SW00000006		
▼ Middle Interstage Applica	tion Server Enterprise Edition	SW00000018		
✓ Param 大規模向:	けの構成	PM00000005		
Paramの大規模向けの構成		スペック	その他	規定値に設定
hostname	localhost			
portnumber	8080			
connection	64			
memsize	2048			
			設定	キャンセル

図7.10 [パラメーター設定]ウィンドウ

パラメーターが1つもチェックされていないソフトウェアで、最初にチェックしたパラメーターが規定値として設定された場合、一覧のパラ メーターの前に「*」が表示されます。

パラメーターを選択している場合は、[規定値に設定]ボタンが表示されます。

[規定値に設定]ボタンを選択すると、設定中の規定値を解除し、選択中のパラメーターを規定値に設定します。

第8章 L-Platform

本章では、ソフトウェアパラメーター設定機能に関連するL-Platform管理画面の操作方法について説明します。

8.1 L-Platform管理画面

L-Platform管理画面は、L-Platformの利用申請やL-Platformの管理をすることができます。この画面は、RORコンソールから[L-Platform] タブを選択すると表示されます。L-Platform管理画面の詳細については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操 作ガイド テナント管理者編』または『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイド テナント利用者編』の「L-Platform」を参照してください。

L-Platform管理画面の中でソフトウェアパラメーター設定機能の固有な操作は、ソフトウェアの構成変更になります。この画面は、利用申請の構成変更ページにある[その他]タブです。

利用申請から[その他]タブを表示するまでの操作を、以下に説明します。また、利用申請を申し込む操作についても合わせて説明します。

1. L-Platformの利用申請

操作メニューから[利用申請]を選択すると、[利用申請]ページが表示されます。[新規でL-Platform利用申請]ボタンをクリックすると、[テンプレート検索]ページが表示されます。

2. L-Platformテンプレートの選択とL-Platform名の入力

利用するL-Platformテンプレートを選択してから、[次へ]ボタンをクリックします。[基本情報]ページでL-Platform名を入力してから、 [次へ]ボタンをクリックすると、[構成変更]ページが表示されます。

3. サーバの選択と[その他]タブの表示

「L-Platformの構成」からソフトウェアの構成変更するサーバを選択します。「構成要素の詳細」に[その他]タブを表示します。

4. ソフトウェアの構成変更

[その他]タブでソフトウェアの構成変更をします。

詳細については、「8.2 ソフトウェアの構成変更」を参照してください。

5. 利用申請の申込

[構成変更]ページの[次へ]ボタンをクリックすると、[構成確認]ページが表示されます。[次へ]ボタンをクリックすると、[利用許諾] ページが表示されます。[作成]ボタンをクリックすると、L-Platformの利用申請が申し込まれます。



L-Platformテンプレートの構成変更不可の場合は、[その他]タブは表示されません。

8.2 ソフトウェアの構成変更

[その他]タブでは、サーバにインストールされているオペレーティングシステムやミドルウェアなどのソフトウェアを確認することができます。また、[セットアップ]でソフトウェアに設定するパラメーターを選択することができます。

図8.1 [構成変更]ページ:サーバの編集(その他)

利用申請							_ & ×
L-Platform新規作成	1.テンプレート検索	2.基本情報	3.構成変更	4.構成確認	5.利用許諾	完了	
Step 3. L-Platformの構成やフ	ー スペックを変更します。	オブションをドラッ	グ&ドロップで追加す	- けることもできます			
MwPara_TP001_		テン	プレート名:MwPan	a_TP001_		追加オブション	
MNGMNT adminian2	ge Application Serve V9.2.0	er Enterprise Ed	ペック NIC lition	その他 ■ ■ ▼	192.0.2.0/24	サーバ OS (ない) 用途 (ない)	セガメント その他 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
						〈戻る〉〉	なへ > キャンセル

項目	説明
セットアップ	ソフトウェアをセットアップする内容を選択します。
	ただし、L-Platformテンプレートの作成時に、ソフトウェアのパラメーター情報を設定してある場合に表示されます。

第5部 リファレンス

ここでは、ソフトウェアパラメーター設定機能が提供する各種コマンドおよびファイルについて説明しています。

第9章 保守	53
第10章 L-Platformテンプレート管理コマンド	56
第11章 XMLファイル	71
第12章 ミドルウェアパラメーター設定情報	78
第13章 トラブル対処の流れ	135
第14章 配備に関するトラブルシューティング	137
第15章 ソフトウェア情報およびソフトウェアID	141
第16章 ソフトウェア設定ID	146

第9章 保守

本章では、ソフトウェアパラメーター設定機能を利用する際に出力されるログなどの保守に関して説明します。

9.1 ログ出力

ソフトウェアパラメーター設定機能が出力するログについて説明します。

ソフトウェアパラメーター設定機能が出力するログを大きく分けると以下の2つに分類されます。

- 管理サーバ上のログ
- L-Server上のログ

9.1.1 管理サーバ上のログ

管理サーバ上のログには以下のものがあります。

ログ名	説明	ファイル サイズ	世代数
vsys_trace_log	L-PlatformテンプレートおよびL-Platformを管理する機能のト レースログが出力されます。	10MB	10世代(注)
vsys_batch_log	L-PlatformテンプレートおよびL-Platformを管理する機能のバッ チ処理部分のトレースログが出力されます。		
イベントログ	L-Platform管理画面を利用中に発生したエラー情報などが出 力されます。なお、イベントログについては、「第18章 イベント ログ」を参照してください。	_	_

注)保存世代数が10世代を超えた場合は、古い順から削除されます。

出力先

ログの出力先は以下のとおりです。

[Windows]

出力先フォルダー	出力先ファイル
<serverview orchestratorのインストールディレクトリ="" resource="">¥RCXCFMG¥logs</serverview>	ログ名と同じです。

[Linux]

出力先ディレクトリ	出力先ファイル
/var/opt/FJSVcfmg/logs	ログ名と同じです。

出力形式

出力形式
<日時> <ログレベル> <メッセージID> <メッセージ本文>

項目		説明
日時	yyyy-mm-	dd hh:mm:ss,sss
ログレベル	以下のいずれかです。	
	INFO	情報レベルのメッセージ

項目	説明	
	WARM	警告レベルのメッセージ
	ERROR	誤りレベルのメッセージ
	FATAL	致命的レベルのメッセージ
メッセージID(注)	プレフィッ	クス("VSYS")とメッセージ番号
メッセージ本文(注)	メッセージの内容	

注)メッセージIDとメッセージ本文の詳細については、「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。

出力先変更手順

出力先変更手順については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 運用ガイド』の「調査ログ」を参照してください。

9.1.2 L-Server上のログ

L-Server上のログには以下のものがあります。

ログ名	説明	ファイル サイズ	世代数
cfmg_agent_filetrancefer_log	ファイル受信を待ち受けるエージェントのログが出力さ れます。このログにより、エージェント側の処理が開始 できたかを判断できます。	制限なし	
cfmg_agent_setupmw_log	ソフトウェア設定情報のスクリプトパッケージ、環境変数 設定ファイル、パラメーター情報のパラメーターパッケー ジをファイル転送する処理と、スタートアップスクリプトの 標準出力がログとして出力されます。		
cfmg_agent_checkstatus_log	スタートアップスクリプトの実行が完了したかを判定する 処理のログが出力されます。		

出力先

ログの出力先は以下のとおりです。

[Windows]

出力先フォルダー	出力先ファイル
$\% System Drive \% \ensuremath{\sc Fu} Program Data \ensuremath{\sc Fu} FJSV swrbac \ensuremath{\sc Fu} cfmg \ensuremath{\sc Fu} log$	ログ名と同じです。
なお、Windows Server 2003の場合は、	
%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Fujitsu ¥FJSVswrbac¥cfmg¥log	

G 注意

ディレクトリ「%SystemDrive%¥ProgramData」や「Application Data」は「隠しフォルダー」のため、通常は表示されません。

そのため、このディレクトリ内を参照するには、以下のいずれかの方法で行います。

- フォルダー名として直接「%SystemDrive%¥ProgramData」や「%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data」を指定します。
- エクスプローラにおいて、[整理]メニューの[フォルダーと検索のオプション]を選択し、[表示]タブで[ファイルとフォルダーの表示] 「隠しファイル、隠しフォルダー、または隠しドライブを表示する」を選択し適用します。

[Linux]

出力先ディレクトリ	出力先ファイル
/var/opt/FJSVswrbac/cfmg/log	ログ名と同じです。

出力形式

ログの出力形式はすべて同じであり、以下のとおりです。

出力形式
<日時> <ログレベル> <メッセージID> <メッセージ本文>

項目		説明
日時	yyyy-mm-	-dd hh:mm:ss,sss
ログレベル	以下のいずれかです。	
	INFO	情報レベルのメッセージ
	WARM	警告レベルのメッセージ
	ERROR	誤りレベルのメッセージ
	FATAL	致命的レベルのメッセージ
メッセージID(注)	プレフィッ	クス("VSYS")とメッセージ番号
メッセージ本文(注)	メッセージ	ⁱ の内容

注)メッセージIDとメッセージ本文の詳細については、「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。

出力先変更手順

管理対象サーバ上のログは出力先を変更することはできません。

第10章 L-Platformテンプレート管理コマンド

本章では、L-Platformテンプレート管理関連のコマンドについて説明します。

L-Platformテンプレート管理関連コマンドの格納先を以下に示します。

・ 以下のコマンドの格納先

```
cfmg_listsoftsetup(ソフトウェア設定情報の一覧表示)
cfmg_addsoftsetup(ソフトウェア設定情報の登録)
cfmg_updatesoftsetup(ソフトウェア設定情報の変更)
cfmg_deletesoftsetup(ソフトウェア設定情報の関連付けの一覧表示)
cfmg_listsoftsetuplink(ソフトウェア設定情報の関連付けの設定)
cfmg_attachsoftsetup(ソフトウェア設定情報の関連付けの設定)
cfmg_detachsoftsetup(ソフトウェア設定情報の関連付けの解除)
cfmg_listparam(パラメーター情報の一覧表示)
cfmg_addparam(パラメーター情報の登録)
cfmg_updateparam(パラメーター情報の変更)
cfmg_deleteparam(パラメーター情報の削除)
cfmg_uploadpackage(パッケージファイルのアップロード)
```

[Windows]

[Linux]

/opt/FJSVcfmg/bin/

10.1 概要

ここでは、L-Platformテンプレート管理関連のコマンドについて説明します。

L-Platformテンプレート管理コマンドで登録することができるのは、グローバルテンプレートだけです。

L-Platformテンプレート管理コマンドを利用できる人は、インフラ管理者です。

G 注意

入力ファイルのそれぞれの項目の設定値について、文字列に改行やタブなど制御文字を含めることはできません。

<タグ名>~</タグ名>を1行に記述する必要があります。

また、以下の文字についても含めることはできません。

• 「<」、「>」、「&」、「"」、「'」

さらに、上記の文字をエンティティ参照で表した以下の文字列についても含めることはできません。

• \\$lt;\\\\$gt;\\\\$amp;\\\\$quot;\\\\$apos;\

.....

10.1.1 L-Platform テンプレート管理コマンドの復帰値とエラーメッセージ

L-Platformテンプレート管理コマンドの結果は復帰値を確認してください。

復帰値が0の場合は正常終了です。

復帰値が0以外の場合は異常終了でエラーメッセージを出力します。

復帰値とエラーメッセージの詳細については、「第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ」を参照してください。 復帰値の確認方法の例を以下に示します。 [Windows]

```
C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_deletesoftsetup -f -id SS0000001
C:¥Users¥Administrator> echo %errorlevel%
O
C:¥Users¥Administrator>
```

[Linux]

```
# /opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_deletesoftsetup -f -id SS0000001
# echo $?
0
#
```



```
━
管理サーバがLinuxの場合、L-Platform テンプレート管理コマンドを実行する際の環境変数LANGは「ja_JP.UTF-8」にしてください。
```

10.1.2 L-Platform テンプレート管理コマンドの説明形式

L-Platform テンプレート管理コマンドの説明形式を説明します。

記述形式

コマンドの記述形式を説明します。

コマンド名 オプション オプション1 | オプション2 [オプション] [・・・]

コマンドの各項目を説明します。

項目	説明
コマンド名	コマンド名を記述します。
オプション	オプション名またはオプション名とパラメーターを記述します。
オプション1 オプ ション2	オプション1またはオプション2のどちらかを選択して記述します。
[オプション]	省略できるオプションです。
[…]	複数のオプションを記述します。ただし、省略できます。

機能説明

コマンドの機能を説明します。

オプションの説明

オプションを説明します。

出力形式

正常終了した場合の出力形式を説明します。

注意事項

コマンド利用時の注意事項を説明します。

使用例

コマンドの使用例を示します。

10.2 ソフトウェア設定情報操作

ソフトウェア設定情報を操作するコマンドについて説明します。

すでに登録してあるソフトウェア設定情報を使用することもできます。

詳細については、「第16章 ソフトウェア設定ID」を参照してください。

10.2.1 cfmg_listsoftsetup(ソフトウェア設定情報の一覧表示)

記述形式

cfmg_listsoftsetup [-v] [-utf8]

機能説明

登録されているソフトウェア設定情報の一覧をXML形式で出力します。

オプションの説明

オプション	説明
-v	詳細形式で出力します。 省略時は、簡易形式で出力します。
-utf8	UTF-8で出力します。 本オプションは、Windows版だけ有効です。 Windows版の省略時は、シフトJIS(Windows-31J)で出力します。 Linux版の場合は、指定の有無に関らずUTF-8で出力します。

出力形式

登録されているすべてのソフトウェア設定情報を以下の形式で出力します。

詳細形式	簡易形式	出力形式
0	0	xml version="1.0" encoding="UTF-8"?
0	0	<softwaresetups></softwaresetups>
0	0	<softwaresetup></softwaresetup>
0	0	<id>[ソフトウェア設定ID]</id>
0	0	<ownerorg>[オーナー(組織)]</ownerorg>
0	0	<pre><owneruser>[オーナー(ユーザ)]</owneruser></pre>
0	0	<name>[ソフトウェア設定の名前]</name>
0	0	<version>[バージョン]</version>
0	0	<description>[説明]</description>
0	0	<reserved>[予約済みのIDであるか]<reserved></reserved></reserved>
0	-	<method>[パラメーター設定の方式]</method>
0	-	<package>[スクリプトパッケージのファイル名]</package>
0	—	<pre><pre>cparameters></pre></pre>
0	-	<pre><pre>cparameter></pre></pre>
0	-	<key>[パラメーターのキー]</key>
0	-	<type>[パラメーターの値の型]</type>
0	-	<value>[設定必須パラメーターのデフォルト値]</value>
0	-	< abel>[パラメーターのラベル] abel
0	-	<description>[パラメーターの説明]</description>
0	-	
0	-	
0	-	
0	0	
0	0	
0	0	

○:出力される情報を示します。

-:出力されない情報を示します。

注意事項

登録されているソフトウェア設定情報が存在しない場合は以下の形式で出力します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<softwareSetups />
```

使用例

[Windows]

C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_listsoftsetup -v
<pre><?xml version="1.0" encoding="Windows-31J"?></pre>
<softwaresetups></softwaresetups>
<softwaresetup></softwaresetup>
<id>R\$0000001</id>
<ownerorg>cfmgadm</ownerorg>
<owneruser>cfmgadm</owneruser>
<name>Interstage Application Server</name>
<description>IJServer(J2EE)の定義設定</description>
<reserved>1</reserved>
<method>cmd</method>
<package>setupscript_isaps_cmd.zip</package>
<pre><pre>cparameters></pre></pre>
<pre><pre>parameter></pre></pre>
<key>hostname</key>
<type>string</type>
<value>#{server.os.computername}</value>
<iabel〉ホスト名< iabel〉<="" td=""></iabel〉ホスト名<>
<description>ホスト名を設定する</description>
<pre><pre>parameter></pre></pre>
<key>ipaddress</key>
<type>string</type>
<value>#{server.nic.ipaddress}</value>
< abe >IPアドレス abe
<description>IPアドレスを設定する</description>

[Linux]

```
<type>string</type>
<value>#[server.os.computername]</value>
<label>ホスト名</label>
<description>ホスト名を設定する</description>
</parameter>
<parameter>
<parameter>
<key>ipaddress</key>
<type>string</type>
<value>#[server.nic.ipaddress]</value>
<label>IPアドレス</label>
<description>IPアドレスを設定する</description>
</parameter>
</parameter>
</softwareSetup>
</softwareSetup>
```

10.2.2 cfmg_addsoftsetup(ソフトウェア設定情報の登録)

記述形式

cfmg_addsoftsetup - xml ソフトウェア設定情報ファイルのパス

機能説明

ソフトウェア設定を登録します。

ソフトウェア設定情報ファイルの詳細については、「11.1 ソフトウェア設定情報」を参照してください。

オプションの説明

オプション	説明
-xml	ソフトウェア設定情報ファイルの絶対パスまたは相対パスをASCIIコードの印字可能文字からなる文字 列で指定します。 パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

出力形式

登録されたソフトウェア設定IDを以下の形式で出力します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<result>
<id>[ソフトウェア設定ID]</id>
</result>
```

注意事項

ありません。

使用例

[Windows]

```
C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_addsoftsetup -xml C:¥tmp¥template_test¥softsetup
¥softwaresetup. xml
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J"?>
<result>
<id>SS00000001</id>
</result>
```

[Linux]

<u>10.2.3 cfmg_updatesoftsetup(ソフトウェア設定情報の変更)</u>

記述形式

cfmg_updatesoftsetup - xml ソフトウェア設定情報ファイルのパス

機能説明

登録されているソフトウェア設定情報を変更します。

ソフトウェア設定情報ファイルの詳細については、「11.1 ソフトウェア設定情報」を参照してください。

オプションの説明

オプション	説明
-xml	ソフトウェア設定情報ファイルの絶対パスまたは相対パスをASCIIコードの印字可能文字からなる文字列 で指定します。 パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

出力形式

ありません。

注意事項

本製品が登録しているソフトウェア設定情報は変更できません。

本製品が登録しているソフトウェア設定情報については、「第16章 ソフトウェア設定ID」を参照してください。

使用例

[Windows]

 $\label{eq:c:star} C: \ensuremath{\texttt{V}} Users \ensuremath{\texttt{Y}} Administrator \ensuremath{\texttt{C}}: \ensuremath{\texttt{Y}} Users \ensuremath{\texttt{Y}} Users \ensuremath{\texttt{Y}} Administrator \ensuremath{\texttt{C}}: \ensuremath{\texttt{Y}} Users \ensuremat$

[Linux]

/opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_updatesoftsetup -xml /tmp/template_test/softsetup/upsoftsetup.xml

<u>10.2.4 cfmg_deletesoftsetup(ソフトウェア設定情報の削除)</u>

記述形式

cfmg_deletesoftsetup [-f] -id ソフトウェア設定ID

機能説明

ソフトウェア設定情報を削除します。

オプションの説明

オプション	説明
-f	確認せずに削除します。 省略時は、削除を確認するプロンプトを出力します。
-id	削除したいソフトウェア設定IDを指定します。

出力形式

ありません。

注意事項

本製品が登録しているソフトウェア設定情報は変更できません。

本製品が登録しているソフトウェア設定情報については、「第16章 ソフトウェア設定ID」を参照してください。

使用例

[Windows]

C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_deletesoftsetup -id SS0000001 ソフトウェア設定情報を削除してよろしいですか。(Y/N) y

[Linux]

/opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_deletesoftsetup -id SS0000001 ソフトウェア設定情報を削除してよろしいですか。(Y/N) y

10.3 ソフトウェア設定情報関連付け操作

ソフトウェア設定情報関連付けを操作するコマンドについて説明します。

すでにソフトウェア情報と関連付けがされているソフトウェア設定情報もあります。

詳細については、「第15章 ソフトウェア情報およびソフトウェアID」および「第16章 ソフトウェア設定ID」を参照してください。

10.3.1 cfmg_listsoftsetuplink(ソフトウェア設定情報の関連付けの一覧表示)

記述形式

cfmg_listsoftsetuplink [-utf8]

機能説明

関連付けされているソフトウェア設定情報とソフトウェア情報の一覧をXML形式で出力します。

オプションの説明

オプション	説明
-utf8	UTF-8で出力します。
	本オプションは、Windows版だけ有効です。
	Windows版の省略時は、シフトJIS(Windows-31J)で出力します。
	Linux版の場合は、指定の有無に関らずUTF-8で出力します。

出力形式

関連付けされているすべてのソフトウェア設定情報を以下の形式で出力します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<softwareSetups>
```

```
<softwareSetup>
        <id>[ソフトウェア設定ID]</id>
        <owner0rg>[オーナー(組織)]</owner0rg>
        \langle ownerUser \rangle [t - t - (t - t)] \langle ownerUser \rangle
        <name>[ソフトウェア設定の名前]</name>
        <softwares>
            <software>
                <id>[ソフトウェアID]</id>
                <owner0rg>[オーナー(組織)]</owner0rg>
                \langle ownerUser \rangle [ t - t - ( - t) ] \langle /ownerUser \rangle
                <name>[ソフトウェア名]</name>
                <version>[バージョン]</version>
            </software>
        </softwares>
    </softwareSetup>
</softwareSetups>
```

注意事項

関連付けされているソフトウェア設定情報が存在しない場合は以下の形式で出力します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<softwareSetups />
```

使用例

[Windows]

;:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_listsoftsetuplink {?xml version="1.0" encoding="Windows-31J"?>
<pre>(softwareSetups></pre>
<softwaresetup></softwaresetup>
<id>\$\$\$0000001</id>
<ownerorg>cfmgadm</ownerorg>
<owneruser>cfmgadm</owneruser>
<name>SOFTWARE_SETUP_SAMPLE</name>
<softwares></softwares>
<software></software>
<id>\$\$\$00000112</id>
<ownerorg>cfmgadm</ownerorg>
<pre><owneruser>cfmgadm</owneruser></pre>
<name>Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)</name>
<version>5.5</version>
<pre></pre>

【Linux】
```
<id>SW00000112</id>
<ownerOrg>cfmgadm</ownerOrg>
<ownerUser>cfmgadm</ownerUser>
<name>Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)</name>
<version>5.5</version>
</software>
</softwares>
</softwaresetup>
</softwareSetup>
```

<u>10.3.2 cfmg_attachsoftsetup(ソフトウェア設定情報の関連付けの設定)</u>

記述形式

cfmg_attachsoftsetup -id ソフトウェア設定ID -sid ソフトウェアID

機能説明

ソフトウェア設定情報とソフトウェア情報の関連付け設定します。

オプションの説明

オプション	説明
-id	関連付けを設定するソフトウェア設定IDを指定します。
-sid	関連付けを設定するソフトウェアIDを指定します。

出力形式

ありません。

注意事項

ありません。

使用例

[Windows]

C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_attachsoftsetup -id SS00000001 -sid SW00000112

[Linux]

```
# /opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_attachsoftsetup -id SS00000001 -sid SW00000112
```

10.3.3 cfmg_detachsoftsetup(ソフトウェア設定情報の関連付けの解除)

記述形式

cfmg_detachsoftsetup -id ソフトウェア設定ID -sid ソフトウェアID

機能説明

ソフトウェア設定情報とソフトウェア情報の関連付けを解除します。

オプションの説明

オプション	説明
-id	関連付けを解除するソフトウェア設定IDを指定します。

オプション	説明
-sid	関連付けを解除するソフトウェアIDを指定します。

出力形式

ありません。

注意事項

ありません。

使用例

[Windows]

C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_detachsoftsetup -id SS00000001 -sid SW00000112

【Linux】

/opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_detachsoftsetup -id SS00000001 -sid SW00000112

10.4 パラメーター情報操作

パラメーター情報を操作するコマンドについて説明します。

10.4.1 cfmg_listparam(パラメーター情報の一覧表示)

記述形式

cfmg_listparam [-v] [-utf8] -id ソフトウェア設定ID

機能説明

登録されているパラメーター情報の一覧をXML形式で出力します。

オプションの説明

オプション	説明
-V	詳細形式で出力します。 省略時は、簡易形式で出力します。
-utf8	UTF-8で出力します。 本オプションは、Windows版だけ有効です。 Windows版の省略時は、シフトJIS(Windows-31J)で出力します。 Linux版の場合は、指定の有無に関らずUTF-8で出力します。
-id	出力するソフトウェア設定IDを指定します。

出力形式

ソフトウェア設定情報に登録されているすべてのパラメーター情報を以下の形式で出力します。

詳細形式	簡易形式	出力形式
0	0	xml version="1.0" encoding="UTF-8"?
0	0	<pre><parameterinfolist></parameterinfolist></pre>
0	0	<pre><pre>parameterInfo></pre></pre>
0	0	<id>[パラメーターID]</id>
0	0	<ownerorg>[オーナー(組織)]</ownerorg>

詳細形式	簡易形式	出力形式
0	0	<owneruser>[オーナー(ユーザ)]</owneruser>
0	0	<softwaresetupid>[ソフトウェア設定ID]</softwaresetupid>
0	—	<lcid>[ロケールID]</lcid>
0	0	<name>[パラメーターの名前]</name>
0	0	<description>[説明]</description>
0	—	<package>[パラメーターパッケージのファイル名]</package>
0	0	<pre><pre>cparameters></pre></pre>
0	0	<pre><pre>parameter></pre></pre>
0	0	<key>[パラメーターのキー]</key>
0	0	<value>[パラメーターの値]</value>
0	0	
-	—	
0	0	
0	0	
-	—	
0	0	

○:出力される情報を示します。

-:出力されない情報を示します。

注意事項

ソフトウェア設定情報に登録されているパラメーター情報が存在しない場合は以下の形式で出力します。

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?> <propertySets />

使用例

[Windows]

【Linux】

<pre># /opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_listparam -id SS0000001</pre>
xml version="1.0" encoding="UTF-8"?
<pre><parameterinfolist></parameterinfolist></pre>
<parameterinfo></parameterinfo>
<id>PM0000001</id>
<ownerorg>cfmgadm</ownerorg>
<pre><owneruser>cfmgadm</owneruser></pre>
$<\!\!\text{softwareSetupId}\!>\!\!\text{SS00000001}<\!/\!\!\text{softwareSetupId}\!>$
<pre><name>PARAMETERINF0_SAMPLE</name></pre>
<description>Sampleの設定</description>

記述形式

cfmg_addparam - xml パラメーター情報ファイルのパス

機能説明

パラメーター情報を登録します。

パラメーター情報ファイルの詳細については、「11.2 パラメーター情報」を参照してください。

オプションの説明

オプション	説明
-xml	パラメーター情報ファイルの絶対パスまたは相対パスをASCIIコードの印字可能文字からなる文字列で 指定します。 パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

出力形式

登録されたパラメーターIDを以下の形式で出力します。

注意事項

ありません。

使用例

[Windows]

```
C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_addparam -xml C:¥tmp¥template_test¥parameter¥parameter.xml
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J"?>
<result>
<id>PM00000001</id>
</result>
```

【Linux】

<u>10.4.3 cfmg_updateparam(パラメーター情報の変更)</u>

記述形式

cfmg_updateparam -xml パラメーター情報ファイルのパス

機能説明

パラメーター情報を変更します。

パラメーター情報ファイルの詳細については、「11.2 パラメーター情報」を参照してください。

オプションの説明

オプション	説明
-xml	パラメーター情報ファイルの絶対パスまたは相対パスをASCIIコードの印字可能文字からなる文字列で指定します。
	パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

出力形式

ありません。

注意事項

ありません。

使用例

[Windows]

 $\texttt{C:} \texttt{HUsers} \texttt{Administrator} \texttt{C:} \texttt{Fujitsu} \texttt{ROR} \texttt{RCXCFMG} \texttt{Fin} \texttt{Lorm} \texttt{administrator} \texttt{C:} \texttt{Fin} \texttt{administrator} \texttt{C:} \texttt{Fujitsu} \texttt{ROR} \texttt{RCXCFMG} \texttt{Fin} \texttt{Lorm} \texttt{administrator} \texttt{C:} \texttt{Fin} \texttt{Administrator} \texttt{C:} \texttt{Fin} \texttt{Administrator} \texttt{C:} \texttt{Fujitsu} \texttt{ROR} \texttt{RCXCFMG} \texttt{Fin} \texttt{Comministrator} \texttt{C:} \texttt{Fin} \texttt{C:} \texttt{Comministrator} \texttt{C:} \texttt{Fujitsu} \texttt{CCCFMG} \texttt{Comministrator} \texttt{C:} \texttt{C:} \texttt{Comministrator} \texttt{Comministrator} \texttt{C:} \texttt{Comministrator} \texttt{C:} \texttt{Comministrator} \texttt{C:} \texttt{Comministrator} \texttt{Comministrato$

[Linux]

/opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_updateparam -xml /tmp/template_test/parameter/parameter.xml

10.4.4 cfmg_deleteparam(パラメーター情報の削除)

記述形式

cfmg_deleteparam [-f] -id パラメーターID

機能説明

パラメーター情報を削除します。

オプションの説明

オプション	説明
-f	確認せずに削除します。 省略時は、削除を確認するプロンプトを出力します。
-id	削除したいパラメーターIDを指定します。

出力形式

ありません。

注意事項

ありません。

使用例

[Windows]

```
C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_deleteparam -id PM00000001
パラメーター情報を削除してよろしいですか。(Y/N) y
```

[Linux]

```
# /opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_deleteparam -id PM00000001
パラメーター情報を削除してよろしいですか。(Y/N) y
```

10.5 パッケージファイル操作

パッケージファイルを操作するコマンドについて説明します。

10.5.1 cfmg_uploadpackage(パッケージファイルのアップロード)

記述形式

cfmg_uploadpackage -id ソフトウェア設定ID | パラメーターID -pkg パッケージファイルのパス

機能説明

ソフトウェア設定情報の場合はスクリプトパッケージ、パラメーター情報の場合はパラメーターパッケージのパッケージファイルをアップ ロードします。

アップロードできるファイルサイズは、2MB以下です。

パッケージファイルの詳細については、「6.1.4 パッケージファイル」を参照してください。

オプションの説明

オプション	説明
-id	パッケージファイルをアップロードするソフトウェア設定IDまたはパラメーターIDを指定します。 スクリプトパッケージの場合はソフトウェア設定ID、パラメーターパッケージの場合はパラメーターIDを指定 します。
-pkg	パッケージファイルの絶対パスまたは相対パスをASCIIコードの印字可能文字からなる文字列で指定します。 パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

出力形式

ありません。

注意事項

スクリプトパッケージやパラメーターパッケージのzipファイルには、日本語名のファイルを含めることはできません。

本製品が登録しているソフトウェア設定情報のスクリプトパッケージはアップロードできません。

使用例

[Windows]

C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_uploadpackage -id SS00000001 -pkg C:¥tmp¥template_test¥pkg/ script.zip

【Linux】

/opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_uploadpackage -id SS00000001 -pkg /tmp/template_test/pkg/script.zip

10.5.2 cfmg_downloadpackage(パッケージファイルのダウンロード)

記述形式

cfmg_downloadpackage [-f] -id ソフトウェア設定ID | パラメーターID -dir ダウンロード先のパス

機能説明

ソフトウェア設定情報の場合はスクリプトパッケージ、パラメーター情報の場合はパラメーターパッケージのパッケージファイルをダウン ロードします。

オプションの説明

オプション	説明
-f	ダウンロード先のパスにパッケージファイルが存在する場合、確認せずに上書きします。 省略時は、上書きを確認するプロンプトを出力します。
-id	パッケージファイルをダウンロードするソフトウェア設定IDまたはパラメーターIDを指定します。 スクリプトパッケージの場合はソフトウェア設定ID、パラメーターパッケージの場合はパラメーターIDを指定します。
-dir	ダウンロード先の絶対パスまたは相対パスをASCIIコードの印字可能文字からなる文字列で指定します。 パスに空白を含む場合は、「"」で囲みます。

出力形式

ありません。

注意事項

ありません。

使用例

[Windows]

C:¥Users¥Administrator> C:¥Fujitsu¥ROR¥RCXCFMG¥bin¥cfmg_downloadpackage -id SS00000001 -dir C:¥tmp¥template_test¥pkg ¥tmp

[Linux]

/opt/FJSVcfmg/bin/cfmg_downloadpackage -id SS00000001 -dir /tmp/template_test/pkg/tmp

第11章 XMLファイル

本章では、XMLファイル関連について説明します。

11.1 ソフトウェア設定情報

ここでは、ソフトウェア設定情報を記述するXMLドキュメントについて説明します。

11.1.1 概要

ソフトウェアに設定できるパラメーターの構成情報を記述したXMLドキュメントです。

ソフトウェア設定情報の詳細については、「6.1 パラメーターの定義」を参照してください。

ソフトウェア設定情報には、以下の3通りがあります。

- a. 本製品で提供するもの
- b. Webで公開するもの
- c. ユーザーが作成するもの

a.については、「第16章 ソフトウェア設定ID」を参照してください。

b.については、ソフトウェア技術情報ホームページを参照してください。

URL : http://software.fujitsu.com/jp/technical/

c.については、以下のディレクトリに格納されている雛形を参考にして、インフラ管理者が作成する必要があります。

[Windows]

格納先: <ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥templates¥softwaresetups¥

[Linux]

格納先:/opt/FJSVcfmg/templates/softwaresetups/

11.1.2 ファイルの詳細説明

ソフトウェア設定情報 (XMLファイル) は以下の形式となっています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<softwareSetup version="2.0">
   <id>[ソフトウェア設定情報ID]</id>
   <owner0rg>[オーナー(組織)]</owner0rg>
   \langle ownerUser \rangle [f - f - (f - f - f)] \langle ownerUser \rangle
   <lcid>[ロケールID]</lcid>
   <name>[ソフトウェア設定情報の名前]</name>
   <description>[説明]</description>
   <method>[パラメーター設定の方式]</method>
   <parameters>
       <parameter>
           <key>[パラメーターのキー]</key>
           <type>[パラメーターの値の型]</type>
           <value>[設定必須パラメーターのデフォルト値]</value>
           \langle |abe| \rangle [ n = \lambda - \mu = 0 = \lambda - \mu ] \langle |abe| \rangle
           <description>[パラメーターの説明]</description>
       </parameter>
        ...
    </parameters>
</softwareSetup>
```

以下にそれぞれの項目 (タグ)の説明および設定内容について示します。 この情報を参考にして、必要に応じてソフトウェア設定情報を修正してください。 タグ名の[]は、省略可能なタグであることを示しています。

タグ名	型	設定範囲	説明	必 須	設定内容
id	string ASCII	0~32Bytes	ソフトウェア設定IDを指定します。		新規追加する場合は空文字列を指定 します。 更新する場合は更新するIDを指定し ます。
ownerOrg	String ASCII	固定値	ソフトウェア設定情報が所属するテ ナント名を指定します。	0	「cfmgadm」固定です。
ownerUser	String ASCII	固定値	ソフトウェア設定情報を登録するユー ザーのユーザーIDを指定します。	0	「cfmgadm」固定です。
lcid	string ASCII	選択	ソフトウェア設定情報のロケールを指 定します。	0	以下から選択します。 ・「ja」:日本語版 ・「en」:英語版
name	string UTF-8	64文字以内	ソフトウェア設定の名前を指定します。	\bigtriangleup	
description	string UTF-8	256文字以内	ソフトウェア設定の説明を指定します。	\bigtriangleup	
method	string ASCII	選択	パラメーター設定方式を指定します。	0	以下から選択します。 ・「cmd」:スタートアップスクリプトの startup.cmdを呼び出します。 ・「sh」:スタートアップスクリプトの startup.shを呼び出します。
parameters	_	_	ソフトウェアに設定できる複数のパラ メーターを指定します。	×	
parameter	_	1個以上	ソフトウェアに設定できるパラメーター をキーと値で指定します。	×	
key	string ASCII	1~256Bytes	パラメーターのキーを指定します。	0	使用可能文字は英数字と「.」です。 ただし、先頭は英字だけです。
type	string ASCII	選択	値の型を指定します。	0	以下から選択します。 ・「boolean」: 真偽値 true、false ・「number」: 数値 -2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 ・「string」: 文字列 空文字列の指定も可能です。
[value]	string UTF-8	4096文字以内	配備時にソフトウェアが動作するために必要となるパラメーターの値を 指定します。		配備時に設定しないパラメーターは、 valueを省略します。 指定可能な値はtypeの制約を受けま す。 文字列「_EMPTY_」(「」は「_」と 「_」が2つ続いています)を指定する ことはできません。
[label]	string UTF-8	64文字以内	パラメーターを画面上に表示する場 合のラベルを指定します。	\triangle	

タグ名	型	設定範囲	説明	必須	設定内容
[description]	string UTF-8	256文字以内	パラメーターの説明を指定します。	\bigtriangleup	

必須欄の記号は、以下を意味しています。

○:タグを指定した場合は、必ず値を指定してください。

△:値は省略可能です。

×:値の設定は不要です。タグだけの指定です。

11.2 パラメーター情報

ここでは、パラメーター情報を記述するXMLドキュメントについて説明します。

11.2.1 概要

ソフトウェアのパラメーターに設定する値を記述したXMLドキュメントです。ソフトウェアに値を設定できるパラメーターは、ソフトウェア 設定情報で定義したパラメーターになります。

パラメーター情報の詳細については、「6.2 パラメーター値の設定」を参照してください。

この雛形を参考に、インフラ管理者が作成する必要があります。

[Windows]

格納先: <ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥templates¥parameters¥

[Linux]

格納先:/opt/FJSVcfmg/templates/parameters/

11.2.2 ファイルの詳細説明

パラメーター情報 (XMLファイル) は以下の形式となっています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<parameterInfo version="2.0">
   <id>[パラメーター情報ID]</id>
   <owner0rg>[オーナー(組織)]</owner0rg>
   \langle ownerUser \rangle [f - f - (f - f - f)] \langle ownerUser \rangle
   <softwareSetupId>[ソフトウェア設定情報ID]</softwareSetupId>
   <lcid>[ロケールID]</lcid>
   <name>[パラメーター情報の名前]</name>
   <description>[説明]</description>
   <parameters>
       <parameter>
           <key>[パラメーターのキー]</key>
           <value>[パラメーターの値]</value>
       </parameter>
   </parameters>
</parameterInfo>
```

以下にそれぞれの項目 (タグ)の説明および設定内容について示します。

この情報を参考にして、必要に応じてパラメーター情報を修正してください。

タグ名の[]は、省略可能なタグであることを示しています。

タグ名	型	設定範囲	説明	必須	設定内容
id	string ASCII	0~32Bytes	パラメーターIDを指定します。		新規追加する場合は空文字列を指定 します。 更新する場合は更新するIDを指定し ます。
ownerOrg	String ASCII	固定値	パラメーター情報が所属するテ ナント名を指定します。	0	「cfmgadm」固定です。
ownerUser	String ASCII	固定値	パラメーター情報を登録する ユーザーのユーザーIDを指定 します。	0	「cfmgadm」固定です。
softwareSetupId	string ASCII	1~32Bytes	対象とするソフトウェア設定ID を指定します。		登録されているソフトウェア設定IDを 指定します。
				0	「第12章ミドルウェアパラメーター設定 情報」のソフトウェア設定情報を指定 することもできます。
lcid	string ASCII	選択	ロケールを指定します。	0	以下から選択します。 ・「ja」:[日本語版] ・「en」:[英語版]
name	string UTF-8	64文字以内	パラメーター情報の名前を指定 します。		
description	string UTF-8	256文字以内	パラメーター情報の説明を指定 します。		
parameters	_	0個以上	ソフトウェアに設定する複数の パラメーターを指定します。	×	
parameter	_	-	ソフトウェアに設定するパラメー ターをキーと値で指定します。	×	
key	string UTF-8	64文字以内	パラメーターのキーを指定します。	0	「第12章 ミドルウェアパラメーター設定 情報」のソフトウェア設定情報を使用 する場合は、そのパラメーターのキー を指定します。 使用可能文字は英数字と「.」です。 ただし、先頭は英字だけです。 ソフトウェア設定情報に含まれるkeyだ けが指定可能です。
value	String UTF-8	4096文字以内	パラメーターの値を指定します。		値は、ソフトウェア設定情報の制約に 依存します。

必須欄の記号は、以下を意味しています。

○:タグを指定した場合は、必ず値を指定してください。

△:値は省略可能です。

×:値の設定は不要です。タグだけの指定です。

11.3 テンプレート情報の補足事項

ここでは、テンプレート情報を記述するXMLドキュメントの補足事項について説明します。

11.3.1 概要

L-Platformテンプレートの構成情報を記述したXMLドキュメントです。また、ソフトウェアパラメーター設定機能を使用する場合は、ソフトウェアのパラメーターに設定する値の選択肢も記述できます。

この選択肢の詳細については、「6.2 パラメーター値の設定」を参照してください。

テンプレート情報の詳細については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition リファレンスガイドインフラ管理者編』の「テンプレート情報」を参照してください。

11.3.2 ファイルの詳細説明

テンプレート情報 (XMLファイル) は以下の形式となっています。ソフトウェアパラメーター設定機能を使用する場合に記述できるのは、 softwareOptionsタグ(太文字)の部分です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<template version="2.0">
   <id>[テンプレートID]</id>
   <lcid>[ロケールID]</lcid>
   <name>[テンプレート名称]</name>
   <baseTemplateId>[利用テンプレートID]</baseTemplateId>
   <owner0rg>[オーナー(組織)]</owner0rg>
   <ownerUser>[オーナー(利用者)]</ownerUser>
   <publicCategory>[公開区分]</publicCategory>
   \langle designSheetPath \rangle[\forall \forall 1 \lor i \in I, \forall h \in I] \langle designSheetPath \rangle
   <releaseDate>[リリース日]</releaseDate>
   <numOfMaxVnet>[最大VNET数]</numOfMaxVnet>
   <numOfMaxVm>[最大VM数]</numOfMaxVm>
   <productId>[型番]</productId>
   <description>[説明]</description>
   <keyword>[検索キーワード]</keyword>
   <estimate>[見積概算金額]</estimate>
   cense>[ライセンス]</license>
   <support>[サポート]</support>
   <vnets>
       <vnet>
          <id>[ネットワークID]</id>
          <name>[名称]</name>
          <numOfMaxVm>[最大VM数]</numOfMaxVm>
          <resourceId>「ネットワークリソースID]</resourceId>
          <category>[ネットワーク種別]</category>
          <segmentType>[セグメント識別情報]</segmentType>
       </vnet>
   </vnets>
   <Inetdevs>
       <Inetdev>
          <name>[LNetDev名]</name>
          <type>[LNetDevタイプ]</type>
          <lnetdevIfs>
              <InetdevIf>
                  <name>[インターフェース名]</name>
                  <networkId>[ネットワークID]</netowrkId>
              </lnetdevIf>
          <lnetdevIfs>
           <ruleset>
              <name>[ルールセット名]</name>
              <description>[ルールセットの説明]</description>
              <parameters>
                  coarameter>
                      <name>[パラメタ名]</name>
                      <label>[表示名]</label>
                      <view>「表示の有無]</view>
                      <value>「パラメタの値]</value>
                      <description>[パラメタの説明]</description>
                  </parameter>
```

```
...
              </parameters>
          </ruleset>
       </lnetdev>
   </lnetdevs>
   <servers>
       <server>
          <no>[サーバ連番]</no>
          <imageId>[イメージID]</imageId>
          <name>[サーバ名称]</name>
          <serverType>[L-Serverテンプレート]</serverType>
          <pool>[配備先プールのリソース名]</pool>
          <sparePool>[予備設定プールのリソース名]</sparePool>
          <storagePool>[ストレージプールのリソース名]</storagePool>
          <nicgroups>
              <management>[制御NIC]</management>
              <nicgroup>
                 <index>[NICグループインデックス]</index>
                 <networkId>[接続先ネットワークID]</networkId>
              </nicgroup>
              ...
          </nicgroups>
          <vnics>
              <management>[制御NIC]</management>
              <vnic>
                 <no>[NIC連番]</no>
                 <networkId>[接続先ネットワークID]</networkId>
                 <proup>[NICグループインデックス]</proup>
              </vnic>
              ...
          </vnics>
          <vdisks>
              <vdisk>
                 <no>[ディスク連番]</no>
                 <diskSize>[ディスク容量]</diskSize>
                 <resourceId>[リソースID]</resourceId>
                 <resouceName>[ディスクリソース名]</resourceName>
                 <storagePool>[ストレージプールのリソース名]</storagePool>
              </vdisk>
              . . .
          </vdisks>
          <softwareOptions>
              <softwareOption>
                 <softwareId>[ソフトウェア情報ID]</softwareId>
                 <choices>
                     <parameterInfoId>[パラメーター情報ID]</parameterInfoId>
                     ...
                 </choices>
              </softwareOption>
          </softwareOptions>
       </server>
   </servers>
</template>
```

ソフトウェアパラメーター設定機能を使用する場合に記述できる項目 (タグ)について、以下に説明および設定内容を示します。 タグ名の[]は、省略可能なタグであることを示しています。

タグ名	型	設定範囲	説明	必須	設定内容
[softwareOptions]	_	_	ソフトウェアパラメーター設定の 選択肢を表示する場合に指定し ます。	×	
softwareOption	_	1個以上	仮想サーバに含まれるソフトウェ アごとに、softwareOptionを指定 します。	×	
softwareId	string ASCII	1~32Bytes	パラメーター設定するソフトウェ アIDを指定します。	0	仮想サーバに含まれているソフ トウェアIDを指定します。 ソフトウェア情報がソフトウェア設 定情報と関連付けられている必 要があります。
choices	_	_	選択肢となるパラメーター情報を 指定します。	×	1番目の要素がデフォルトとなり ます。
parameterInfoId	string ASCII	1個以上 1~32Bytes	パラメーター情報のIDを指定します。	0	登録されているパラメーター情報 のIDを指定します。 パラメーター情報のソフトウェア 設定情報とソフトウェアに関連付 けているソフトウェア設定情報が 同じ必要があります。

必須欄の記号は、以下を意味しています。

○:タグを指定した場合は、必ず値を指定してください。

△:値は省略可能です。

×:値の設定は不要です。タグだけの指定です。

第12章 ミドルウェアパラメーター設定情報

本章では、ミドルウェアに設定できるパラメーターについて、詳細な説明を示していきます。 以下の製品について説明します。

- ETERNUS SF AdvancedCopy Manager
- ETERNUS SF Storage Cruiser Manager
- Interstage Application Server/Web Server
- · Interstage Charset Manager Standard Edition Agent
- Interstage List Creator
- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- Symantec Endpoint Protection
- Symfoware Server
- ・ Systemwalker Centric Manager (業務サーバ/部門管理サーバ)
- ・ Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 エージェント
- Systemwalker Operation Manager
- ・ Systemwalker Runbook Automation (連携サーバ/中継サーバ/業務サーバ)
- Systemwalker Service Quality Coordinator
- ・ UpdateAdvisor (ミドルウェア)

12.1 ETERNUS SF AdvancedCopy Manager

12.1.1 パラメーター情報

ありません。

12.1.2 出力メッセージ

ありません。

12.2 ETERNUS SF Storage Cruiser Manager

12.2.1 パラメーター情報

ありません。

12.2.2 出力メッセージ

ありません。

12.3 Interstage Application Server/Web Server

12.3.1 パラメーター情報

下記定義ファイルの記述形式については、『Interstage Application Server/Interstage Web Server リファレンスマニュアル (コマンド編)』の「isj2eeadmin」を参照してください。

- IJServer定義ファイル
- ・ J2EEシステム定義ファイル
- ・ J2EEリソース定義ファイル
- ・ Webサーバコネクター定義ファイル

No.	大分類	パラメーター	2	ノフトウェア言	没定情報ファイル		説明
	(コンポーネントな ど)	(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パラ メーターのデフォ ルト値</value>	<label> ラベル</label>	
1	IJServer(J2EE) の環境設定	ホスト名	hostname	string	#{server.os.co mputername}	ホスト名	ホスト名を設定します。
2	IJServer(J2EE) の環境設定	IPアドレス	ipaddress	string	#{server.nic.ip address}	IPアドレ ス	IPアドレスを設定します。
3	IJServer(J2EE) の環境設定	IJServer 定 義ファイル	J2ee.Ijserv erDefinitio n	string	空文字	IJServer 定義ファ イル	IJServer定義ファイルを更新します。
4	IJServer(J2EE) の環境設定	J2EEシ ステ ム定義ファ イル	J2ee.Syste mDefinitio n	string	空文字	J2EE シ ステム定 義ファイ ル	J2EEシステム定義ファイルを更新し ます。 システム構成の情報を変更する J2EEシステム定義ファイルの <system><web><wwwueditm ode>タグの値については変更しな いでください。 変更した際に、IJServer定義ファイ ルで指定した更新内容の一部が反 映されない場合があります。</wwwueditm </web></system>
5	IJServer(J2EE) の環境設定	J2EEリソー ス定義ファ イル	J2ee.Resou rceDefiniti on	string	空文字	リソース 定義ファ イル	リソース定義ファイルを更新します。
6	IJServer(J2EE) の環境設定	Webサー バコネク ター定義 ファイル	J2ee.Servic eDefinition	string	空文字	Web サーバコ ネクター 定義ファ イル	Webサーバコネクター定義ファイルを更新します。

パラメーターパッケージのzipファイルは、以下のようなディレクトリ構成で作成してください。

パッケージファイルについては、「6.1.4 パッケージファイル」を参照してください。

• L-ServerがWindowsの場合

parampkg.zip(任意のファイル名) + IJserver定義ファイル + J2EEシステム定義ファイル + J2EEリソース定義ファイル + Webサーバコネクター定義ファイル + F3FMihs(注1) + Webサーバ1 + httpd.conf + Webサーバ2 + httpd.conf : ・ L-ServerがLinuxの場合

parampkg.zip(任意のファイル名) + IJserver定義ファイル + J2EEシステム定義ファイル + J2EEリソース定義ファイル + Webサーバコネクター定義ファイル + FJSVihs (注1) + Webサーバ1 + httpd.conf + Webサーバ2 + httpd.conf

注1) 配備時にパラメーターを変更するInterstage HTTP Serverを使用する場合、パラメーターパッケージに定義ファイルを含めると、 配備時に自動で更新されます(パラメーターファイルへの定義はありません)。

詳細は、「Interstage Application Server/Web Server」の「インストール後の操作」の「4. Interstage HTTP Serverを使用する場合」を参照してください。

12.3.2 出力メッセージ

ありません。

12.4 Interstage Charset Manager Standard Edition Agent

12.4.1 パラメーター情報

[Windows]

Ν	大分類	パラメー	У.	フトウェア設	定情報ファ・	イル	説明
0.	(コンポーネント など)	ター (設定項 目)	<key> キー</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 パラメー ターのデ フォルト値</value>	<label> ラベル</label>	
1	配付環境設 定	IPアド レス	IPADRES S	string	なし	IPアドレス	Windows(64bit)環境においては、パラ メーターの「IPアドレス」の設定を行わな いでください。 Interstage Charset Manager Standard Edition Agentの資源配付機能を使用す る場合は、配備後に『Interstage Charset Manager Standard Edition V9 使用手引 書 日本語資源適用編』を参照し、Charset Managerの資源配付環境設定を行ってく ださい。

[Linux]

Ν	大分類	パラメーター		ソフトウェア設定情報ファイル						
0. (コンポーネント など)		(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パラメー ターのデフォルト値</value>	<label> ラベル</label>				
1	配付環境設 定	IPアドレス	IPADRES S	string	なし	IPアドレス				

Ν	大分類	パラメーター		ソフトウェア設定情報ファイル					
0.	(コンポーネント など)	(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パラメー ターのデフォルト値</value>	<label> ラベル</label>			
2	配付環境設 定	JAVAホーム ディレクトリ パス	JAVAHO ME	string	なし	JAVAホーム パス	IPアドレスを指定する 場合 は、本パラ メーターを設定してく ださい。 本パラメーターを指 定しない場合は、エ ラーになります。		

12.4.2 出力メッセージ

ありません。

12.5 Interstage List Creator

12.5.1 パラメーター情報

[Windows]

No.	No. 大分類 小分類				リフトウェア	設定情報ファ・	イル	説明	備考
	(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
1	帳票出 力全般		帳票出カサテー通知	Formo utput. inform Error	string	なし	帳票出力ラーメッセージの通知方法	帳票出力時に発生したエ ラーについて、イベントロ グに出力する場合は 「EVTLOG」、エラーメッ セージをメッセージボック スで表示させたい場合は 「ERRMSG」を指定します。	
2	帳票出 力全般		文字 コード 系	Inputda ta. charco de	string	なし	入力デー タの文字 コード系 の初期値	入力データの文字コード の初期値について 「SHIFTJIS」、「UCS2LE」、 「UCS2BE」、または 「UTF8」のいずれかを指 定します。	
3	トラブル 発生時 の調査 用ログ	トレース ログ	ファイ ルサイ ズ	Tracelo g. filesize	Number	なし	トレースロ グのファイ ルサイズ	トレースログのファイルサ イズを「64 ~ 99999」KB の範囲で指定します。	
4	トラブル 発生時 の調査 用ログ	トレース ログ	自動退 避設定	Tracelo g. filesave	Boolean	なし	トレースロ グを自動 退避する 指定	トレースログのファイルが いっぱいになったときに、 ファイルを自動で退避す るかどうかを指定します。	
5	トラブル 発生時 の調査	トレース ログ	退避 ファイ ル数	Tracelo g.	Number	なし	退避するト レースログ 数	トレースログを自動退避 する指定をした場合に、 退避するログファイル数	

No.	大分類	小分類	パラメー	2	ノフトウェア言	没定情報ファイ	イル	説明	備考
	(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +-</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
	用 ログ			filesave count				を「1~7」の範囲で指定します。	
6	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	RMI用 ポート 番号	Connec tor. aps. rmiPort	Number	なし	RMI用 ポート番 号	内部のRMI通信で使 用するTCP/IPポート番号 を指定します。	RMI 通信は、 アプリケーショ ンサーバ側で 動作します。
7	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	帳票出力待ちむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ	Connec tor. aps. timeout	Number	なし	帳票出力 待ち合わ せ時間	帳票出力サーバでのList Creatorの帳票出力完了 の待ち合わせ時間を秒単 位で設定します。	指定した時間 内に帳票出力 が完了しない 場合は出力完 了の待ち合わ せを打ち切り ます。
8	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	送信先 ポート 番号	Connec tor. aps. transfer Port	Number	なし	送信先 ポート番 号	帳票出力サーバの受信 ポート番号を指定します。	帳票出力サー バの受信ポー ト番号の設定 値と合わせる 必要がありま す。
9	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	ネット ワーク 間	Connec tor. aps. partitio nedTra nsfer	Boolean	なし	ネットワー ク間欠転 送指定	ネットワーク帯域を圧迫し ないようにファイルを転送 (間欠転送)する場合に 指定します。	
10	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	ネット ワーク 間欠転 送間隔	Connec tor. aps. partitio nedTra nsferInt erval	Numer	なし	ネットワー ク間欠転 送間隔	間欠転送が有効の場合 に、その間隔をミリ秒単位 で指定します。	
11	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	エラー リトライ 指定	Connec tor. aps. errorRe try	Boolean	なし	エラーリト ライ指定	帳票出力サーバへの帳 票資源やデータファイル などの転送や帳票出力 サーバで生成したファイ ルの取得に失敗した場合 のリトライ設定を行います。	
12	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	エラー リトライ 回数	Connec tor. aps. errorRe tryCou nt	Number	なし	エラーリト ライ回数	転送/取得エラー時に、リ トライする回数を指定しま す。	
13	コネク ター連携 機能	アプリ ケー	エラー リトライ 間隔	Connec tor. aps. errorRe	Number	なし	エラーリト ライ間隔	転送/取得エラー時に、リ トライする間隔を指定しま す。ミリ秒単位で指定しま す。	

No.	大分類	小分類	パラメー	2	ノフトウェア	没定情報ファイ	1JL	説明	備考
	(⊐ンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
		ション サーバ		tryInter val					
14	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	転送タ イムア ウト時 間	Connec tor. aps. bufferT imeout	Number	なし	転送タイムアウト時間	アプリケーションサーバか ら帳票出力サーバへ接続 後に、帳票サーバでの接 続時間がかかる場合や応 答がなかった場合の接続 中のタイムアウト時間をミ リ秒単位で指定します。	
15	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	転送タ イムア ウトリト ライ回 数	Connec tor. aps. bufferR etryCo unt	Number	なし	転送タイム アウトリトラ イ回数	接続中のタイムアウトが発 生したときのリトライ回数 を指定します。	
16	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	転送タ イムア ウトリト ライ間 隔	Connec tor. aps. bufferR etryInte rval	Number	なし	転送タイム アウトリトラ イ間隔	接続中のタイムアウトが発 生したときのリトライ間隔 をミリ秒単位で指定します。	
17	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	コネク ションリ トライ回 数	Connec tor. aps. connect ionRetr yCount	Number	なし	コネクショ ンリトイ回 数	接続エラー時に、リトライ する回数を設定します。	
18	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	コネク ションリ トライ間 隔	Connec tor. aps. connect ionRetr yInterv al	Number	なし	コネクショ ンリトライ 間隔	接続エラー時に、リトライ する間隔を設定します。	
19	コネク ター連携 機能	帳売ガボ	受 ポート 番号	Connec tor. fos. receive Port	Number	なし	受信ポー ト番号	出力要求受信用のポート 番号を指定します。	アプリケーショ ンサーバの送 信先ポート番 号の設定値と 合わせる必要 があります。
20	コネク ター連携 機能			Connec tor. fos. maxRe ceiveC onnecti on	Number	なし	最大同時 一一一時 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	同時に受信可能な接続 数です。これを超えた接 続要求に対しては切断し ます。	最大同時接続 許可数の上限 値に制した。ただ し、同時に接 続する数が増 加した場合、 出力時に必要

No.	大分類	小分類	パラメー	2	ノフトウェア言	設定情報ファイ	イル	説明	備考
	(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
									な仮想メモリな どが増加する ため、十分な マシンスペック が必要となりま す。
21	コネク ター連携 機能	帳 票 出	接続タ イムア ウト時 間	Connec tor. fos. bufferT imeout	Number	なし	接続タイム アウト時間	アプリケーションサーバか ら帳票出力サーバへ接続 後、帳票出力サーバでの 接続に時間がかかる場合 や接続中のタイムアウト時 間を秒単位で設定します。	
22	コネク ター連携 機能	帳 票 出 力 サ ー バ	接 イムア ウトリト ライ回 数	Connec tor. fos. bufferR etryCo unt	Number	なし	接続タイム アウトリトラ イ回数	接続中のタイムアウトが発 生した場合にリトライする 回数を設定します。	
23	コネク ター連携 機能	帳 票 出 力 サ ー バ	接 イムア ウトリト ライ間 隔	Connec tor. fos. bufferR etryInte rval	Number	なし	接続タイム アウトリトラ イ間隔	接続中のタイムアウトが発 生した場合にリトライする 間隔を秒単位で設定しま す。	
24	監査証 跡ログ機 能		採取設 定	Outputl og. output	Boolean	なし	監査証跡 ログの採 取設定	監査証跡ログを採取する かどうかを指定します。	
25	監査証 跡ログ機 能		ファイ ルのサ イズ	Outputl og. filesize	number	なし	監査証跡 ログファイ ルのサイ ズ	監査証跡ログファイルの サイズを「1~2048」MB の範囲で指定します。	
26	監査証 跡ログ機 能		ファイ ルの保 管日数	Outpou rlog. keeplo g	Number	なし	監査証跡 ログファイ ルの保管 日数	監査証跡ログファイルを 保管する日数を「0 ~ 3650」の範囲で指定しま す。	
27	監査証 跡ログ機 能		ファイ ルの格 納 レクトリ 空き 量	Outpou rlog. dirlimit	Number	なし	監査証跡 ログファイ ルの格納 ディレクトリ 空き容量	監査証跡ログファイルの 格納ディレクトリの空き容 量をMB単位で指定しま す。	
28	 力 助 作 設 定 機 能		項に タボ な る め が い 数 う の 対 の	output. data. outside fieldlen gth	string	なし	項 一 早 長 に が 収 ま ら な い 場 合 の メッ セ ー ジ が	項目長にデータが収まら ない場合に、エラーとして 扱う場合は「E」、警告とし て扱う場合は「W」、メッ セージ通知しない場合は 「N」を指定します。	

No.	No. 大分類 小分類 パラ:		パラメー	ソフトウェア設定情報ファイル				説明	備考
	(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
							の通知動 作		
29	出 力 時 作 設 定 機 能		項領にタまいの長ー収な合処	output. data. outside field	string	なし	項目の領 域 データが 収 い場合の メッ 通知 動 作	項目の領域内にデータが 収まらない場合に、エラー として扱う場合は「E」、警 告として扱う場合は「W」、 メッセージ通知しない場 合は「N」を指定します。	
30	出力時 の動作 設定機 能		JIS90 規格の 字体で の出力	output. jisglyp h	Boolean	なし	出力する 字体の指 定	JIS90 規格の字体で出力 するかどうかを指定します。	

【Linux】

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェア	設定情報に	ワアイル	説明	備考
	(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必 えパラ メーター のデフォ ルト値</value>	<label> ラベル</label>		
1	トラブル 発生時 の調査 用ログ	トレース ログ	ファイ ルサイ ズ	tracelog. filesize	Number	なし	トレースログの ファイルサイズ	トレースログのファ イルサイズを「64 ~99999」KBの範 囲で指定します。	
2	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	RMI用 ポート 番号	connecto r. aps. rmiPort	Number	なし	RMI用ポート番 号	内部のRMI通信 で使用するTCP/ IPポート番号を指 定します。	
3	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	アプリ ケー ション 実行コ マン	connecto r. aps. applicati onRoot	string	なし	アプリケーション 実行コマンド	chmod コマンドが あるディレクトリを 指定します。	通常は変更す る必要はありま せん。
4	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	帳 票 出 合 わ 世 時 間	connecto r. aps. timeout	Number	なし	帳票出力待ち合 わせ時間	 帳票出力サーバでのList Creatorの 帳票出力完了の 待ち合わせ時間を 秒単位で設定します。 	指定した時間内 に帳票出力が 完了しない場合 は出力完了の 待ち合わせを 打ち切ります。
5	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	送信先 ポート 番号	connecto r. aps.	Number	なし	送信先ポート番 号	帳票出力サーバ の受信ポート番号 を指定します。	帳票出力サー バの受信ポート 番号の設定値と

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェア	設定情報に	ア イル	説明	備考
	(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必 えーター のデフォ ルト値</value>	<label> ラベル</label>		
				trans ferPort					合わせる必要が あります。
6	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	ネット ワーク 間欠転 送指定	connecto r. aps. partition edTransf er	Boolean	なし	ネットワーク間欠 転送指定	ネットワーク帯域を 圧迫しないように ファイルを転送(間 欠転送)する場合 に指定します。	
7	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	ネト ワーク 間欠転 送間	connecto r. aps. partition edTransf erInterva l	Number	なし	ネットワーク間欠 転送間隔	間欠転送が有効 の場合に、その間 隔をミリ秒単位で 指定します。	
8	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	エラー リトライ 指定	connecto r. aps. errorRetr y	Boolean	なし	エラーリトライ指 定	帳票出力サーバ への帳票資源や データファイルなど の転送や帳票出 カサーバで生成し たファイルの取得 に失敗した場合の リトライ設定を行い ます。	
9	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	エラー リトライ 回数	connecto r. aps. errorRetr yCount	Number	なし	エラーリトライ回 数	転送/取得エラー 時に、リトライする 回数を指定します。	
10	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	エラー リトライ 間隔	Connect oraps. errorRetr yInterval	Number	なし	エラーリトライ間 隔	転送/取得エラー 時に、リトライする 間隔を指定します。 ミリ秒単位で指定 します。	
11	コネク ター連携 機能	アプリケーションサーバ	転送 タ イム ア ウト時 間	connecto r. aps. bufferTi meout	Number	なし	転送タイムアウト時間	アプリケーション サーバから帳票出 力サーバへ接続 後に、帳票サーバ での接続時間がか かる場合や応答が なかった場合の接 続中のタイムアウト 時間をミリ秒単位 で指定します。	
12	コネク ター連携 機能	アプリケー	転送タ イムア	connecto r. aps.	Number	なし	転送タイムアウト リトライ回数	接続中のタイムア ウトが発生したとき	

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェア	設定情報に	ア イル	説明	備考
	(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必 ダパラ メーター のデフォ ルト値</value>	<label> ラベル</label>		
		ション サーバ	ウトリト ライ回	bufferRe tryCount				のリトライ回数を指 定します。	
13	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	転送タ イムア ウトリト ライ間 隔	connecto r. aps. bufferRe tryInterv al	Number	なし	転送タイムアウト リトライ間隔	接続中のタイムア ウトが発生したとき のリトライ間隔をミリ 秒単位で指定しま す。	
14	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	コネク ションリ トライ回 数	connecto r. aps. connecti onRetry Count	Number	なし	コネクションリトラ イ回数	接続エラー時に、 リトライする回数を 設定します。	
15	コネク ター連携 機能	アプリ ケー ション サーバ	コネク ションリ トライ間 隔	connecto r. aps. connecti onRetryI nterval	Number	なし	コネクションリトラ イ間隔	接続エラー時に、 リトライする間隔を 設定します。	
16	コネク ター連携 機能	帳 票 出 力 サ ー バ	受信 ポート 番号	connecto r. fos. receiveP ort	Number	なし	受信ポート番号	出力要求受信用 のポート番号を指 定します。	アプリケーション サーバの送信 先ポート番号の 設定値と合わせ る必要がありま す。
17	コネク ター連携 機能	帳票出カサーバ	最大同 時 時 数	connecto r. fos. maxRec eiveCon nection	Number	なし	最大同時接続許 可数	同時に受信可能な 接続数です。これ を超えた接続要求 に対しては切断し ます。	最大同時接続 許可制限はあり ません。 ただし、同時に 接続したる数が 増加したに必要 な仮増加するため、 +分なするた め、 +分なが必 要となります。
18	コネク ター連携 機能	帳票出カサーバ	接続タ イムア ウト時 間	connecto r. fos. bufferTi meout	Number	なし	接続タイムアウト 時	アプリケーション サーバから帳票出 力サーバへ接続 後、帳票出力サー バでの接続に時間 がかかる場合や接 続中のタイムアウト	

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェア	設定情報に	ア イル	説明	備考
	(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必 須パラ メーター のデフォ ルト値</value>	<label> ラベル</label>		
								時間を秒単位で設 定します。	
19	コネク ター連携 機能	帳 票 出	接続タ イムア ウトリト ライ回 数	connecto r. fos. bufferRe tryCount	Number	なし	接続タイムアウト リトライ回数	接続中のタイムア ウトが発生した場 合にリトライする回 数を設定します。	
20	コネク ター連携 機能	帳票出力サーバ	接 イムア ウトリト ライ間 隔	connecto r. fos. bufferRe tryInterv al	Number	なし	接続タイムアウト リトライ間隔	接続中のタイムア ウトが発生した場 合にリトライする間 隔を秒単位で設定 します。	
21	監査証 跡ログ機 能	帳票出 力サー バ	採取設 定	Output log. output	Boolean	なし	監査証跡ロ ¥グの採取設定	監査証跡ログを採 取する/しないを指 定します。	
22	監査証 跡ログ機 能	帳票出 力サー バ	ファイ ルのサ イズ	Output log. filesize	Number	なし	監査証跡ログファ イルのサイズ	監査証跡ログファ イルのサイズを「1 ~ 2048」MBの範 囲で指定します。	
23	監査証 跡ログ機 能	帳 (((() () () () () () () ()	ファイ ルの保 管日数	Output log. keeplog	Number	なし	監査証跡ログファ イルの保管日数	監査証跡ログファ イルを保管する日 数を「0~3650」の 範囲で指定します。	
24	監査証 跡ログ機 能	帳 票 出 力 サ ー バ	ファイ ルのボィ レクトリ 空 量	Output log. dirlimit	Number	なし	監査証跡ログファ イルの格納ディレ クトリ空き容量	監査証跡ログファ イルの格納ディレ クトリの空き容量を MB単位で指定し ます。	
25	出力時 の動定機 能	帳票出 カサー バ	項にデがら場かの対応の対処の対応の対応の対応の対応の対応の対応の対応の対応の対応の対応の対応の対応の対応の	Output.d ata. outsidefi eldlengt h	string	なし	項目長にデータ が収まらない場 合のメッセージの 通知動作	項目長にデータが 収まらない場合に、 メッセージを通知 する場合に、エ ラーとして扱う場合 は「E」、警告として 扱う場合は「W」、 メッセージ通知し ない場合は「N」を 指定します。	
26	出力時 の動作 設定機 能	帳 票 出 カ サ ー バ	項目の 頃 城 デ タ が 収 ま ら な	Output.d ata. outsidefi eld	string	なし	項目長にデータ が収まらない場 合のメッセージの 通知動作	項目の領域内に データが収まらな い場合に、メッ セージを通知する 場合に、エラーとし て扱う場合は「E」、	

No.	大分類	小分類	領 パラメー		ソフトウェア	設定情報に	説明	備考	
(コンポー ネントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必 須パラ メーター のデフォ ルト値</value>	<label> ラベル</label>			
			い場合 の対処					警告として扱う場 合は「W」、メッ セージ通知しない 場合は「N」を指定 します。	
27	出力時 の動作 設定機 能	帳 票 出	JIS90 規格の 字体で の出力	output. jisglyph	Boolean	なし	出力する字体の 指定	JIS90 規格の字体 で出力する/しない を指定します。	

12.5.2 出力メッセージ

出力形式

LC	メッセージレベル	メッセージID	メッセージ本文

項目	説明				
LC	本製品のメット	本製品のメッセージを出力します。			
メッセージレベル	以下のどれか	以下のどれかです。			
	INFO	情報レベルのメッセージです。			
	WARNING	警告レベルのメッセージです。			
	ERROR	誤りレベルのメッセージです。			
	FATAL	致命的レベルのメッセージです。			
メッセージID	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。				
メッセージ本文	メッセージの内	日容です。			

出力メッセージ

[Windows]

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
0001 (WARNING)	メッセージ本文	It finds the mistake in the parameter when starting.[%1][%2]
	説明	指定した値に誤りがあるため、設定できませんでした。 %1には、keyタグの値が表示されます。 %2には、valueタグの値が表示されます。
	対処方法	パラメーター情報ファイルの該当するkeyタグおよびvalueタグの値を見直してください。
0002	メッセージ本文	Can not get the information required to set up.
(ERROR)	説明	設定に必要な情報が取得できなかったため、設定できませんでした。
	対処方法	製品が正しくインストールされていない可能性があります。製品が正しくインストールされているかを確認してください。

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
8000	メッセージ本文	An error occurred when updating a file.[%1][%2]
(ERROR)	説明	環境設定ファイルの更新に失敗しました。 %1には、ファイル名が表示されます。 %2には、keyタグの値が表示されます。
	対処方法	ディスクの空き容量が不足していないか確認してください。
8001	メッセージ本文	An unexpected error occurred.[%1][%2]
(ERROR)	説明	予期しないエラーが発生したため、値の設定ができませんでした。 %1には、keyタグの値が表示されます。 %2には、valueタグの値が表示されます。
	対処方法	製品が正しくインストールされていない可能性があります。製品が正しくインストールされているかを確認してください。

[Linux]

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
0001	メッセージ本文	It finds the mistake in the parameter when starting.[%1][%2]
(WARNING)	説明	指定した値に誤りがあるため、設定できませんでした。 %1にはkeyタグの値が出力されます。 %2にはvalueタグの値が出力されます。
	対処方法	パラメーター情報ファイルの該当するkeyタグおよびvalueタグの値を見直してください。
0081	メッセージ本文	File is not writable: %1
(ERROR)	説明	ファイルに書き込み権限がありません。 %1にはファイル名が出力されます。
	対処方法	ファイルに書き込み権限があるか確認してください。
0082	メッセージ本文	File is not executable: %1
(ERROR)	説明	ファイルに実行権限がありません。 %1にはファイル名が出力されます。
	対処方法	ファイルに実行権限があるか確認してください。
0083	メッセージ本文	Since there is no process can change the required files.[%1][%2]
(WARNING)	説明	環境設定コマンドが見つからないため、設定できませんでした。 %1にはコマンド名値が出力されます。 %2にはkeyタグの値が出力されます。
	対処方法	製品が正しくインストールされているか確認してください。
1001	メッセージ本文	Failed to change size of trace log.
(ERROR)	説明	トレースログのファイルサイズ変更に失敗しました。
	対処方法	トレースログのファイルサイズ変更に失敗しました。
1101 (ERROR)	メッセージ本文	Failed message notification of configuration changes to the length of the item does not fit the data.
	説明	項目長にデータが収まらない場合のメッセージ通知動作の設定変更に失敗しました。
	対処方法	パラメーター情報ファイルのoutput.data.outsidefieldlengthパラメーターを見直してください。
1201 (ERROR)	メッセージ本文	Failed message notification of configuration changes in the region if the item does not fit the data.

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
	説明	項目の領域内にデータが収まらない場合のメッセージ通知動作の設定変更に失敗しました。
	対処方法	パラメーター情報ファイルのoutput.data.outsidefieldパラメーターを見直してください。
1301	メッセージ本文	Failed to modify font settings of the output character.
(ERROR)	説明	出力文字の字体の設定変更に失敗しました。
	対処方法	パラメーター情報ファイルのoutput.jisglyphパラメーターを見直してください。
8000	メッセージ本文	An error occurred when updating a file.[%1][%2]
(ERROR)	説明	環境設定ファイルの更新に失敗しました。 %1にはファイル名が出力されます。 %2にはkeyタグの値が出力されます。
	対処方法	ディスクの空き容量が不足していないか確認してください。

12.6 NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

12.6.1 パラメーター情報

ありません。

12.6.2 出力メッセージ

ありません。

12.7 Symantec Endpoint Protection

12.7.1 パラメーター情報

ありません。

12.7.2 出力メッセージ

ありません。

12.8 Symfoware Server

12.8.1 パラメーター情報

[Windows]

ありません。

[Linux]

No.	大分類	小分	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	アイル	説明	備考
	(コン ポーネ ントなど)		9一(設定 項目)	<key > +-</key 	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
1	Symfo ware の環 定	環境変数	RDBNA ME	RD Bco nfig para m. RD BN AM E	string	省略可能	RDBNAME	RDB システム名 を付ける場合は 設定します。 省略した場合は RDB システム名 無しの運用となり ます。	RDBシステム 名を付ける場合 はSymfoware 使用時に環境 変数 RDBNAMEを 設定してくださ い。
2	Symfo ware の環 境 定	RD B 成 パメタフイ	RDBDIR SPACE1	RD Bco nfig para m. RD BDI RSP AC E1	string	/SFW/ rdbdir	RDBDIRSP ACE1	データベース用 のRDBディレクト リファイルの配置 先ディレクトリ名 です。	
3	Symfo ware の環 定	RD 構成 パメタフイ	RDBDIR SPACE2	RD Bco nfig para m. RD BDI RSP AC E2	string	/SFW/ rdbdir	RDBDIRSP ACE2	RDBディクショナ リ用のRDBディ レクトリファイルの 配置先ディレクト リ名です。	
4	Symfo ware の環 定	RD 構成 パメタフイ	RDBLO G	RD Bco nfig para m. RD BL OG BI	number	512	RDBLOGBI	BIログ書き出し のためのログバッ ファの枚数です。	
5	Symfo ware の環 境設 定	RD B構 パメタフイ	RDBLO G	RD Bco nfig para m. RD BL OG AI	number	512	RDBLOGAI	AIログ書き出し のためのログバッ ファの枚数です。	
6	Symfo ware	RD B構	RDBCO RE	RD Bco	string	/SFW/ core	RDBCORE	Symfoware/ RDBで異常が発	

No.	大分類	小分	パラメー	- ソフトウェア設定情報ファイル		ァイル	説明	備考	
	(コン ポーネ ントなど) ントなど	類	項目)	<key > +-</key 	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
	の 環 定	成パメタフイ		nfig para m. RD BC OR E				生した場合のダ ンプ出力先ディ レクトリ名で す。	
7	Symfo ware の環 定	RD 構成 パメタフイ	RDBEX TMEM	RD Bco nfig para m. RD BE XT ME M	number	13208	RDBEXTM EM	Symfoware/ RDBが情報交換 として使用する 共用メモリの大き さです。	
8	Symfo ware の環 定	RD B 成パメタフイ	RDBCN TNUM	RD Bco nfig para m. RD BC NT NU M	number	712	RDBCNTN UM	RDB デーモンの 要求の最大多重 度です。	
9	Symfo ware の環 定	RD構 ラーーアル	RDBSY SBUF	RD Bco nfig para m. RD BS SS BU F	string	/opt/ FJSVrdb2 b/etc	RDBSYSBU F	デフォルトの共用 バッファ定義ファ イルの配置先 ディレクトリ名で す。	
10	Symfo ware の環 境設 定	RD B 歳 パラー ー ア ル	RDBSQ LENV	RD Bco nfig para m. RD BS QL EN V	string	/opt/ FJSVrdb2 b/etc/ fssqlenv	RDBSQLEN V	アプリケーション の動作環境ファ イル(システム用 の動作環境ファ イル)の配置先 ファイル名です。	
11	Symfo ware	RD B構	RDBDB SNUM	RD Bco	number	32	RDBDBSN UM	データベースス ペースに割り当	

No.	大分類	小分	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	ァイル	説明	備考
	(コン ポーネ ントなど)	類	項目)	<key< th=""><th><type> 型</type></th><th><value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value></th><th><label> ラベル</label></th><th></th><th></th></key<>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
	の 環 定	成 パ メ タ フ イ		nfig para m. RD BD BS NU M				てるリーダとライ タの対の数です。	
12	Symfo ware の環 定	RD B構 パメタフイ	RDBNE TDBSN UM	RD Bco nfig para m. RD BN ET DB SN UM	Number	32	RDBNETD BSNUM	ネットワーク上の データベースス ペースに割り当 てるリーダとライ タの対の数です。	
13	Symfo ware の環 境設 定	RD B 構 パラーー アル	RDBLO GMANA GE	RD Bco nfig para m. RD BL OG MA NA GE	string	なし	RDBLOGM ANAGE	ログ管理ファイル の配置先のロー デバイス名また はディレクトリ名 です。	
14	Symfo ware の環 境設 定	RD B構 パラーー アル	RDBSY STE MID	RD Bco nfig para m. RD BS YS YS TE MI D	Number	1	RDBSYSTE MID	Symfoware/ RDBの動作環境 を一意に認識す るための値です。	
15	Symfo ware の環 境設 定	RD B構パメタフイ	RDBRE PORT	RD Bco nfig para m. RD BR EP	string	/SFW/ core	RDBREPOR T	メッセージログ ファイルの配置 先ディレクトリ名 です。	

No.	大分類	小分	パラメー	ソフトウェア設定情報ファイル		ァイル	説明	備考	
	ン マーネ ポーなど ントなど	類	ター(設定 項目)	<key > +</key 	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
				OR T					
16	Symfo ware の環 境設 定	RD B 成 パ メ タ フ イ	RDBRE PORT SIZE	RD Bco nfig para m. RD BR EP OR TSI ZE	Number	10485760	RDBREPOR TSIZE	メッセージログ ファイルのファイ ルサイズです。	
17	Symfo ware の境設 定	RD 構成パメタフイ	RDBPM	RD Bco nfig para m. RD BP M	string	/SFW/ rdbpm	RDBPM	パフォーマンス データ格納ファ イルの配置先 ディレクトリ名で す。	
18	Symfo ware の環 定 定	RD 構成 パメタフィ ル	RDBEX PDSI	RD Bco nfig para m. RD BE XP DSI	string	YES	RDBEXPDS I	DSI定義時にシ ステムがアラーム ポイントおよび容 量拡張定義を設 定するか否かを 指定します。	
19	Symfo ware の環 境設 定	シテ用の動作環境フイ	COMM UNICAT ION_BU FFER	AP PEn v.sy ste m. CO MM UNI CA TIO NB UF FE R	Number	32	COMMUNI CATION_B UFFER	ローカルアクセス の場合に、サー バ側で使用する バッファのサイズ です。	
20	Symfo ware の環 境設 定	シテ 用の 動	MAX_C ONNEC TSYS	AP PEn v.sy ste m.	Number	256	MAX_CON NECT_SYS	ローカルで接続 できるコネクショ ンの数の最大値 です。	

No.	大分類	小分	パラメー	ソフトウェア設定情報ファイル		説明	備考		
	(コン ポーネ ントなど)	類	項目)	<key > +-</key 	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
		作 環 境 アイル		MA XC ON NE CT SY S					
21	Symfo ware の環 定	シテ用の動作環境フィ	MAX_C ON NECT_T CP	AP PEn v.sy ste m. MA XC ON NE CT TC P	Number	256	MAX_CON NECT_TCP	1つの Symfoware/ RDB環境に対し RDB2_TCPで接 続できるコネク ションの数の最 大値です。	
22	Symfo ware の環 定	シテ用の動作環境フイスム	SORT_ MEM_SI ZE	AP PEn v.sy ste m. SO RT ME MSI Z E	Number	2112	SORT_ME M_SIZE	作業用ソート領 域として使うメモ リサイズです。	
23	Symfo ware の環 境設 定	シテ用の動作環境フイ	WORK_ MEM_SI ZE	AP PEn v.sy ste m. WO RK ME MSI ZE	Number	128	WORK_ME M_SIZE	作業用テーブル として使うメモリの サイズです。	
24	Symfo ware の環 境設 定	シテ用の動作環境	WORK_ PATH	AP PEn v.sy ste m. WO RK PA TH	string	/var/tmp	WORK_PA TH	作業用テーブル および作業用 ソート領域のパス です。	

No.	大分類	小分	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	アイル	説明	備考
	(コン ポーネ ントなど)		9一(設定 項目)	<key > +—</key 	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
		ファ イル							
25	Symfo ware の環 境 定	シテ用の動作環境フィスム	R_LOC K	AP PEn v.sy ste m. RL OC K	string	YES	R_LOCK	排他の単位を行 とします。	
26	Symfo ware の環 境設 定	シテ用の動作環境フィ	JOIN_O RDER	AP PEn v.sy ste m. JOI NO RD ER	string	AUTO	JOIN_ORD ER	結合表とほかの 表のジョイン順で す。	
27	Symfo ware の環 境設 定	シテ用の動作環境フィ	USQL_L OCK	AP PEn v.sy ste m. US QL LO CK	string	EX	USQL_LOC K	「UPDATE文」: 探索または 「DELETE文」: 探索の更新標的 レコードを位置 づける部分の占 有モードです。	
28	Symfo ware の環 境設 定	シテ用の動作環境フィ	ARC_F ULL	AP PEn v.sy ste m. AR CF UL L	string	RETURN	ARC_FULL	アーカイブログ満 杯時にエラー復 帰するか否かで す。	
29	Symfo ware の環 境設 定	デフルの共用バッ	BUFFER 1K	Def alut shar edb uf. BU FFE	Number	1040	BUFFER1K	BUFFER1Kで 指定するバッファ 枚数です。	

No.	大分類	小分	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	アイル	説明	備考
	(コン ポーネ ントなど)	類	ター(設定 項目)	<key > +-</key 	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
		ファ 定義 ファ イル		R1 K					
30	Symfo ware の環 定	デフルの共用バフ定義フィ	BUFFER 2K	Def alut shar edb uf. BU FFE R2 K	Number	1040	BUFFER2K	BUFFER2Kで 指定するバッファ 枚数です。	
31	Symfo ware の環 定	デフルの共用バフ定義フィ	BUFFER 4K	Def alut shar edb uf. BU FFE R4 K	Number	4317	BUFFER4K	BUFFER4K で 指定するバッファ 枚数です。	
32	Symfo ware の環 定	デフルの共用バフ定義アイル	BUFFER 8K	Def alut shar edb uf. BU FFE R8 K	Number	4317	BUFFER8K	BUFFER8Kで 指定するバッファ 枚数です。	
33	Symfo ware の環 境設 定	デフルの共用バファ	BUFFER 16K	Def alut shar edb uf. BU FFE	Number	4317	BUFFER16 K	BUFFER16Kで 指定するバッファ 枚数です。	

No.	大分類	小分	パラメー		ソフトウェア設定情報ファイル			説明	備考
	(コン ポーネ ントなど)	類	ター(設定 項目)	<key > +-</key 	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
		定 義 ファ イル		R16 K					
34	Symfo ware の環 境設 定	デフルの共用バフ定義フィル	BUFFER 32K	Def alut shar edb uf. BU FFE R32 K	Number	4317	BUFFER32 K	BUFFER32Kで 指定するバッファ 枚数です。	

12.8.2 出力メッセージ

[Windows]

ありません。

[Linux]

出力形式

メッセ・	ージID	メッセージ本文
ID	識別番号	

項目	説明
メッセージID	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。 IDは、「SYMFO:ERROR」+識別番号とします。
メッセージ本文	メッセージの内容です。

出力メッセージ

メッセージID	項目	説明
SYMFO:ERROR0	メッセージ本文	setup failed.key=s* value=t*
001	説明	パラメーター情報ファイルに指定した値に異常を検出しました。
	対処方法	出力されたキー名(key=s*)に応じた対処を行ってください。 RDBconfigparam.RDBSYSBUF: デフォルトの共用バッファ定義ファイルが出力できなかった可能性があります。パ ラメーター情報ファイルのRDBconfigparam.RDBSYSBUFキーに指定したディレク トリを確認してください。 RDBconfigparam.RDBSQLENV: システム用の動作環境ファイルが出力できなかった可能性があります。パラメー
メッセージID	項目	説明
--------------	---------	---
		ター情報ファイルのRDBconfigparam.RDBSQLENVキーに指定したファイル名を 確認してください。
SYMFO:ERROR0	メッセージ本文	Symfoware Server server is not installed.
002	説明	Symfoware Serverが正しくインストールされていません。
	対処方法	Symfoware Serverが正しくインストールされていることを確認してください。

12.9 Systemwalker Centric Manager (業務サーバ)部門管理サーバ)

12.9.1 パラメーター情報

[Windows]

No	大分類	小分類	パラメーター	ソフトウェア設定情報ファイル				説明
	(コンボーネン トなど)		(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	<label> ラベル</label>	
1	システム監 視設定	通信環 境定義	メッセージ送信先 システム	dstsys	string	なし	メッセージ送 信先システム	インストール直 後の状態で変 更が可能です。

【Linux】

Ν	o 大分類	小分類	パラメーター	ソフトウェア設定情報ファイル				説明
	(コンポーネントな ど)		(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パラ メーターのデ フォルト値</value>	<label> ラベル</label>	
1	システム監視設 定	通信環 境定 義	メッセージ送 信先システム	dstsys	string	なし	メッセージ 送信先シス テム	インストール直 後の状態で変 更が可能です。

12.9.2 出力メッセージ

各メッセージの詳細は『Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書』を参照してください。

[Windows]

出力形式

opadessyscsv	エラー	メッセージID	メッセージ本文
--------------	-----	---------	---------

項目	説明
opadessyscsv	本製品のメッセージを出力します。
エラー	エラーが発生したことを出力します。
メッセージID	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。
メッセージ本文	メッセージの内容です。

出力メッセージ

メッセージID	項目	説明
242	メッセージ本文	入力ファイル(%1)の情報に誤りがあります。(行番号=1)
	説明	メッセージ送信先システムの値が不正です。 %1には一時ファイル名が出力されます。
	対処方法	本メッセージの直後のメッセージを参考に、メッセージ送信先システムの値 を見直してください。
247	メッセージ本文	定義されたシステム(%1)は存在しません。
	説明	メッセージ送信先システムのIPアドレスを解決できません。エラーとなったシ ステム名に「_EMPTY_」と表示される場合は、メッセージ送信先システム の値が空になっています。 %1には、エラーとなったシステム名が出力されます。
	対処方法	メッセージ送信先システムが正しいか確認してください。正しい場合、配備シ ステムでIPアドレスが解決できる設定となっているか確認してください。

【Linux】

出力形式

opadessyscsv	エラー	メッセージID	メッセージ本文

項目	説明
opadessyscsv	本製品のメッセージを出力します。
エラー	エラーが発生したことを出力します。
メッセージID	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。
メッセージ本文	メッセージの内容です。

出力メッセージ

メッセージID	項目	説明	
242	メッセージ本文	入力ファイル(%1)の情報に誤りがあります。(行番号=1)	
	説明	メッセージ送信先システムの値が不正です。 %1には、一時ファイル名が出力されます。	
	対処方法	本メッセージの直後のメッセージを参考に、メッセージ送信先システムの値 を見直してください。	
243	メッセージ本文	項目(Message Destination System)またはそれより後に不当な定義があります	
	説明	メッセージ送信先システムの値が空です。	
	対処方法	メッセージ送信先システムに値を設定してください。	
247	メッセージ本文	定義されたシステム(%1)は存在しません。	
	説明	メッセージ送信先システムのIPアドレスを解決できません。 %1には、エラーとなったシステム名が出力されます。	
	対処方法	メッセージ送信先システムが正しいか確認してください。正しい場合、配備 システムでIPアドレスが解決できる設定となっているか確認してください。	

出力形式

MPSS	ERROR	メッセージID	メッセージ本文

項目	説明
MPSS	本製品の略称を出力します。
ERROR	エラーが発生したことを出力します。
メッセージID	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。
メッセージ本文	メッセージの内容です。

出力メッセージ

メッセージID	項目	説明
0008	メッセージ本文	Failed to start Systemwalker service .:/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
	説明	配備システムのインストール種別が業務サーバ/部門管理サーバでない可能性があります。
	対処方法	配備システムのインストール種別を確認してください。本スタートアップスクリプトは、配備シ ステムのインストール種別が業務サーバ/部門管理サーバの場合だけ使用することができま す。

12.10 Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 エージェント

12.10.1 パラメーター情報

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	ァイル	説明
	(コンポーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> キー</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
1	エージェン トの環境 設定	エー ジェント 情報	エー ジェント のホスト 名	itcm.a gent. hostna me	string	#{server.o s. computern ame}	エージェント のホスト名	エージェントのホスト名を指定 します。 プロセス管理サーバから接続 可能なホスト名を指定してく ださい。
2	エージェン トの環境 設定	エー ジェント 情報	エー ジェント のIPア ドレス	itcm.a gent. ipaddr ess	string	#{server.n ic. ipaddress}	エージェント のIPアドレス	エージェントのIPアドレスを指 定します。 プロセス管理サーバから接続 可能なIPアドレスを指定して ください。
3	エージェン トの環境 設定	プロセ ス管理 サーバ 情報	プロセ ス管理 サーバ のホスト 名	itcm. manag er. hostna me	string	空文字	プロセス管理 サーバのホ スト名	 ・エージェントの接続先プロセス管理サーバのホスト名を指定します。 ・空文字の場合は、インストール時に設定したホスト名を変更しません。
4	エージェン トの環境 設定	プロセ ス管理 サーバ 情報	プロセ ス管理 サーバ の HTTP Server	itcm. manag er. http.p ortno	string	空文字	プロセス管理 サーバの HTTP Server のポート番号	 ・プロセス管理サーバのHTTP Serverのポート番号を指定します。 ・空文字の場合は、インストール時に設定したポート番号を変更しません。

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	アイル	説明
	(コンポーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
			のポー ト番号					
5	エージェントの環境設定	エージェ収集スケール	System walker Centric Manage r エンンリの イント のケ レ (インリのケ レ ()	itcm.a gent.c entric. inv.sc hedule .hour	string	なし	Systemwalk er CentricMana ger 用エージェン ト(インベント リ情報)の収 集スケジュー ル(時間)	・「Systemwalker Centric Manager 用エージェント(インベントリ情 報)」の収集スケジュール(時 間)を指定します。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』の「エージェント動作定義ファイル」を参照し てください。 ・空文字を指定する場合は、時間と分の両方を空文字に する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 -クローニングイメージ採取 時の設定値を変更しない場 合 -「Systemwalker Centric Manager 用セットアップ状態の変更」で 「YES」を指定しかつ時間は デフォルト値(3)のままでよい 場合 (注)変更しない場合は、パラ メーター情報ファイルに <value>タグ自体を含めない でください。 <value>タグが存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。本パラ メーターは空文字の場合、ス ケジュール収集を行わないと いう意味になります。</value></value>
6	エージェン トの環境 設定	エー ジェント の収集 スケ ジュー ル	System walker Centric Manage r 用エー ジェント (インベ ントリ情 報)の収 集スケ	itcm.a gent.c entric. inv.sc hedule .minut e	string	なし	Systemwalk er Centric Manager 用エージェン ト(インベント リ情報)の収 集スケジュー ル(分)	 ・「Systemwalker Centric Manager 用エージェント(インベントリ情 報)」の収集スケジュール(分) を指定します。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』の「エージェン ト動作定義ファイル」を参照し てください。 ・空文字を指定する場合は、

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	ァイル	説明
	(コンポーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
			ジュー ル(分)					時間と分の両方を空文字に する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 ークローニングイメージ採取 時の設定値を変更しない場 合 ー「Systemwalker Centric Manager 用セットアップ状態の変更」で 「YES」を指定しかつ分はデ フォルト値(0)のままでよい場 合 (注)変更しない場合は、パラ メーター情報ファイルに <value>タグ自体を含めない でください。 <value>タグが存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。 本パラメーターは空文字の場 合、スケジュール収集を行わ ないという意味になります。</value></value>
7	エージェントの環境設定	エー ジェレトの スケ ジュール	System walker Centric Manage r用ジェード (ノ情収集 ー ル(情収 ケジュー時 間)	itcm.a gent.c entric. rep.sc hedule .hour	string	なし	Systemwalk er Centric Manager用 エージェント (ノード情報) の収集スケ ジュール(時 間)	 ・「Systemwalker Centric Manager 用エージェント(ノード情報)」の収集スケジュール(時間)を 指定します。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』の「エージェン ト動作定義ファイル」を参照してください。 ・空文字を指定する場合は、 ・時間と分の両方を空文字にする必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 ークローニングマスタ採取時の設定値を変更しない場合 「Systemwalker Centric Manager用セットアップ状態の変更」で「YES」を指定しか つ時間はデフォルト値(2)の ままでよい場合 (注)変更しない場合は、パラメーター情報ファイルに value>タグ自体を含めないでください。

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	ァイル	説明
	(コンポーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
								<value>タグが存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。 本パラメーターは空文字の場 合、スケジュール収集を行わ ないという意味になります。</value>
8	エージェントの環境設定	エージのスジューント集	System walker Centric Manage r用エー ジェント (ノード 御 取 ス ケ ジュー ル (分)	itcm.a gent.c entric. rep.sc hedule .minut e	string	なし	Systemwalk er Centric Manager用 エージェント (ノード情報) の収集スケ ジュール (分)	 ・「Systemwalker Centric Manager用エージェ ント(ノード情報)」の収集スケ ジュール(分)を指定します。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガ イド』の「エージェント動作定 義ファイル」を参照してください。 ・空文字を指定する場合は、時間と分の両方を空文字に する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 ークローニングイメージ採取 時の設定値を変更しない場合。 「Systemwalker Centric Manager 用セットアップ状態の変更」で 「YES」を指定しかつ分はデ フォルト値(0)のままでよい場合。 (注)変更しない場合は、パラ メーター情報ファイルに <value>タグ自体を含めない でください。</value> <value>タグが存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。</value> 本パラメーターは空文字の場 合、スケジュール収集を行わ ないという意味になります。
9	エージェン トの環境 設定	エー ジェント の収集 スケ ジュー ル	Intersta ge Applica tion Server 用エー ジェント の収集 スケ ジュー	itcm.a gent. iaps.sc hedule .hour	string	なし	Interstage Application Server用 エージェント の収集スケ ジュール(時 間)	 「Interstage Application Server用エージェント」の収集 スケジュール(時間)を指定し ます。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガ イド』の「エージェント動作定 義ファイル」を参照してくださ い。

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	アイル	説明
	(コンポーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +-</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
			ル(時 間)					・空文字を指定する場合は、 時間と分の両方を空文字に する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 ークローニングイメージ採取 時の設定値を変更しない場 合 ー「Interstage Application Server用セットアップ状態の 変更」で「YES」を指定しかつ 時間はデフォルト値(0)のまま でよい場合 (注)変更しない場合は、パラ メーター情報ファイルに <value>タグ自体を含めない でください。 <value>タグ前存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。 本パラメーターは空文字の場 合、スケジュール収集を行わ ないという意味になります。</value></value>
10	エージェントの環境設定	エジのスジル	Intersta ge Applica tion Server 用ジェレト の収ケ ジュー ル(分)	itcm.a gent.ia ps. schedu le.min ute	string	なし	Interstage Application Server用 エージェント の収集スケ ジュール (分)	 ・「Interstage Application Server用エージェント」の収集スケジュール (分)を指定します。 ・収集スケジュールの設定方法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager管理者ガイド』の「エージェント動作定義ファイル」を参照してください。 ・空文字を指定する場合は、 ・空文字を指定する場合は、 時間と分の両方を空文字にする必要があります。 ・以下の場合は何も指定する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する必要はありません。 ークローニングイメージ採取時の設定値を変更しない場合 「Interstage Application Server用セットアップ状態の変更」で「YES」を指定しかつ分はデフォルト値(0)のままでよい場合 (注)変更しない場合は、パラメーター情報ファイルに <value>タグ自体を含めないでください。</value>

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	ァイル	説明
	(コンポーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
								<value>タグが存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。 本パラメーターは空文字の場 合、スケジュール収集を行わ ないという意味になります。</value>
11	エージェントの環境設定	エージ取力なた。シントのシントのシントのシントのシントのシントのシントのシントのシントのシントの	.NETア プリョー ジのスケ コーン 取 ケ ー い し ()	itcm.a gent.n etapl.s chedul e.hour	string	なし	.NETアプリ ケーション用 エージェント の収集スケ ジュール(時 間)	・「.NETアプリケーション用 エージェント」の収集スケ ジュール(時間)を指定しま す。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガ イド』の「エージェント動作定 義ファイル」を参照してくださ い。 ・空文字を指定する場合は、 時間と分の両方を空文字に する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 -クローニングイメージ採取 時の設定値を変更しない場 合 ー「.NET アプリケーション用 セットアップ状態の変更」で 「YES」を指定しかつ時間は デフォルト値(3)のままで よい場合 (注)変更しない場合は、パラ メーター情報ファイルに <value>タグ前存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。本パラ メーターは空文字の場合、ス ケジュール収集を行わないと いう意味になります。</value>
12	エージェン トの環境 設定	エー ジェント の収集 スケ ー ル	.NETア プリケー ション エージェレト スケ ント スケ ル(分)	itcm.a gent.n etapl.s chedul e.minu te	string	なし	.NETアプリ ケーション用 エージェント の収集スケ ジュール (分)	・「.NETアプリケーション用 エージェント」の収集スケ ジュール(分)を指定します。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガ イド』の「エージェント動作定 義ファイル」を参照してくださ い。 ・空文字を指定する場合は、 時間と分の両方を空文字に

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	アイル	説明
	(コンボーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
								する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 ークローニングイメージ採取 時の設定値を変更しない場 合 ー「.NET アプリケーション用 セットアップ状態の変更」で 「YES」を指定しかつ分はデ フォルト値(30)のままでよい 場合 (注)変更しない場合は、パラ メーター情報ファイルに <value>タグ自体を含めない でください。 <value>タグ前存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。 本パラメーターは空文字の場 合、スケジュール収集を行わ ないという意味になります。</value></value>
13	エージェントの環境設定	エージのスケジュール	レシプシエジのスジル間ガーケンニン集 一時	itcm.a gent.le gacy. schedu le.hou r	string	なし	レガシーアプ リケーション 用エージェン トの収集スケ ジュール(時 間)	・「レガシーアプリケーション 用エージェント」の収集スケ ジュール(時間)を指定しま す。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガ イド』の「エージェント動作定 義ファイル」を参照してくださ い。 ・空文字を指定する場合は、 時間と分の両方を空文字に する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 - クローニングイメージ採取 時の設定値を変更しない場 合 -「レガシーアプリケーション 用セットアップ状態の変更」で 「YES」を指定しかつ時間は デフォルト値(2)のままでよい 場合 (注)変更しない場合は、パラ メーター情報ファイルに <value>タグ自体を含めない でください。 <value>タグが存在すると空 文字としてパラメーターに設</value></value>

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	ァイル	説明
	(コンポーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +-</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
								定されてしまいます。 本パラメーターは空文字の場 合、スケジュール 収集を行わないという意味に なります。
14	エージェントの環境設定	エージのなケシュール	レシプシェジのスジルガーケー用 ト集 ー)	itcm.a gent.le gacy. schedu le.min ute	string	なし	レガシーアプ リケーション 用エージェン トの収集スケ ジュール (分)	・「レガシーアプリケーション 用エージェント」の収集スケ ジュール(分)を指定します。 ・収集スケジュールの設定方 法の詳細は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』の「エージェン ト動作定義ファイル」を参照し てください。 ・空文字を指定する場合は、時間と分の両方を空文字に する必要があります。 ・以下の場合は何も指定する 必要はありません。 - クローニングイメージ採取 時の設定値を変更しない場 合 -「レガシーアプリケーション 用セットアップ状態の変更」で 「YES」を指定し、かつ分はデ フォルト値(30)のままでよい場 合 (注)変更しない場合は、パラ メーター情報ファイルに <value>タグ自体を含めない でください。 <value>タグが存在すると空 文字としてパラメーターに設 定されてしまいます。 本パラメーターは空文字の場 合、スケジュール収集を行わ ないという意味になります。</value></value>
15	エージェン トの環境 設定	エー ジェント のセット アップ	System walker Centric Manage r 用セッ トアップ 状態の 変更	itcm.a gent.s etup.c entric	string	空文字	Systemwalk er Centric Manager 用 セットアップ 状態の変更	 「Systemwalker Software Configuration Manager」のソフトウェアパラ メーター設定機能専用のパラ メーターです。 「Systemwalker Centric Manager 用エージェント」の セットアップについて指定し ます。 ・指定する値と意味は以下の とおりです。

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	アイル	説明
	(コンポーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +-</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
								「空文字」:クローニングイメージ採取時と配備後でエージェントのセットアップ状態は変更しません。 クローニングイメージ採取時にセットアップしていた場合は配備後もセットアップしていた場合は配備後もセットアップ済みの状態となり、セットアップしていなかった場合は配備後もセットアップしていないかった場合は配備後もセットアップしていない状態となります。 「YES」:クローニングイメージ 採取時はセットアップしていない状態で、配備時に自動でセットアップを行う場合に指定します。
16	エージェントの環境設定	エー ジェント のセット アップ	Intersta ge Applica tion Server 用セット アップ 状態の 変更	itcm.a gent.s etup.ia ps	string	空文字	Interstage Application Server 用 セットアップ 状態の変更	 ・「Systemwalker Software Configuration Manager」のソ フトウェアパラメーター設定機 能専用のパラメーターです。 「Interstage Application Server 用エージェント」のセッ トアップについて指定します。 ・指定する値と意味は以下の とおりです。 「空文字」:クローニングイメージ 採取時と配備後でエージェントのセットアップ状態は変更 しません。 クローニングイメージ採取時 にセットアップしていた場合は 配備後もセットアップ済みの 状態となり、セットアップ済みの 状態となり、セットアップしていない状態と なります。 「YES」:クローニングイメージ 採取時はセットアップしてい ない状態で、配備時に自動 でセットアップを行う場合に指 定します。
17	エージェン トの環境 設定	エー ジェント のセット アップ	.NETア プリケー ション用 セット アップ 状態の 変更	itcm.a gent. setup. netapl	string	空文字	.NETアプリ ケーション用 セットアップ 状態の変更	・「Systemwalker Software Configuration Manager」のソ フトウェアパラメーター設定機 能専用のパラメーターです。 「.NETアプリケーション用エー ジェント」のセットアップにつ いて指定します。

No.	大分類	小分類	パラメー		ソフトウェ	ア設定情報フ	ァイル	説明
	(コンボーネ ントなど)		ター (設定項 目)	<key> +-</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須パ ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>	
10			148					・指定する値と意味は以下の とおりです。 「空文字」:クローニングイメージ 採取時と配備後でエージェ ントのセットアップ状態は変更 しません。 クローニングイメージ採取時 にセットアップしていた場合は 配備後もセットアップ済みの 状態となり、セットアップしていない状態と なります。 「YES」:クローニングイメージ 採取時はセットアップしてい ない状態で、配備時に自動 でセットアップを行う場合に指 定します。
18	エージェントの環境設定	ェー ジェント アップ	レシプシセア状変ガーケー用の	itcm.a gent.s etup.le gacy	string	空文字	レガシーアブリケーション用セットアップ状態の変更	 Systemwalker Software Configuration Manager」のソフトウェアパラ メーター設定機能専用のパラ メーターです。 レガシーアプリケーション用 エージェント」のセットアップ について指定します。 指定する値と意味は以下の とおりです。 空文字」:クローニングイメージ ジ採取時と配備後でエージェ ントのセットアップ状態は変更 しません。クローニングイメージ ジ採取時にセットアップしていた場合は配備後もセット アップ済みの状態となり、セッ トアップしていなかった場合 は配備後もセットアップしてい ない状態で、配備時に自動 でセットアップを行う場合に指 定します。

12.10.2 出力メッセージ

出力形式

SWPM	メッセージレベル	メッセージID	メッセージ本文

項目	説明							
SWPM	本製品のメット	本製品のメッセージを出力します。						
メッセージレベル	以下のどれか	以下のどれかです。						
	INFO	情報レベルのメッセージです。						
	WARNING	警告レベルのメッセージです。						
	ERROR	誤りレベルのメッセージです。						
	FATAL	致命的レベルのメッセージです。						
メッセージID	各メッセージは	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。						
メッセージ本文	メッセージの内	四容です。						

出力メッセージ

メッセージID (メッセージレ ベル)	項目	説明							
21000	メッセージ本文	Setup succeeded.							
(INFO)	説明	配備に成功しました。							
	対処方法	配備に成功しました。対処は必要ありません。							
21001	メッセージ本文	Setup failed.							
(ERROR)	説明	配備に失敗しました。							
	対処方法	直前に出力されたエラーメッセージを参照して対処してください。							
21011	メッセージ本文	SWNC start failed.							
(ERROR)	説明	ェージェントの起動に失敗しました。							
	対処方法	直前に管理サーバのログに出力されたエラーメッセージにより起動に失敗した原因を解決し、エージェントを起動してください。 起動方法は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』の「swncctrl(エージェント制御コマンド)」を参照してください。							
21012	メッセージ本文	SWNC stop failed.							
(ERROR)	説明	エージェントの停止に失敗しました。							
	対処方法	失敗した原因の解決後、以下の対処を実施してください。 1.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのアンセットアップ」を参照して、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をアンセットアップしてください。 2.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのセットアップ」を参照 して、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をセットアップしてください。 3.エージェントの各種パラメーターの変更が必要な場合は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』を参照して行ってください。							
21021	メッセージ本文	CMDB Agent (%1) setup failed.							
(ERROR)	説明	CMDBエージェントのセットアップに失敗しました。 %1には、エージェント種別が出力されます。							
	対処方法	失敗した原因の解決後、以下の対処を実施してください。 1.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのアンセットアップ」を参照して、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をアンセットアップしてください。 2.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのセットアップ」を参照して、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をセットアップしてください。							

メッセージID (メッセージレ ベル)	項目	説明						
		3. エージェントの各種パラメーターの変更が必要な場合は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』を参照して行ってください。						
21022	メッセージ本文	CMDB Agent unsetup failed.						
(ERROR)	説明	CMDBのアンセットアップに失敗しました。						
	対処方法	失敗した原因の解決後、以下の対処を実施してください。 1.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのアンセットアップ」を参 照して、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をアンセットアップしてください。 2.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのセットアップ」を参照し て、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をセットアップしてください。 3. エージェントの各種パラメーターの変更が必要な場合は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』を参照して行ってください。						
21031	メッセージ本文	%1 does not exist.						
(ERROR)	説明	ファイル(%1)が存在しません。						
	対処方法	失敗した原因の解決後、以下の対処を実施してください。 1.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのアンセットアップ」で 照して、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をアンセットアップしてくださ 2.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのセットアップ」を参照 て、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をセットアップしてください。 3. エージェントの各種パラメーターの変更が必要な場合は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』を参照して行ってください。						
21032	メッセージ本文	Key: %1 does not exist in %2.						
(ERROR)	説明	ファイル(%2)の中に指定されたキー(%2)は存在しません。						
	対処方法	失敗した原因の解決後、以下の対処を実施してください。 1.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのアンセットアップ」 照して、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をアンセットアップしてくださ 2.『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのセットアップ」を参 て、「Systemwalker IT Change Manager エージェント」をセットアップしてください。 3. エージェントの各種パラメーターの変更が必要な場合は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』を参照して行ってください。						
21099	メッセージ本文	Another error occurred.						
(ERROR)	説明	その他(注)のエラーが発生しました。						
	対処方法	技術員に連絡してください。						
-	メッセージ本文	%1¥scriptpkg¥getreg.vbs(12, 1) WshShell.RegRead: レジストリキー %2を開いて読み取る ことができません。						
	説明	%1には、配備用スクリプトが格納されている一時ディレクトリのパスが出力されます。 %2には、Systemwalker IT Change Manager エージェントのセットアップ状態を示すレジス トリキーが出力されます。 本メッセージは、以下の条件で配備を行った場合に出力されます。 【条件】 1)配備するL-ServerがWindows(32bit/64bit)である。かつ、 2)Systemwalker IT Change Manager エージェントに対して、以下の3つのいずれのセット アップも行わずに作成したL-Serverをもとに配備を行った場合 ・Interstage Application Server用エージェント ・NETアプリケーション用エージェント ・レガシーアプリケーション用エージェント						
		題ありません。						

メッセージID (メッセージレ ベル)	項目	説明
		「SWPM: INFO:[21000] Setup succeeded.」 出力されていない場合は、その後に出力されているメッセージを見て対処してください。

注)そのほかのメッセージについては、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』の「メッセージ」を参照してください。

12.11 Systemwalker Operation Manager

12.11.1 パラメーター情報

No.	大分類	パラメーター	ソフト	ウェア設	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンポーネ ントなど)	(設定項目) 	<key> キー</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
1	Systemwal ker Operation Manager サーバ全 体の設定	コンピュータ 名	omgr.co mputerna me	String	#{server. os.compu tername}	コン ピュー 夕名	この値は、ジョ ブ定義変数に 設定されます。 ジョブ定義変 数名は 「 OMGR_MY_ COMPUTER NAME」です。	すでにジョブ定義変数 「 OMGR_MY_COMPUT ERNAME」が設定されて いる場合、設定済みの値 は上書きされます。 このキーの値は変更しな いでください。
2	Systemwal ker Operation Manager サーバ全 体の設定	IPアドレス	omgr.ipa ddress	string	#{server. nic.ipadd ress}	IPアド レス	この値は、ジョ ブ定義変数に 設定されます。 ジョブ定義変 数名は 「 OMGR_MY_I PADDRESS」 です。	すでにジョブ定義変数 「 OMGR_MY_IPADDRE SS」が設定されている場 合、設定済みの値は上 書きされます。 このキーの値は変更しな いでください。
3	Systemwal ker Operation Manager サーバ全 体の設定	日変わり時刻	omgr.day changeti me	string	なし	日変わり時刻	日変わり時刻 をhhmm形式 で設定します。 例えば3:00の 場合は「0300」 と設定します。 本設定をする と、システム配 備時に jobschcodコマ ンドが実行さ れます。	設定済みの日変わり時刻 は上書きされます。 日変わり時刻の設定を変 更しない場合、このキー は設定しないでください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」 のサービス/デーモンを起 動抑止している場合、こ のキーは設定しないでく ださい。
4	サブシステ ム1の設定	サブシステム 1を作成する	omgr.sys 1. create	string	なし	サブシ ステム 1を作 成する	サブシステム1 を作成する場 合、値に「yes」 を設定します。 本設定をする と、システム配	すでにサブシステム1が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション

No.	大分類	パラメーター	ソフト	、ウェア設:	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンボーネ ントなど)	(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
							備時に createsubsyste m コマンドが実行 されます。	がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」の サービス/デーモンを起 動抑止している場合、配 備後に、作成されたサー ビスを「自動」に変更する 手順が必要です。
5	サブシステ ム1の設定	ポート番号 (jobsch_win 1)	omgr.sys 1.jobsch win1	numbe r	なし	ポート 番号 (jobsc h_win 1)	サブシステム1 用のサービス 「 jobsch_win1」 のポート番号 を設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「jobsch_win1 <ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。
6	サブシステ ム1の設定	ポート番号 (mjsnet1)	omgr.sys 1.mjsnet 1	Numb er	なし	ポート 番号 (mjsne t1)	サブシステム1 用のサービス 「mjsnet1」の ポート番号を 設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32¥ drivers¥etc¥ services 【Linux】 /etc/services に「mjsnet1 <ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済 みのサービスは変更され ません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。

No.	大分類	パラメーター	ソフト	ウェア設	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンボーネ ントなど)	(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
7	サブシステ ム2の設定	サブシステム 2を作成する	omgr.sys 2. create	string	なし	サブテム作る	サブシステム2 を作成に「yes」 をします。 本設定をする と、システム配 備時に createsubsyste mコマンドが実 行されます。	すでにサブシステム2が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム2を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」の サービス/デーモンを起 動抑止している場合、配 備後に、作成されたサー ビスを「自動」に変更する 手順が必要です。
8	サブシステ ム2の設定	ポート番号 (jobsch_win 2)	omgr.sys 2.jobsch win2	Numb er	なし	ポート 番号 (jobsc h_win 2)	サブシステム2 用のサービス 「 jobsch_win2」 のポート番号 を設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「jobsch_win2 <ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。
9	サブシステ ム2の設定	ポート番号 (mjsnet2)	omgr.sys 2.mjsnet 2	numbe r	<u>なし</u>	ポート 番号 (mjsne t2)	サブシステム2 用のサービス 「mjsnet2」の ポート番号を 設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。64ビット アーキテクチャーに対応 したWindowsに Windows x86版の

No.	大分類	パラメーター	ソフト	、ウェア設:	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンポーネ ントなど)	(設定項目)	<key> +-</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
							¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「mjsnet2 < ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	Systemwalker Operation Manager を導入した場合、この キーは設定しないでくだ さい。
10	サブシステ ム3の設定	サブシステム 3を作成する	omgr.sys 3.create	string	なし	サブシ ステム 3を作 成する	サブシステム3 を作成する場 合、値に「yes」 を設定します。 本設定をする と、システム配 備時に createsubsyste mコマンドが実 行されます。	すでにサブシステム3が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム3を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」の サービス/デーモンを起 動抑止している場合、配 備後に、作成されたサー ビスを「自動」に変更する 手順が必要です。
11	サブシステ ム3の設定	ポート番号 (jobsch_win 3)	omgr.sys 3.jobsch win3	numbe r	なし	ポート 番号 (jobsc h_win 3)	サブシステム3 用のサービ 「 jobsch_win3」 のポート番号 を設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「jobsch_win3 <ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。
12	サブシステ ム3の設定	ポート番号 (mjsnet3)	omgr.sys 3.mjsnet 3	numbe r	なし	ポート 番号 (mjnet 3)	サブシステム3 用のサービス 「mjsnet3」の ポート番号を 設定します。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな

No.	大分類	パラメーター	ソフト	ウェア設	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンボーネ ントなど)	(設定項目)	<key> +</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
							本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「mjsnet3 < ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導入した場合、 このキーは設定しないで ください。
13	サブシステ ム4の設定	サブシステム 4を作成する	omgr.sys 4. create	string	なし	サステム 4をする	サブシステム4 を作成に「yes」 合、値に「yes」 を設設定をする と、システム配 備 createsubsyste mコマンドがます。	すでにサブシステム4が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム4を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」の サービス/デーモンを起 動抑止している場合、配 備後に、作成されたサー ビスを「自動」に変更する 手順が必要です。
14	サブシステ ム4の設定	ポート番号 (jobsch_win 4)	omgr.sys 4.jobsch win4	numbe r	なし	ポート 番号 (jobsc h_win 4)	サブシステム4 用のサービス 「 jobsch_win4」 のポート番号 を設定します。 本設定をす ると、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「jobsch_win4 <ポート番号>/	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。

No.	大分類	パラメーター	ソフト	・ウェア設	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンボーネ ントなど)	(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
							tcp」が登録さ れます。	
15	サブシステ ム4の設定	ポート番号 (mjsnet4)	omgr.sys 4.mjsnet 4	numbe r	なし	ポート 番号 (mjsne t4)	サブシステム4 用のサービス 「mjsnet4」の ポート番号を 設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「mjsnet4 < ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導入した場合、 このキーは設定しないで ください。
16	サブシステ ム5の設定	サブシステム 5を作成する	omgr.sys 5. create	string	なし	サブシム 5を作る	サブシステム5 を作成する場 合、値に「yes」 を設定します。 本設定をする と、システム配 備時に createsubsyste mコマンドが実 行されます。	すでにサブシステム5が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム5を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」の サービス/デーモンを起 動抑止している場合、配 備後に、作成されたサー ビスを「自動」に変更する 手順が必要です。
17	サブシステ ム5の設定	ポート番号 (jobsch_win 5)	omgr.sys 5.jobsch win5	Numb er	なし	ポート 番号 (jobsc h_win 5)	サブシステム5 用のサービス 「 jobsch_win5 」 のポート番号 を設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Edtitionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに

No.	大分類	パラメーター	ソフト	、ウェア設:	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンポーネ ントなど)	(設定項目) 	<key> +-</key>	(<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
							¥system32¥ drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicees に 「jobsch_win5 <ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。
18	サブシステ ム5の設定	ポート番号 (mjsnet5)	omgr.sys 5.mjsnet 5	Numb er	なし	ポート 番号 (mjsne t5)	サブシステム5 用のサービス 「mjsnet5」の ポート番号を 設定します。 本設定をする と、 【Windows】シ ステムディレク トリ ¥system32¥ drivers¥etc¥ services 【Linux】/etc/ servicesにこ 「mjsnet5 < ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。
19	サブシステ ム6の設定	サブシステム 6を作成する	omgr.sys 6.create	string	なし	サステム 作る	サブシステム6 を作成する場 合、値に「yes」 を設定します。 本設定をする と、システム配 備時に createsubsyste mコマンドが実 行されます。	すでにサブシステム6が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム6を作成しな い場合や、エディションが Standard Editionの場合、 このキーは設定しないで ください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」の サービス/デーモンを起 動抑止している場合、配 備後に、作成されたサー ビスを「自動」に変更する 手順が必要です。
20	サブシステ ム6の設定	ポート番号 (jobsch_win 6)	omgr.sys 6.jobsch win6	Numb er	なし	ポート 番号 (jobsc	サブシステム 6 用のサービス 「	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変

No.	大分類	パラメーター	ソフト	、ウェア設活	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンポーネ ントなど)	(設定項目) 	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
						h_win 6)	jobsch_win6」 のポート番号 を設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「jobsch_win6 <ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導入した場合、 このキーは設定しないで ください。
21	サブシステ ム6の設定	ポート番号 (mjsnet6)	omgr.sys 6. mjsnet6	Numb er	なし	ポート 番号 (mjsne t6)	サブシステム6 用のサービス 「mjsnet6」の ポート番号を 設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「mjsnet6 < ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。
22	サブシステ ム7の設定	サブシステム 7を作成する	omgr.sys 7.create	string	なし	サブシム7をする	サブシステム7 を作成する場 合、値に「yes」 を設定します。 本設定をする と、システム配 備時に createsubsyste mコマンドが実 行されます。	すでにサブシステム7が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム7を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」の サービス/デーモンを起 動抑止している場合、配

No.	大分類	パラメーター	ソフト	・ウェア設	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンボーネ ントなど)	(設定項目)	<key> +-</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
								備後に、作成されたサー ビスを「自動」に変更する 手順が必要です。
23	サブシステム7の設定	ポート番号 (jobsch_win 7)	omgr.sys 7.jobsch win7	Numb er	なし	ポート 番号 (jobsc h_win 7)	サブシステム7 用のサービス 「 jobsch_win7」 のポート番号 を設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「jobsch_win7 <ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。
24	サブシステ ム7の設定	ポート番号 (mjsnet7)	omgr.sys 7.mjsnet 7	Numb er	なし	ポート 番号 (mjsne t7)	サブシステム7 用のサービス 「mjsnet7」の ポート番号を 設定します。 本設定をする と、 【Windows】シ ステムディレク リ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「mjsnet7 < ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導入した場合、 このキーは設定しないで ください。
25	サブシステ ム8の設定	サブシステム 8を作成する	omgr.sys 8.create	string	なし	サブシ ステム 8を作 成する	サブシステム8 を作する場合、 値に「yes」を設 定します。 本設定をする と、システム配 備時に	すでにサブシステム8が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム8を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場

No.	大分類	パラメーター	ソフト	、ウェア設!	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンポーネ ントなど)	(設定項目)	<key> キー</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
							createsubsyste mコマンドが実 行されます。	 合、このキーは設定しないでください。 クローニングイメージで「Systemwalker Operation Manager」のサービス/デーモンを起動抑止している場合、配備後に、作成されたサービスを「自動」に変更する手順が必要です。
26	サブシステム8の設定	ポート番号 (jobsch_win 8)	omgr.sys 8.jobsch win8	Numb er	なし	ポート 番号 (jobsc h_win 8)	サブシステム8 用のサービス 「 jobsch_win8」 のポート番号 を設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「jobsch_win8 <ポート番号>// tcp」が登録さ れま す。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導入した場合、 このキーは設定しないで ください。
27	サブシステム8の設定	ポート番号 (mjsnet8)	omgr.sys 8.mjsnet 8	Numb er	なし	ポート 番号 (mjsne t8)	サブシステム8 用のサービス 「mjsnet8」の ポート番号を 設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「mjsnet8 < ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導 入した場合、このキーは 設定しないでください。

No.	大分類	パラメーター	ソフト	、ウェア設	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンボーネ ントなど)	(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
28	サブシステ ム9の設定	サブシステム 9を作成する	omgr.sys 9.create	string	なし	サブシム 9を作 成する	サブシステム9 を作成する場 合、値に「yes」 を設定します。 本設定をする と、システム配 備時に createsubsyste mコマンドが実 行されます。	すでにサブシステム9が 作成されている場合、作 成済みのサブシステムは 変更されません。 サブシステム9を作成しな い場合や、エディション がStandard Editionの場 合、このキーは設定しな いでください。 クローニングイメージで 「Systemwalker Operation Manager」の サービス/デーモンを起 動抑止している場合、配 備後に、作成されたサー ビスを「自動」に変更する 手順が必要です。
29	サブシステ ム9の設定	ポート番号 (jobsch_win 9)	omgr.sys 9.jobsch win9	Numb er	なし	ポート 番号 (jobsc h_w n9)	サブシステム9 用のサービス 「 jobsch_win9」 のポート番号 を設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services 【Linux】 /etc/servicesに 「jobsch_win9 <ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディションが Standard Editionの場合、 このキーは設定しないで ください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation Managerを導入した場合、 このキーは設定しないで ください。
30	サブシステ ム9の設定	ポート番号 (mjsnet9)	omgr.sys 9. mjsnet9	Numb er	なし	ポート 番号 (mjsne t9)	サブシステム9 用のサービス 「mjsnet9」の ポート番号を 設定します。 本設定をする と、 【Windows】 システムディレ クトリ ¥system32 ¥drivers¥etc ¥services	すでに同名のサービス名 が登録されている場合、 登録済みのサービスは変 更されません。 サブシステム1を作成しな い場合や、エディションが Standard Editionの場合、 このキーは設定しないで ください。 64ビットアーキテクチャー に対応したWindowsに Windows x86版の Systemwalker Operation

No.	大分類	パラメーター	ソフト	・ウェア設	定情報ファイ	ル	説明	備考
	(コンポーネ ントなど)	(設定項目)	<key> +—</key>	<type> 型</type>	<value> 設定必須 ラメーター のデフォル ト値</value>	<label> ラベル</label>		
							【Linux】 /etc/servicesに 「mjsnet9 < ポート番号>/ tcp」が登録さ れます。	Managerを導入した場合、 このキーは設定しないで ください。

12.11.2 出力メッセージ

出力形式

メッセージレベル		メッセージID	メッセージ本文			
項目	説明					
メッセージレベル	以下のどれかです。					
	INFO	情報レベルのメッセージです。				
	WARNING	警告レベルのメッセージです。				
	ERROR	誤りレベルのメッセージです。				
	FATAL	致命的レベルのメッセージです	0			
メッセージID	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。					
メッセージ本文	メッセージの内容です。					

出力メッセージ

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
0001	メッセージ本文	The Start-up script of Systemwalker Operation Manager is started.
(INFO)	説明	「Systemwalker Operation Manager」のスタートアップスクリプトが開始されました。
	対処方法	対処は不要です。
0110 (ERROR)	メッセージ本文	Registry "JM FullPathName" is not found. There is a possibility that Systemwalker Operation Manager is not installed.
	説明	「Systemwalker Operation Manager」のレジストリ'JM FullPathName'が見つかりません。 「Systemwalker Operation Manager」がインストールされていない可能性があります。
	対処方法	「Systemwalker Operation Managerサーバ」をインストールしてください。
0111	メッセージ本文	Install path is aaa .
(INFO)	説明	「Systemwalker Operation Manager」のインストールパスはaaaです。 aaaには、インストールディレクトリが出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0120 (ERROR)	メッセージ本文	/opt/FJSVJOBSC is not found. There is a possibility that Systemwalker Operation Manager is not installed.

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明			
	説明	/opt/FJSVJOBSCディレクトリが見つかりません。 「Systemwalker Operation Manager」がインストールされていない可能性があります			
	対処方法	「Systemwalker Operation Managerサーバ」をインストールしてください。			
0210	メッセージ本文	The edition is Standard Edition .			
(INFO)	説明	エディションはStandard Editionです。			
	対処方法	対処は不要です。			
0220	メッセージ本文	The sub-system that should make it is "m n".			
(INFO)	説明	作成されるサブシステムはmnです。 mnには、1から9のサブシステム番号が出力されます。			
	対処方法	対処は不要です。			
0230	メッセージ本文	Services file cannot be opened. Please confirm whether OS is abnormal.			
(ERROR)	説明	servicesファイルがオープンできません。OSが異常でないか確認してください。 64ビットアーキテクチャーに対応したWindowsにWindows x86版のSystemwalker Operation Managerを導入した場合は、ソフトウェア設定情報ファイルにポート番号 のパラメーターを設定している可能性があります。			
	対処方法	【Windows】 システムディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥services 【Linux】 /etc/services が存在するか、また、エディタなどで開くことができるか確認してください。 64ビットアーキテクチャーに対応したWindowsにWindows x86版のSystemwalker Operation Managerを導入した場合は、ポート番号のパラメーターを設定することは できません。ソフトウェア設定情報ファイルから、ポート番号の設定を削除してくだ さい。			
0241	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win1"" has already been registered.			
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win1'は、すでにservicesファイルに登録されています。			
	対処方法	対処は不要です。			
0242	メッセージ本文	Service name "mjsnet1" has already been registered.			
(INFO)	説明	サービス名'mjsnet1'は、すでにservicesファイルに登録されています。			
	対処方法	対処は不要です。			
0243	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win2"" has already been registered.			
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win2'は、すでにservicesファイルに登録されています。			
	対処方法	対処は不要です。			
0244	メッセージ本文	Service name "mjsnet2" has already been registered.			
(INFO)	説明	サービス名'mjsnet2'は、すでにservicesファイルに登録されています。			
	対処方法	対処は不要です。			
0245	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win3"" has already been registered.			
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win3'は、すでにservicesファイルに登録されています。			
	対処方法	対処は不要です。			
0246	メッセージ本文	Service name "mjsnet3" has already been registered.			
(INFO)	説明	サービス名'mjsnet3'は、すでにservicesファイルに登録されています。			
	対処方法	対処は不要です。			

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
0247	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win4"" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win4'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0248	メッセージ本文	Service name "mjsnet4" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'mjsnet4'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0249	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win5"" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win5'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0250	メッセージ本文	Service name "mjsnet5" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'mjsnet5'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0251	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win6"" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win6'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0252 (INFO)	メッセージ本文	Service name "mjsnet6" has already been registered.
	説明	サービス名'mjsnet6'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0253	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win7"" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win7'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0254	メッセージ本文	Service name "mjsnet7" has already been registered
(INFO)	説明	サービス名'mjsnet7'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0255	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win8"" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win8'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0256	メッセージ本文	Service name "mjsnet8" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'mjsnet8'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0257	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win9"" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'jobsch_win9'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0258	メッセージ本文	Service name "mjsnet9" has already been registered.
(INFO)	説明	サービス名'mjsnet9'は、すでにservicesファイルに登録されています。
	対処方法	対処は不要です。
0270	メッセージ本文	Services file cannot be opened. Please confirm whether OS is abnormal.
(ERROR)	説明	servicesファイルがオープンできません。 OSが異常でないか確認してください。

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
	対処方法	【Windows】 システムディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥services 【Linux】 /etc/services が存在するか、また、エディタなどで開いて書き込みが可能か確認してください。
0281	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win1 aaa/tcp"" is registered.
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win1が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0282	メッセージ本文	Service name "mjsnet1 aaa/tcp" is registered.
(INFO)	説明	サービス名mjsnet1が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0283	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win2 aaa/tcp"" is registered.
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win2が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0284	メッセージ本文	Service name "mjsnet2 aaa/tcp" is registered.
(INFO)	説明	サービス名mjsnet2が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0285	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win3 aaa/tcp"" is registered.
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win3が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0286	メッセージ本文	Service name "mjsnet3 aaa/tcp" is registered.
(INFO)	説明	サービス名mjsnet3が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0287	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win4 aaa/tcp"" is registered.
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win4が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0288	メッセージ本文	Service name "mjsnet4 aaa/tcp" is registered.
(INFO)	説明	サービス名mjsnet4が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0289	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win5 aaa/tcp"" is registered.
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win5が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0290 (INFO)	メッセージ本文	Service name "mjsnet5 aaa/tcp" is registered.

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明				
	説明	サービス名mjsnet5が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0291	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win6 aaa/tcp"" is registered.				
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win6が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0292	メッセージ本文	Service name "mjsnet6 aaa/tcp" is registered.				
(INFO)	説明	サービス名mjsnet6が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0293	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win7 aaa/tcp"" is registered.				
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win7が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0294	メッセージ本文	Service name "mjsnet7 aaa/tcp" is registered.				
(INFO)	説明	サービス名mjsnet7が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0295	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win8 aaa/tcp"" is registered.				
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win8が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0296	メッセージ本文	Service name "mjsnet8 aaa/tcp" is registered.				
(INFO)	説明	サービス名mjsnet8が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0297	メッセージ本文	Service name ""jobsch_win9 aaa/tcp"" is registered.				
(INFO)	説明	サービス名jobsch_win9が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0298	メッセージ本文	Service name "mjsnet9 aaa/tcp" is registered.				
(INFO)	説明	サービス名mjsnet9が登録されました。 aaaには、ポート番号が出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0311	メッセージ本文	The command "createsubsystem -sys n" is successful (aaa).				
(INFO)	説明	createsubsystemコマンドが成功しました。 nには、サブシステム番号が出力されます。 aaaには、コマンドが出力したメッセージが出力されます。				
	対処方法	対処は不要です。				
0312 (ERROR)	メッセージ本文	The command ""createsubsystem -sys n"" is failed. aaa				

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
	説明	createsubsystemコマンドが失敗しました。 nには、サブシステム番号が出力されます。 aaaには、コマンドが出力したメッセージが出力されます。
	対処方法	『Systemwalker Operation Manager メッセージ説明書』を参照し、コマンドが出力したメッセージにしたがった対処をしてください。
0313	メッセージ本文	The command "createsubsystem -sys n" is successful.
(INFO)	説明	createsubsystemコマンドが成功しました。 nには、サブシステム番号が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0511	メッセージ本文	The command "jobschcod hhmm" is successful. (aaa)
(INFO)	説明	jobschcodコマンドが成功しました。 hhmmには、日変わり時刻が出力されます。 aaaには、コマンドが出力したメッセージが出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0512	メッセージ本文	The command "jobschcod hhmm" is failed. aaa
(ERROR)	説明	jobschcodコマンドが失敗しました。 hhmmには、日変わり時刻が出力されます。 aaaには、コマンドが出力したメッセージが出力されます。
	対処方法	『Systemwalker Operation Manager メッセージ説明書』を参照し、コマンドが出力したメッセージにしたがった対処をしてください。
0513	メッセージ本文	The command ""jobschcod hhmm"" is successful.
(INFO)	説明	jobschcodコマンドが成功しました。 hhmmには、日変わり時刻が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0611	メッセージ本文	The computer-name is aaa .
(INFO)	説明	コンピュータ名はaaaです。
	対処方法	対処は不要です。
0612	メッセージ本文	The ip-address is aaa .
(INFO)	説明	IPアドレスはaaaです。
	対処方法	対処は不要です。
0630	メッセージ本文	The file "aaa" is newly made.
(INFO)	説明	ファイル aaa は新規作成されます。 aaaには、ファイル名が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0631 (ERROR)	メッセージ本文	aaa file cannot be opened. Please confirm whether Systemwalker Operation Manager is abnormal.
	説明	ファイル aaa をオープンすることができませんでした。「Systemwalker Operation Manager」が異常でないか確認してください。 aaaには、ファイル名が出力されます。
	対処方法	「Systemwalker Operation Manager」が正常にインストールされているか確認してください。 また、イベントビューアやSYSLOGに「Systemwalker Operation Manager」のメッセージが出力されている場合は、メッセージにしたがった対処をしてください。

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
0640 (ERROR)	メッセージ本文	aaa file cannot be opened. Please confirm whether Systemwalker Operation Manager is abnormal.
	説明	ファイル aaa をオープンすることができませんでした。 「Systemwalker Operation Manager」が異常でないか確認してください。 aaaには、ファイル名が出力されます。
	対処方法	「Systemwalker Operation Manager」が正常にインストールされているか確認してください。 また、イベントビューアやSYSLOGに「Systemwalker Operation Manager」のメッセージが出力されている場合は、メッセージにしたがった対処をしてください。
0660	メッセージ本文	The section "VARIABLE_REPLACEMENT" is newly made for aaa.
(INFO)	説明	ファイル aaa に、セクション VARIABLE_REPLACEMENT が新規作成されます。 aaaには、ファイル名が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0661 (ERROR)	メッセージ本文	aaa file cannot be opened. Please confirm whether Systemwalker Operation Manager is abnormal.
	説明	ファイル aaa をオープンすることができませんでした。 「Systemwalker Operation Manager」が異常でないか確認してください。 aaaには、ファイル名が出力されます。
	対処方法	「Systemwalker Operation Manager」が正常にインストールされているか確認してください。 また、イベントビューアやSYSLOGに「Systemwalker Operation Manager」のメッセージが出力されている場合は、メッセージにしたがった対処をしてください。
0680	メッセージ本文	In file aaa , the section "VARIABLE_REPLACEMENT" already exists.
(INFO)	説明	ファイル aaa に、セクション VARIABLE_REPLACEMENT はすでに存在しています。
		aaaには、ファイル名が出力されます。
	対処方法	対処は不要です。
0691	メッセージ本文	It failed in making file aaa . There is a possibility without an enough disk.
(ERROR)	説明	ファイル aaa の作成に失敗しました。ディスク容量が足りない可能性があります。 aaaには、ファイル名が出力されます。
	対処方法	aaaが作成されるディレクトリに、十分なディスク容量を確保してください。
0692 (ERROR)	メッセージ本文	aaa file cannot be opened. Please confirm whether Systemwalker Operation Manager is abnormal.
	説明	ファイル aaa をオープンすることができませんでした。 「Systemwalker Operation Manager」が異常でないか確認してください。 aaaには、ファイル名が出力されます。
	対処方法	「Systemwalker Operation Manager」が正常にインストールされているか確認してください。 また、イベントビューアやSYSLOGに「Systemwalker Operation Manager」のメッセージが出力されている場合は、メッセージにしたがった対処をしてください。
0693 (ERROR)	メッセージ本文	aaa file cannot be opened. Please confirm whether Systemwalker Operation Manager is abnormal.
	説明	ファイル aaa をオープンすることができませんでした。 「Systemwalker Operation Manager」が異常でないか確認してください。 aaaには、ファイル名が出力されます。

メッセージID (メッセージレベル)	項目	説明
	対処方法	「Systemwalker Operation Manager」が正常にインストールされているか確認してください。 また、イベントビューアやSYSLOGに「Systemwalker Operation Manager」のメッセージが出力されている場合は、メッセージに従った対処をしてください。
0701	メッセージ本文	The key "OMGR_MY_COMPUTERNAME" is added.
(INFO)	説明	ジョブ定義変数 OMGR_MY_COMPUTERNAME が追加されます。
	対処方法	対処は不要です。
0702	メッセージ本文	The key "OMGR_MY_IPADDRESS" is added.
(INFO)	説明	ジョブ定義変数 OMGR_MY_IPADDRESS が追加されます。
	対処方法	対処は不要です。
0706	メッセージ本文	The key "OMGR_MY_COMPUTERNAME" is modified.
(INFO)	説明	ジョブ定義変数 OMGR_MY_COMPUTERNAME の値が変更されます。
	対処方法	対処は不要です。
0707	メッセージ本文	The key ""OMGR_MY_IPADDRESS"" is modified.
(INFO)	説明	ジョブ定義変数 OMGR_MY_IPADDRESS の値が変更されます。
	対処方法	対処は不要です。
0711	メッセージ本文	The key "OMGR_MY_COMPUTERNAME" is added.
(INFO)	説明	ジョブ定義変数 OMGR_MY_COMPUTERNAME が追加されます。
	対処方法	対処は不要です。
0712	メッセージ本文	The key "OMGR_MY_IPADDRESS" is added.
(INFO)	説明	ジョブ定義変数 OMGR_MY_IPADDRESS が追加されます。
	対処方法	対処は不要です。

12.12 Systemwalker Runbook Automation (連携サーバ/中継サーバ/ 業務サーバ)

12.12.1 パラメーター情報

【Systemwalker Runbook Automation (連携サーバ/中継サーバ)】

No.	大分類(コンポー ネントなど)	パラメーター(設定 項目)	ソフトウェア設定情報ファイル				
			<key> +—</key>	<type>型</type>	<value>設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	<label>ラベル</label>	
1	連携サーバ/中 継サーバの設 定	連携サーバ/中 継サーバのホス ト名	agent.ho stname	string	#{server.os.computername}	連携サーバ/中継サー バのホスト名	
2	連携サーバ/中 継サーバの設 定	連携サーバ/中 継サーバのIPア ドレス	agent.ip address	string	#{server.nic.ipaddress}	連携サーバ/中継サー バのIPアドレス	
3	連携サーバ/中 継サーバの設 定	連携サーバ/中 継サーバのポー ト番号	agent.po rt number	Numb er	なし	連携サーバ/中継サー バのポート番号	

No.	大分類(コンポー	パラメーター(設定	ソフトウェア設定情報ファイル				
	ネントなど)	項目)	<key> +—</key>	<type>型</type>	<value>設定必須パラメーター のデフォルト値</value>	<label>ラベル</label>	
4	管理サーバの 設定	管理サーバのホ スト名	agent.m ana gerhostn ame	string	空文字	管理サーバの ホスト名	
5	管理サーバの 設定	管理サーバの Webサービスの ポート番号	agent.m ana gerportn umber	Numb er	なし	管理サーバの Webサービスの ポート番号	

【Systemwalker Runbook Automation (業務サーバ)】

No	大分類(コンポーネントな	パラメーター	ソフトウェア設定情報ファイル				
•	(غ	(設定項目)	<key>+—</key>	<type>型</type>	<value>設定必須パラ メーターのデフォルト値</value>	<label>ラベル</label>	
1	業務サーバの設定	業務サーバ のホスト名	agent.hostna me	string	#{server.os.computern ame}	業務サーバの ホスト名	
2	業務サーバの設定	業務サーバ のIPアドレス	agent.ipaddre ss	string	#{server.nic.ipaddress }	業務サーバの IPアドレス	

12.12.2 出力メッセージ

ありません。

12.13 Systemwalker Service Quality Coordinator

12.13.1 パラメーター情報

No	大分類	パラメ ー ター (設定項目)	ソフトウェア設定情報ファイル				
•	(コンポーネントなど)		<key>+—</key>	<type>型</type>	<value>設定必須パラ メーターのデフォルト値</value>	<label>ラベル</label>	
1	Systemwalker Service Quality Coordinatorの設 定	ホスト名	sqc.hostname	string	#{server.os.computern ame}	ホスト名	
2	Systemwalker Service Quality Coordinatorの設 定	IPアドレス	sqc.ipaddress	string	#{server.nic.ipaddress }	IPアドレス	

12.13.2 出力メッセージ

ありません。

12.14 UpdateAdvisor(ミドルウェア)

12.14.1 パラメーター情報

ありません。

12.14.2 出力メッセージ

ありません。

第13章 トラブル対処の流れ

本章では、トラブル発生時の対処の流れについて説明します。

ソフトウェアパラメーター設定機能では、トラブルに対して原因を追求するために、調査資料を採取することを推奨しています。トラブル 直後の調査資料を採取することにより、本章の対処方法で対処できなかった場合のトラブルに対して、調査および原因追及ができます。 トラブルが発生してからの手順は、以下のようになります。

1. トラブルが発生したと思ったら、まず調査資料を採取します。

- 2. 発生している現象に対して、それぞれの対処、確認作業を行います。
- 3. 対処できた場合は、そのまま運用を継続してください。

手順1.で採取した調査資料は、次のトラブル時に利用するために保管しておいてください。

4. 対処できなかった場合は、手順1.で採取した調査資料を技術員に送付し、調査を依頼してください。

13.1 調査資料の採取について

トラブルが発生した場合、まずはソフトウェアパラメーター設定機能が出力するエラーメッセージの内容を確認し、対処してください。対処方法は「第6部メッセージ」を参照してください。

対処できなかった場合には、トラブルが発生している管理サーバまたはL-Serverで、以下に示す資料を採取してください。

管理サーバ

以下のファイルを採取します。

[Windows]

```
<ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥bin¥cfmgcommand.properties
<ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥config¥*
<ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥logs¥*
<ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥logs¥*
```

[Linux]

/etc/opt/FJSVcfmg/bin/* /etc/opt/FJSVcfmg/config/* /opt/FJSVInkbs/Ink02/log/* /var/opt/FJSVcfmg/logs/*

L-Server

以下のファイルを採取します。

[Windows]

%SystemDrive%¥ProgramData¥Fujitsu¥FJSVswrbac¥cfmg¥log¥* <エージェントのインストールディレクトリ>¥FJSVInkbs¥Ink02¥log¥*

Windows Server 2003の場合は、以下の出力先になります。

%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥ApplicationData¥Fujitsu¥FJSVswrbac¥cfmg¥log¥* <エージェントのインストールディレクトリ>¥FJSV1nkbs¥1nk02¥log¥*

[Linux]

/opt/FJSVInkbs/Ink02/log/* /var/opt/FJSVswrbac/cfmg/log/*


ここで説明しているログの出力先はデフォルトの場合です。ログの出力先は変更することもできるので、実際の出力先を確認してくださ い。ログ出力の詳細については、「9.1 ログ出力」を参照してください。

第14章 配備に関するトラブルシューティング

本章では、配備に関するトラブルシューティングについて説明します。

14.1 配備に成功したがL-ServerのIPアドレスで接続できない

対象バージョンレベル

- Windows版: ServerView Resource Orchestrator V3.0
- Linux版:ServerView Resource Orchestrator V3.0

14.1.1 対処1

確認ポイント

配備に成功したが、L-Platform管理画面に表示されるL-Server (Windows)のIPアドレスで接続できない現象ではありませんか。かつ、 VMwareなどのサーバ仮想化ソフトウェアの機能に、IPアドレスではなくコンソールでL-Serverに接続できる機能があります。この機能 でWindowsにログインしてください。このときに、以下の現象が発生しませんか。

・ パスワードの再設定を要求される、かつ、

パスワードの再設定に失敗してログインできない。

・ パスワードの再設定を要求される、かつ、

ログインは成功するが、正しいIPアドレスが設定されていない。

原因

WindowsのL-Serverを配備してから、イメージを作成することを繰り返し実施すると現象が発生します。

本製品は、WindowsのクローニングにSysprepを使用しています。この使用回数には制限があるため、イメージの作成を繰り返し実施 できません。

対処方法

Windowsを再インストールして、イメージを再作成してください。

14.1.2 対処2

確認ポイント

「Windowsはシステム構成を完了できません」と表示されていませんか。

原因

イメージを採取したL-Serverにインストールされているソフトウェアが原因でSysprepに失敗している可能性があります。

対処方法

原因となっているソフトウェアを特定して、そのソフトウェアをインストールしないようにしてください。特定するには、OS、ソフトウェアを1 つずつインストールし、どの時点で問題が発生するかを確認してください。なお、原因となっているソフトウェアをアンインストールしても 問題が発生する可能性があります。必ずOSのインストールから実施してください。



「付録Aオペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)」および『ミドルウェア パラメーター設定ガイド』に記載されているミドルウェア・ソフトウェアにおいては、Sysprepに問題がないことを確認済みです。

14.2 L-Platformの配備後、L-Platform管理画面のイベントログに 「VSYS30002」エラーが出力される

エラーメッセージ

Warning :VSYS30002:Failed to set up middleware. [System ID:div3-6MPBCQH6L][Server Name:サーバ][Detail:VSYS(VSYS40476)]

対象バージョンレベル

- Windows版:ServerView Resource Orchestrator V3.0
- Linux版:ServerView Resource Orchestrator V3.0

14.2.1 対処1

確認ポイント

管理サーバ上のvsys_trace_logログに、「VSYS40476」エラーが出力されていませんか。かつ、

このログのDetailMessageに、「VSYS40738」エラーが出力されていませんか。



[2011-01-20 13:58:17,730] ERROR Error :

java.lang.Exception: VSYS40476:run job error. detail=[IpAddress:10.124.70.214, CategoryCode:0, ErrorCode:0, DetailCode: 0, DetailMessage:VSYS40738:it_failed_in_the_execution_of_the_command.Command=[C:¥Windows¥TEMP¥cfmg¥SW00000142¥scriptpkg ¥startup.cmd]_ReturnCode=[1]] server_id=[div3-6MPBCQH6L-S-0001] software_id=[SW00000142] jobname=[cfmg_setupmw] at com.fujitsu.sop.vsys.vsys.mw.MwSetup.run(MwSetup.java:1176)

L-Server上のcfmg-agent_setupmw_logログに、「VSYS40738」エラーが出力されていませんか。



VSYS40738:it_failed_in_the_execution_of_the_command.Command=[C:¥Windows¥TEMP¥cfmg¥SW00000142¥scriptpkg ¥startup.cmd]_ReturnCode=[1]

原因

ソフトウェアのパラメーターを設定するスクリプトでエラーが発生しました。

エラー発生の原因は、次のどちらかです。

a. ソフトウェア固有のエラー

b. ソフトウェアがインストールされていない

対処方法

a. ソフトウェア固有のエラーの場合

L-Server上のcfmg-agent_setupmw_logログに、「VSYS40738」エラーが出力されます。このログの前に詳細なメッセージが表示されるので、内容を確認してください。以下に例を示します。

🌽 例

[INF0] ------[INF0] ERROR0001 setup failed [INF0] ------[ERROR]VSYS40738:it_failed_in_the_execution_of_the_command.Command=[C:\Windows\TEMP\cfmg\SW00000142\Scriptpkg \startup.cmd]_ReturnCode=[1]

ソフトウェアパラメーター設定機能が提供しているソフトウェア設定情報を使われている場合は、「第12章 ミドルウェアパラメーター 設定情報」に出力メッセージと対処方法が書かれていますので、参照してください。

b. ソフトウェアがインストールされていない場合

対象のソフトウェアがインストールされているか確認してください。一部のソフトウェアは、インストール手順が説明されています。 詳細は、「付録Aオペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server作成時編)」を参照してください。

14.2.2 対処2

確認ポイント

管理サーバ上のvsys_trace_logログに、「VSYS40478」エラーが出力されていませんか。

🄰 例

[2011-01-19 13:20:13.481] ERROR Error :

java.lang.Exception: VSYS40478:start waiting job error. detail=[IpAddress:10.128.159.46,CategoryCode:50,ErrorCode: 80,DetailCode:10] server_id=[div01-JZ2M561UR-S-0001] jobname=[cfmg_startwait] at com.fujitsu.sop.vsys.vsys.mw.MwSetup.run(MwSetup.java:937)

原因

管理サーバと配備したL-Serverが通信できないため、ソフトウェアのパラメーター設定に失敗しています。通信できない原因は複数存在するため、考えられる原因を以下に示します。

- a. L-Serverに、本製品のエージェントをインストールしていない。
- b. L-ServerがLinuxの場合に、OSのシステムパラメーターをチューニングしていない。
- c. 管理サーバやL-Serverでファイル転送基盤が使用するポート(デフォルト9664)を受信できるように設定していない。
- d. 管理サーバとL-Serverがネットワークで繋がっていない。
- e. L-Serverが複数のNICを搭載している場合に、制御NICを誤って設定している。
- f. 管理サーバやL-Serverが複数のルータに接続している場合に、ルーティングの設定をしていない。

g. L-Platform管理画面に表示されるL-Server (Windows)のIPアドレスで接続できない。

対処方法

a. L-Serverに、本製品のエージェントをインストールしていない場合

L-Serverに本製品のエージェントをインストールしてください。詳細は、「3.2 インストール」を参照してください。

b. L-ServerがLinuxの場合に、OSのシステムパラメーターをチューニングしていない場合

L-ServerでOSのシステムパラメーターをチューニングしてください。詳細は、「3.1.2 システムパラメーターのチューニング【Linux】」 を参照してください。

c. 管理サーバやL-Serverでファイル転送基盤が使用するポート(デフォルト9664)を受信できるように設定していない場合

管理サーバやL-Serverでファイル転送基盤が使用するポート(デフォルト9664)を受信できるように設定してください。OSのファイ アーウォールを設定することになります。詳細は、「2.1.3 ポート番号の確認」を参照してください。

d. 管理サーバとL-Serverがネットワークで繋がっていない場合

管理サーバとL-Serverをネットワークで繋げてください。例えば、以下の確認や対処をしてください。

- 管理サーバからL-Serverにpingコマンドで繋がるか確認してください(pingコマンドはファイアーウォールにより使用できない 場合があります)。
- L-Serverが繋がっているネットワークセグメントが、管理サーバに接続できるかを確認してください。接続できない場合は、接続できるネットワークセグメントを選択してください。
- e. L-Serverが複数のNICを搭載している場合に、制御NICを誤って設定している場合

L-Serverが複数のNICを搭載している場合は、管理サーバと通信できるNICを制御NICとして指定する必要があります。指定方法の詳細は、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition リファレンスガイドインフラ管理者編』の「テンプレート情報操作」を参照してください。

f. 管理サーバやL-Serverが複数のルータに接続している場合に、ルーティングの設定をしていない場合

管理サーバやL-Serverが複数のルータに接続している場合は、ルーティングの設定をしてください。詳細は、「A.1 オペレーティングシステム」を参照してください。

g. L-Platform管理画面に表示されるL-Server (Windows)のIPアドレスで接続できない場合

トラブルシューティングの以下の現象を確認してください。

「14.1 配備に成功したがL-ServerのIPアドレスで接続できない」

第15章 ソフトウェア情報およびソフトウェアID

本章では、登録されているソフトウェア情報およびソフトウェアIDについて説明します。

ソフトウェア情報

登録されているソフトウェア情報について、以下に示します。ソフトウェアIDは、セットアップ時に決定されます。 詳細は「2.1.2 ミドルウェア情報の登録」を参照してください。

ソフトウェア名	OS	バージョン	関連付けられてい るソフトウェア設定 ID
Interstage Web Server	Windows	V9.0.0	RS0000001
Interstage Web Server	Linux	V9.0.0	RS0000002
Interstage Web Server	Linux	V9.0.1	RS0000002
Interstage Web Server	Windows	V9.1.0	RS0000001
Interstage Web Server	Linux	V9.1.0	RS0000002
Interstage Application Server Standard-J Edition	Windows	V9.0.0	RS0000001
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux	V9.0.0	RS0000002
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux	V9.0.1	RS0000002
Interstage Application Server Standard-J Edition	Windows	V9.1.0	RS0000001
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux	V9.1.0	RS0000002
Interstage Application Server Standard-J Edition	Windows	V9.2.0	RS0000001
Interstage Application Server Standard-J Edition	Windows64	V9.2.0	RS0000001
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux	V9.2.0	RS0000002
Interstage Application Server Standard-J Edition	Linux64	V9.2.0	RS0000002
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows	V9.0.0	RS0000001
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux	V9.0.0	RS0000002
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux	V9.0.1	RS0000002
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows	V9.1.0	RS0000001
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux	V9.1.0	RS0000002
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows	V9.2.0	RS0000001
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows64	V9.2.0	RS0000001
Interstage Application Server Enterprise Edition Lin		V9.2.0	RS0000002
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux64	V9.2.0	RS0000002
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows	V9.3.0	RS0000001
Interstage Application Server Enterprise Edition	Windows64	V9.3.0	RS0000001
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux	V9.3.0	RS0000002
Interstage Application Server Enterprise Edition	Linux64	V9.3.0	RS0000002
Interstage Charset Manager Standard Edition (Agent)	Windows	V9.2.0	RS00000600
Interstage Charset Manager Standard Edition (Agent)	Windows64	V9.2.0	RS00000600
Interstage Charset Manager Standard Edition (Agent)	Linux	V9.2.0	RS00000601
Interstage Charset Manager Standard Edition (Agent)	Linux64	V9.2.0	RS00000601
Interstage List Creator Standard Edition	Linux64	V9.1.0	RS00000101

ソフトウェア名	OS	バージョン	関連付けられてい るソフトウェア設定 ID	
Interstage List Creator Standard Edition	Windows	V9.2.0	RS00000100	
Interstage List Creator Enterprise Edition	Linux64	V9.1.0	RS00000101	
Interstage List Creator Enterprise Edition	Windows	V9.2.0	RS00000100	
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (運用管理 サーバ)	Windows	V13.4.0	_	
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (運用管理サーバ)	Windows64	V13.4.0	—	
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (運用管理サーバ)	walker Centric Manager Standard Edition (運用管理 Linux V13.4.0)			
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (運用管理 サーバ)	V13.4.0	_		
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (部門管理 サーバ/業務サーバ)WindowsV13.4.0RS00010				
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (部門管理 サーバ/業務サーバ)	Windows64	V13.4.0	RS00010000	
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (部門管理 サーバ/業務サーバ)	RS00010001			
Systemwalker Centric Manager Standard Edition (部門管理 サーバ/業務サーバ)	Linux64	V13.4.0	RS00010001	
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition (運用管理 サーバ)	Windows	V13.4.0	_	
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition (運用管理 サーバ)	Windows64	V13.4.0	_	
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition (運用管理 サーバ)	Linux	V13.4.0	_	
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition (運用管理 サーバ)	Linux64	V13.4.0	_	
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition (部門管理 サーバ/業務サーバ)	Windows	V13.4.0 RS00010000		
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition (部門管理 サーバ/業務サーバ)	Windows64 V13.4.0 RS00010000		RS00010000	
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition (部門管理 Linux V13.4.0 RS000 サーバ/業務サーバ)		RS00010001		
Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition (部門管理 サーバ/業務サーバ)Linux64V13.4.0		RS00010001		
Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition (運用管理サーバ)	Linux64	V13.4.0	_	
Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition (部 門管理サーバ/業務サーバ)	Linux64	V13.4.0	RS00010001	
Systemwalker IT Change Manager Standard Edition (エージェント)	Linux	V14.0.0	RS00010303	
Systemwalker IT Change Manager Standard Edition (エージェント)	Windows	V14.0.0A	RS00010302	

ソフトウェア名	OS	バージョン	関連付けられてい るソフトウェア設定 ID
Systemwalker IT Change Manager Standard Edition (エージェント)	Windows64	V14.0.0A	RS00010302
Systemwalker IT Change Manager Enterprise Edition (エー ジェント)	Linux	V14.0.0	RS00010303
Systemwalker IT Change Manager Enterprise Edition (エー ジェント)	Windows	V14.0.0A	RS00010302
Systemwalker IT Change Manager Enterprise Edition (エージェント)	Windows64	V14.0.0A	RS00010302
Systemwalker Operation Manager Standard Edition	Windows	V13.4.0	RS00010100
Systemwalker Operation Manager Standard Edition	Windows64	V13.4.0	RS00010100
Systemwalker Operation Manager Standard Edition	Linux	V13.4.0	RS00010101
Systemwalker Operation Manager Standard Edition	Linux64	V13.4.0	RS00010101
Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition	Windows	V13.4.0	RS00010100
Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition	Windows64	V13.4.0	RS00010100
Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition	Linux	V13.4.0	RS00010101
Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition	Linux64	V13.4.0	RS00010101
Systemwalker Runbook Automation V14g (業務サーバ)	Windows	V14.1	RS00010204
Systemwalker Runbook Automation V14g (業務サーバ)	Windows64	V14.1	RS00010204
Systemwalker Runbook Automation V14g (業務サーバ)	Linux	V14.1	RS00010205
Systemwalker Runbook Automation V14g (業務サーバ)	Linux64	V14.1	RS00010205
Systemwalker Runbook Automation V14g (連携サーバ/中継 サーバ)	Windows	V14.1	RS00010202
Systemwalker Runbook Automation V14g (連携サーバ/中継 サーバ)	Windows64	V14.1	RS00010202
Systemwalker Runbook Automation V14g (連携サーバ/中継 サーバ)	Linux	V14.1	RS00010203
Systemwalker Runbook Automation V14g (連携サーバ/中継サーバ)	Linux64	V14.1	RS00010203
Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition	Windows	V13.4	RS00010400
Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition	Windows64	V13.4	RS00010400
Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition	Linux	V13.4	RS00010401
Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition	Linux64	V13.4	RS00010401
Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition	Windows	V13.4	RS00010400
Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition	Windows64	V13.4	RS00010400
Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition	Linux	V13.4	RS00010401
Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition	Linux64	V13.4	RS00010401
NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ	Linux	V7.3	_
NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ	Windows	V10.1.0	_
NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ (64bit)	Windows64	V10.1.0	—
NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ (64bit)	Linux64	V10.1.0	_

ソフトウェア名	OS	バージョン	関連付けられてい るソフトウェア設定 ID	
NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ	Linux	V7.3	—	
NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ	Windows	V10.1.0	-	
NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (64bit)	Windows64	V10.1.0	_	
NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ (64bit)	Linux64	V10.1.0	-	
ETERNUS SF Storage Cruiser Manager	Windows	14.2	—	
ETERNUS SF Storage Cruiser Manager	Windows64	14.2	—	
ETERNUS SF Storage Cruiser Manager	Linux	14.2	_	
ETERNUS SF Storage Cruiser Manager	Linux64	14.2	_	
ETERNUS SF AdvancedCopy Manager	Windows	14.2	_	
ETERNUS SF AdvancedCopy Manager	Windows64	14.2	_	
ETERNUS SF AdvancedCopy Manager	Linux	14.2	_	
ETERNUS SF AdvancedCopy Manager	Linux64	14.2 —		
Symantec Endpoint Protection	Windows	11.0 —		
Symantec Endpoint Protection	Windows64 11.0			
Systemwalker Software Configuration Manager (Agent)	Windows	V14.1 –		
Systemwalker Software Configuration Manager (Agent)	Windows64	V14.1	_	
Systemwalker Software Configuration Manager (Agent)	Linux	V14.1	_	
Systemwalker Software Configuration Manager (Agent)	Linux64	V14.1	_	
Symfoware Server Standard Edition	Linux	V10.0.0A	RS00020001	
Symfoware Server Standard Edition	Linux64	V10.0.0A	RS00020001	
Symfoware Server Enterprise Edition	Linux	V10.0.0A	RS00020001	
Symfoware Server Enterprise Edition	Linux64	V10.0.0A	RS00020001	
Symfoware Server Client	Linux	V10.0.0A	_	
Symfoware Server Client	Linux64	V10.0.0A –		
Symfoware Server Standard Edition	Windows	V10.0.1	_	
Symfoware Server Standard Edition	Windows64	V10.0.1A –		
Symfoware Server Enterprise Edition	Windows	V10.0.1 –		
nfoware Server Enterprise Edition Windows64 V10.0.1			—	
ymfoware Server Client Windows V10.0.1		_		
Symfoware Server Client	Windows64	V10.0.1	_	
Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition	Windows	V13.5	RS00010400	
Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition	Windows64	V13.5	RS00010400	
Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition	Linux	V13.5	RS00010401	
Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition	Linux64	V13.5	RS00010401	
Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition	Windows	V13.5	RS00010400	
Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition	Windows64	V13.5	RS00010400	
Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition	Linux	V13.5	RS00010401	
Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition	Linux64	V13.5	RS00010401	

ソフトウェア名	OS	バージョン	関連付けられてい るソフトウェア設定 ID
UpdateAdvisor(ミドルウェア)	Windows	V1.0L66	—
UpdateAdvisor(ミドルウェア)	Linux	V1.0L66	_

格納場所

これらのソフトウェア情報は、以下の場所に格納されています。

[Windows]

 $<\!\!\text{ServerView Resource Orchestrator} \textit{odvx} \textit{h-nrive} \textit{vorverView Resource Orchestrator} \textit{vorverView Orchestr$

[Linux]

/opt/FJSVcfmg/templates/softwares/

第16章 ソフトウェア設定ID

本章では、登録されているソフトウェア設定IDについて説明します。 登録されているソフトウェア設定IDについて、以下に示します。

ソフトウェア設 定ID	ソフトウェア名	OS	備考		
RS0000001	Interstage Application Server	Windows	_		
RS0000002	Interstage Application Server Linux				
RS00000100	Interstage List Creator	Windows	_		
RS00000101	nterstage List Creator Linux -				
RS00000600	Interstage Charset Manager Standard Edition Agent	age Charset Manager Standard Edition Agent Windows -			
RS00000601	Interstage Charset Manager Standard Edition Agent	ge Charset Manager Standard Edition Agent Linux –			
RS00010000	Systemwalker Centric Manager (部門管理サーバ/業務サーバ)	Windows	_		
RS00010001	Systemwalker Centric Manager (部門管理サーバ/業務サーバ)	_			
RS00010100	Systemwalker Operation Manager Windows		スケジュールサーバ と実行サーバで共通		
RS00010101	Systemwalker Operation Manager		スケジュールサーバ と実行サーバで共通		
RS00010202	Systemwalker Runbook Automation (連携サーバ/中継サーバ)	Windows	_		
RS00010203	Systemwalker Runbook Automation (連携サーバ/中継サーバ)	Linux	—		
RS00010204	Systemwalker Runbook Automation (業務サーバ)	Windows	—		
RS00010205	Systemwalker Runbook Automation (業務サーバ)	Linux	—		
RS00010302	Systemwalker IT Change Manager (エージェント)	Windows	_		
RS00010303	Systemwalker IT Change Manager (エージェント) Linux				
RS00010400	0 Systemwalker Service Quality Coordinator Windows Man 共通		ManagerとAgentで 共通		
RS00010401	Systemwalker Service Quality Coordinator Linux Managera 共通 1 1		ManagerとAgentで 共通		
RS00020001	Symfoware Server	Linux	_		

第6部 メッセージ

ここでは、ソフトウェアパラメーター設定機能が出力する各種メッセージについて説明しています。

第17章 メッセージの概要	148
第18章 イベントログ	149
第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ	150
第20章 ログが出力するメッセージ	153
第21章 ソフトウェアパラメーター設定コマンドが出力するメッセージ	174

第17章 メッセージの概要

ソフトウェアパラメーター設定機能で出力するメッセージには、以下のものがあります。

- イベントログが出力するメッセージ
- ・ L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ
- ・ ログが出力するメッセージ(管理サーバのログとL-Serverのログ)
- ・ ソフトウェアパラメーター設定コマンドが出力するメッセージ

メッセージの出力形式とメッセージの説明方法は、メッセージごとに説明しています。

第18章 イベントログ

本章では、イベントログに出力されるメッセージついて説明します。

[イベントログ]画面には、L-Platform管理画面を利用中に発生したエラー情報などのログが表示されます。画面に表示されるログは最新のものから最大100件で、掲載期間は最大14日となります。

イベントログには、ログに出力されるすべての情報は表示されません。

すべてのエラー情報は、ログファイルに出力されます。詳細は「9.1 ログ出力」を参照してください。

18.1 メッセージ

18.1.1 出力形式

イベントログに出力されるメッセージの出力形式は以下のとおりです。なお、メッセージIDとメッセージ本文は、「:」で区切った形式で出力されます。

	日時	タイトル	メッセージID	メッセージ本文
--	----	------	---------	---------

各項目は、以下の内容が出力されます。

項目	説明
日時	yyyy/mm/dd hh:mm:ss
タイトル	Warningが出力されます。
メッセージID	メッセージIDが出力されます。
メッセージ本文	メッセージの内容です。

18.1.2 メッセージー覧

メッセージID	項目	説明
VSYS30002	メッセージ本文	Failed to setup middleware. [System ID:{0}][Server Name:{1}][Detail:{2}({3})]
	説明	システムの新規作成時にミドルウェアの初期設定処理を行うことができませんでした。
		ミドルウェアが正常に動作しない可能性があります。
		 {0}:システムID {1}:サーバ名 {2}、{3}:詳細情報
	対処方法	システム運用管理者に連絡してください。
VSYS30009	メッセージ本文	Timeout to setup middleware. [System ID:{0}][Server Name:{1}]
	説明	ミドルウェア設定処理がタイムアウトしました。
		{0} : システムID {1} : サーバ名
	対処方法	システム運用管理者に連絡してください。

第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセー ジ

本章では、L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージについて説明します。

19.1 L-Platformテンプレート管理コマンドの出力形式

テンプレート管理コマンドが出力するメッセージの出力形式は以下のとおりです。

メッセージID		
プレフィックス	メッセージ番号	アリセーン本文
項目	説明	
メッセージID	プレフィックスとメッセージ番号	を合わせてメッセージIDとします。
プレフィックス	L-Platformテンプレート管理コマンドのプレフィックスは"TPLC"です。	
メッセージ番号	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。	
メッセージ本文	メッセージの内容です。	

19.2 TPLC00001~

メッセージID (復帰値(注1))	項目	説明
TPLC00701	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報一覧の取得に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00702	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報の関連付け一覧の取得に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00703	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報の登録に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00704	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報の変更に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00705	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報の削除に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージを参照してください。
TPLC00706 (6)	メッセージ本文	指定されたソフトウェア設定情報は存在しません。
	説明	指定されたIDのソフトウェア設定情報が存在しません。
	対処方法	ソフトウェア設定情報はすでに削除されているため、削除する必要はありません。
TPLC00707	メッセージ本文	指定されたソフトウェア設定情報は存在しません。
(5)	説明	指定されたIDのソフトウェア設定情報が存在しません。

メッセージID (復帰値(注1))	項目	説明
	対処方法	指定されたソフトウェア設定IDが正しいか、またはソフトウェア設定情報が存在するか確認してください。
TPLC00708	メッセージ本文	指定されたソフトウェア設定情報またはソフトウェア情報は存在しません。
(5)	説明	指定されたIDのソフトウェア設定情報またはソフトウェア情報が存在しません。
	対処方法	指定されたソフトウェア設定IDが正しいか、またはソフトウェア設定情報が存在するか、または 指定されたソフトウェアIDが正しいか、またはソフトウェア情報が存在するか確認してください。
TPLC00709	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報の関連付けの設定に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00710	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報の関連付けは設定されています。
(6)	説明	ほかのソフトウェア設定情報とソフトウェア情報が関連付けされています。
	対処方法	ほかのソフトウェア設定情報とソフトウェア情報がすでに関連付けされているため、設定できま せん。
TPLC00711	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報の関連付けの解除に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00712	メッセージ本文	パラメーター情報一覧の取得に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00713	メッセージ本文	パラメーター情報の登録に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00714	メッセージ本文	パラメーター情報の変更に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00715	メッセージ本文	パラメーター情報の削除に失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00716	メッセージ本文	指定されたパラメーター情報は存在しません。
(5)	説明	指定されたIDのパラメーター情報が存在しません。
	対処方法	指定されたパラメーターIDが正しいか、またはパラメーター情報が存在するか確認してください。
TPLC00717	メッセージ本文	指定されたパラメーター情報は存在しません。
(6)	説明	指定されたIDのパラメーター情報が存在しません。
	対処方法	パラメーター情報はすでに削除されているため、削除する必要はありません。
TPLC00718 (5)	メッセージ本文	パッケージファイルのアップロードに失敗しました。(エラーコード(注2))
	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。
TPLC00719	メッセージ本文	パッケージファイルのダウンロードに失敗しました。(エラーコード(注2))
(5)	説明	サーバ内で処理に失敗しました。
	対処方法	エラーコードに対する「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。

メッセージID (復帰値(注1))	項目	説明
TPLC00720	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報は使用中のため削除できません。
(5)	説明	ソフトウェア設定情報がシステムで使用されているため削除できません。
	対処方法	ソフトウェア設定情報がシステムで使用されていないときに削除してください。
TPLC00721	メッセージ本文	ソフトウェア設定情報は使用中のため解除できません。
(5)	説明	ソフトウェア設定情報がシステムで使用されているため解除できません。
	対処方法	ソフトウェア設定情報がシステムで使用されていないときに解除してください。
TPLC00722	メッセージ本文	指定されたソフトウェア設定情報またはパラメーター情報は存在しません。
(5)	説明	指定されたIDのソフトウェア設定情報またはパラメーター情報が存在しません。
	対処方法	以下を確認してください。
		・ 指定されたソフトウェア設定IDが正しいか
		・ ソフトウェア設定情報が存在するか
		・ 指定されたパラメーターIDが正しいか
		・ パラメーター情報が存在するか
TPLC00723	メッセージ本文	ファイル名のディレクトリが存在するためダウンロードできません。(ディレクトリ名)
(5)	説明	ダウンロード先にパッケージファイル名と同名のディレクトリが存在します。
	対処方法	ダウンロード先にパッケージファイル名と同名のディレクトリが存在するか確認してください。
TPLC00724	メッセージ本文	ファイルサイズが制限を越えるためアップロードできません。(ファイル名)
(5)	説明	パッケージファイルがアップロード可能なファイルサイズの制限を越えています。
	対処方法	パッケージファイルのファイルサイズがアップロード可能なファイルサイズの制限を越えていないか確認してください。
TPLC00725	メッセージ本文	製品が登録したソフトウェア設定情報は削除できません。
(5)	説明	製品が予約しているソフトウェア設定情報であるため削除できません。
	対処方法	製品が予約しているソフトウェア設定情報であるため削除しません。
TPLC00726	メッセージ本文	パラメーター情報は使用中のため削除できません。
(5)	説明	パラメーター情報がシステムで使用されているため削除できません。
	対処方法	パラメーター情報がシステムで使用されていないときに削除してください。

注1)メッセージの説明と同時に復帰値の値も明記しています。

注2)エラーコードはVSYSnnnnnと表示されます。VSYSnnnnnの意味については、「第20章 ログが出力するメッセージ」を参照してください。「nnnnn」には、数字が入ります。

第20章 ログが出力するメッセージ

本章では、ログが出力するメッセージについて説明します。

本製品のログには以下のものがあります。そのうちメッセージを含むログか否かをメッセージの有無欄で表現しています。

分類	ログ名	説明	メッセージの 有無
管理サーバ のログ	vsys_trace_log	L-PlatformテンプレートおよびL-Platformを管理する機能のトレース ログが出力されます。	有
	vsys_batch_log	L-PlatformテンプレートおよびL-Platformを管理する機能のバッチ処理部分のトレースログが出力されます。	有
	イベントログ	L-Platform管理画面を利用中に発生したエラー情報などが出力されます。	有
L-Serverの ログ	cfmg_agent_filetracefer_log	ファイル受信を待ち受けるエージェントのログが出力されます。このロ グにより、エージェント側の処理が開始できたかを判断できます。	有
	cfmg_agent_setupmw_log	ソフトウェア設定情報のスクリプトパッケージ、環境変数設定ファイル、 パラメーター情報のパラメーターパッケージをファイル転送する処理と、 スタートアップスクリプトの標準出力がログとして出力されます。	有
	cfmg_agent_checkstatus_log	スタートアップスクリプトの実行が完了したかを判定する処理のログが 出力されます。	有

本章では、メッセージを含むログのメッセージについて説明します。なお、ログ出力の詳細については、「9.1 ログ出力」を参照してください。

20.1 ログの出力形式

ログの出力形式は、以下のとおりです。

日時	エラー種別	УIJ	セージID	
		プレフィックス	メッセージ番号	メリセーシーズ

項目	説明	
日時	уууу-т	m-dd hh:mm:ss,sss
エラー種別	以下の	いずれかです。
	INFO	情報レベルのメッセージ
	WAR M	警告レベルのメッセージ
	ERR OR	誤りレベルのメッセージ
メッセージID	プレフィックスとメッセージ番号を合わせてメッセージIDとします。	
プレフィックス	ログのつ	プレフィックスは"VSYS"です。
メッセージ番号	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。	
メッセージ本文	メッセージの内容です。	

20.2.1 VSYS40000~

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40000	メッセージ本文	SoftwareSetup tag does not exist.
(ERROR)	説明	softwareSetupタグが存在しません。
	対処方法	ソフトウェア設定情報にsoftwareSetupタグを記述し、再度実行してください。
VSYS40001	メッセージ本文	Xml validation error.
(ERROR)	説明	ソフトウェア設定情報 XML検証エラーです。
	対処方法	ソフトウェア設定情報の形式に誤りがあります。内容を見直して、再度実行してください。
VSYS40002	メッセージ本文	Parameter-Key is already used. Parameter-Key=[{0}]
(ERROR)	説明	パラメーターのキーが重複しています。 {0}には、パラメーターのキーが表示されます。
	対処方法	ソフトウェア設定情報内のパラメーターのキーに重複がないことを見直し、再度実行してく ださい。
VSYS40003	メッセージ本文	Parameter-Key is format error. Parameter-Key=[{0}]
(ERROR)	説明	パラメーターのキーが規約に準拠していません。 {0}には、パラメーターのキーが表示されます。
	対処方法	パラメーターのキーが規約に準拠していることを見直し、再度実行してください。 パラメーターのキーの規約は、半角英数字と「.」の組合せです。ただし、先頭は英字だけ 指定可能です。
VSYS40004 (ERROR)	メッセージ本文	Parameter-Value is not Parameter-Type. Parameter-Key=[{0}] Parameter-Type=[{1}] Parameter-Value=[{2}]
	説明	パラメーターの値が型として妥当ではありません。 {0}には、パラメーターのキーが表示されます。 {1}には、型が表示されます。 {2}には、値が表示されます。
	対処方法	 ソフトウェア設定情報内のパラメーターの型と値が妥当であるかを確認し、再度実行してください。 型「boolean」: 真偽値 (true,false) 型「number」: 半角数字 (-2,147,483,648~2,147,483,647) 型「string」: 文字列、空文字列
VSYS40005	メッセージ本文	Reserved-ID is format error. Reserved=[{0}] force=[{1}] SoftwareSetup-ID=[{2}]
(ERROR)	説明	予約済みのソフトウェア設定IDの登録・更新のオプションの指定に誤りがあります。 {0}には、trueまたはfalseが表示されます。 {1}には、trueまたはfalseが表示されます。 {2}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	予約済みのソフトウェア設定IDを登録することはできません。
VSYS40006	メッセージ本文	Reserved-ID exist.Reserved-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	更新で予約済みのソフトウェア設定IDが指定されました。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	予約済みのソフトウェア設定IDを更新することはできません。
VSYS40007 (ERROR)	メッセージ本文	SoftwareSetup does not exist. SoftwareSetup-ID=[{0}]

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	説明	softwaresetupテーブルにソフトウェア設定が存在しません。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	ソフトウェア設定情報内のsoftwareSetup/idタグで指定したソフトウェア設定IDがテーブル に存在しません。 新規に登録する場合は、softwareSetup/idタグ内に空文字を指定します。 更新する場合は、softwareSetup/idタグ内のソフトウェア設定IDの指定に誤りがないことを 確認してください。
VSYS40008	メッセージ本文	Reserved-ID is not exist.Reserved-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	予約済みソフトウェア設定IDの更新で予約済みではないソフトウェア設定IDが指定されました。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	登録されているソフトウェア設定IDは、予約済みソフトウェア設定IDではありません。予約 済みではないソフトウェア設定IDを更新する場合は、リクエストbodyのreservedタグなし、 かつsoftwareSetup/reservedタグなし、かつsoftwareSetup/idタグに登録されているソフトウェ ア設定IDを指定し、再度実行してください。
VSYS40009	メッセージ本文	Parameter#parameterinfo does not exist. Parameter-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	parameter#parameterinfoテーブルにパラメーターIDが存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	登録しているデータに不整合が発生しています。 parameterInfoテーブルからパラメーターIDを削除し、再度実行してください。
VSYS40010 (ERROR)	メッセージ本文	Parameter-Value is not Parameter-Type. Parameter-ID=[{0}] Parameter-Key=[{1}] Parameter-Type=[{2}] Parameter-Value=[{3}]
	説明	登録されているパラメーター情報に含まれるパラメーターの値が妥当な値ではありません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。 {1}には、パラメーターのキーが表示されます。 {2}には、型が表示されます。 {3}には、値が表示されます。
	対処方法	 ソフトウェア設定情報内のパラメーターの型とすでに登録されてあるパラメーターの値が妥当であるかを確認し、再度実行してください。 型「boolean」:真偽値 (true,false) 型「number」:半角数字 (-2,147,483,648~2,147,483,647) 型「string」:文字列、空文字列
VSYS40011	メッセージ本文	Only 'true' or 'false' can be set to verbose. value=[{0}]
(ERROR)	説明	verboseの指定に誤りがあります。 {0}には、verboseが表示されます。
	対処方法	verboseの指定を見直し、再度実行してください。
VSYS40021	メッセージ本文	SoftwareSetup does not exist. SoftwareSetup-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	softwaresetupテーブルにソフトウェア設定が存在しません。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	指定したソフトウェア設定IDを確認してください。
VSYS40030	メッセージ本文	SoftwareSetup does not exist. SoftwareSetup-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	softwaresetupテーブルにソフトウェア設定が存在しません。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	指定したソフトウェア設定IDを確認してください。
VSYS40031 (ERROR)	メッセージ本文	Reserved-ID exist.Reserved-ID=[{0}]

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	説明	削除で予約済みのソフトウェア設定IDが指定されました。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	予約済みのソフトウェア設定IDは削除できません。
VSYS40032	メッセージ本文	SoftwareSetup is used in ParameterInfo. SoftwareSetup-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	ソフトウェア設定がパラメーター情報で使用されています。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	削除したいソフトウェア設定情報が使用されているパラメーター情報を、すべて削除してく ださい。 そして、再度実行してください。
VSYS40040	メッセージ本文	SoftwareSetup does not exist. SoftwareSetup-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	ソフトウェア設定IDが存在しません。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	ソフトウェア設定IDを登録後、再度実施してください。
VSYS40041	メッセージ本文	Software does not exist. Software-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	ソフトウェアが存在しません。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	ソフトウェアIDを登録後、再度実施してください。
VSYS40042	メッセージ本文	Software is already used. Software-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	ソフトウェアがすでにソフトウェア設定IDと関連付けられています。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	指定したソフトウェアIDはすでに利用されています。異なるソフトウェアIDを利用してください。
VSYS40050	メッセージ本文	Software and SoftwareSetup does not exist. Software=[{0}] SoftwareSetup-ID=[{1}]
(ERROR)	説明	ソフトウェア設定IDとソフトウェアIDの関連付けが存在しません。 {0}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	ソフトウェアIDとソフトウェア設定IDが正しいか確認してください。
VSYS40051 (ERROR)	メッセージ本文	Software and SoftwareSetup are used with softwareoption#template or softwareoption#deploy_master. Software=[{0}] SoftwareSetup-ID=[{1}]
	説明	ソフトウェアやソフトウェア設定がテンプレートや配備マスタで使用されています。 {0}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	システムテンプレートや構成保存の情報に、ソフトウェアIDやソフトウェア設定IDが使用されています。その情報を削除し、再度実行してください。

20.2.2 VSYS40100~

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40100	メッセージ本文	Xml validation error.
(ERROR)	説明	パラメーター情報 XML検証エラーです。
	対処方法	パラメーター情報の形式に誤りがあります。内容を見直し、再度実行してください。
VSYS40101 (ERROR)	メッセージ本文	Parameter-Key is already used. Parameter-Key=[{0}]

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	説明	パラメーターのキーが重複しています。 {0}には、パラメーターのキーが表示されます。
	対処方法	パラメーター情報内のパラメーターIDの重複がないことを見直し、再度実行してください。
VSYS40102	メッセージ本文	SoftwareSetup-ID does not exist. SoftwareSetup-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	softwaresetupテーブルにソフトウェア設定が存在しません。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます
	対処方法	指定したソフトウェアIDに誤りがないか確認し、再度実行してください。
VSYS40103	メッセージ本文	Parameter-Key does not exist. Parameter-Key=[{0}]
(ERROR)	説明	parameter#softwaresetupテーブルにパラメーターキーが存在しません。 {0}には、パラメーターのキーが表示されます。
	対処方法	指定したパラメーターIDに誤りがないか確認し、再度実行してください。
VSYS40104	メッセージ本文	Parameter-Type validation error.
(ERROR)	説明	パラメーターの値が型として妥当ではありません。
	対処方法	ソフトウェア設定情報で定義しているパラメーターの値の型として、値が妥当であるかを確認し、再度実行してください。
VSYS40105	メッセージ本文	Parameter-ID not exist. Parameter-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	parameter#parameterinfoテーブルにパラメーター情報が存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	指定したパラメーターIDに誤りがないか確認し、再度実行してください。
VSYS40110	メッセージ本文	Parameter-ID not exist. Parameter-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	parameter#parameterinfoテーブルにパラメーター情報が存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	指定したパラメーターIDに誤りがないか確認し、再度実行してください。
VSYS40120	メッセージ本文	Parameter-ID not exist. Parameter-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	parameter#parameterinfoテーブルにパラメーター情報が存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	指定したパラメーターIDに誤りがないか確認し、再度実行してください。
VSYS40130	メッセージ本文	Parameter-ID not exist. Parameter-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	parameter#parameterinfoテーブルにパラメーター情報が存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	指定したパラメーターIDに誤りがないか確認し、再度実行してください。
VSYS40131	メッセージ本文	Parameter-ID not exist. Parameter-ID=[{0}]
(ERROR)	 説明	parameter#parameterinfoテーブルにパラメーター情報が存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	指定したパラメーターIDに誤りがないか確認し、再度実行してください。

20.2.3 VSYS40200~

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40200 (ERROR)	メッセージ本文	SQL error occurred. method=[{0}]
	説明	SQLエラーが発生しました。 {0}には、エラーのSQL文が表示されます。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明	
	対処方法	RDBシステムが正常に動作しているか確認してください。 上記に該当しない場合は、技術員に連絡してください。	
VSYS40201	メッセージ本文	SoftwareSetup-ID already exists. SoftwareSetup-ID=[{0}]	
(ERROR)	説明	ソフトウェア設定IDがすでに使用されています。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。	
	対処方法	予約済みのIDに対して、パッケージファイルをアップロードすることはできません。	
VSYS40202	メッセージ本文	SoftwareSetup-ID or ParameterInfo-ID does not exist. ID=[{0}]	
(ERROR)	説明	ソフトウェア設定IDまたはパラメーターIDが存在しません。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。	
	対処方法	IDが正しいか確認し、再度実行してください。	
VSYS40203	メッセージ本文	The size of zipfile is invalid. filename=[{0}]	
(ERROR)	説明	ZIPファイルのサイズが規定サイズを超えています。 {0}には、ファイル名が表示されます。	
	対処方法	ZIPファイルのサイズを見直してください。	
VSYS40204	メッセージ本文	Zipfile is invalid. filename=[{0}]	
(ERROR)	説明	ZIPファイルが正しくありません。 {0}には、ファイル名が表示されます。	
	対処方法	ZIPファイルが正しいか、以下のことを確認してください。	
		・ ZIPファイルの拡張子がzipではありません。	
		・ ZIPファイルが解凍できません。	
		・ ZIPファイルに含まれるファイルの名前がASCIIコード以外の文字を含みます。	
VSYS40210	メッセージ本文	Package does not exist. ID=[{0}]	
(ERROR)	説明	パッケージが存在しません。 {0}には、IDが表示されます。	
	対処方法	IDが正しいか確認し、再度実行してください。	

20.2.4 VSYS40300~

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40300 (ERROR)	メッセージ本文	Template does not exist. Template-ID=[{0}]
	説明	テンプレートIDが存在しません。 {0}には、テンプレートIDが表示されます。
	対処方法	テンプレートIDが正しいか確認し、再度実行してください。
VSYS40301	メッセージ本文	Template-ID is already used. Template-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	テンプレートIDがすでに使用されています。 {0}には、テンプレートIDが表示されます。
	対処方法	構成保存の情報にテンプレートIDが使用されています。その情報を削除し、再度実行してください。
VSYS40302 (ERROR)	メッセージ本文	Server-No does not exist in the Template. Template-ID=[{0}], Server-No=[{1}]
	説明	サーバ連番が存在しません。 {0}には、テンプレートIDが表示されます。 {1}には、サーバ連番が表示されます。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	対処方法	ソフトウェアオプションに指定したサーバ連番が正しいか確認し、再度実行してください。
VSYS40303	メッセージ本文	Software-ID does not exist in the Image. Image-ID=[{0}], Software-ID=[{1}]
(ERROR)	説明	ソフトウェアIDが指定されたテンプレートIDとサーバ連番で登録されたイメージIDと紐づ いていません。 {0}には、イメージIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	ソフトウェアオプションに指定したソフトウェアIDが、サーバのイメージ情報に含まれている か確認してください。そして、再度実行してください。
VSYS40304	メッセージ本文	ParameterInfo does not exist. ParameterInfo-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	パラメーター情報が存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	パラメーター情報IDが正しいか確認してください。 上記に該当しない場合は、技術員に連絡してください。
VSYS40305 (ERROR)	メッセージ本文	SoftwareSetup-ID is not related to Software-ID. Software-ID[{0}], SoftwareSetup-ID=[{1}]
	説明	パラメーター情報のソフトウェア設定情報がソフトウェアに関連付けているものと異なって います。 {0}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	ソフトウェアIDまたはパラメーターIDが正しいか確認し、再度実行してください。
VSYS40306	メッセージ本文	SQL error occurred. method=[{0}]
(ERROR)	説明	SQLエラーが発生しました。 {0}には、エラーのSQL文が表示されます。
	対処方法	RDBシステムが正常に動作しているか確認してください。 上記に該当しない場合は、技術員に連絡してください。
VSYS40320	メッセージ本文	Parameter information does not exist. no=[{0}] softwareId=[{1}] parameterInfoId=[{2}]
(ERROR)	説明	テンプレートに設定されたソフトウェアオプションのパラメーターIDがparameterinfoテーブ ルに存在しません。 {0}には、サーバ連番が表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {2}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報内のソフトウェアオプションのパラメーターIDを確認し、再度実行してください。
VSYS40321	メッセージ本文	SoftwareID does not exist in image. no=[{0}] imageId=[{1}] softwareId=[{2}]
(ERROR)	説明	テンプレートに設定されたソフトウェアオプションのソフトウェアが、クローニングイメージの ソフトウェアに含まれません。 {0}には、サーバ連番が表示されます。 {1}には、イメージIDが表示されます。 {2}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報内のソフトウェアオプションのソフトウェアIDを確認し、再度実行してください。
VSYS40322 (ERROR)	メッセージ本文	Parameter information and software setup infomation not link . no=[{0}] softwareId=[{1}] parameterInfoId=[{2}]
	説明 	テンプレートに設定されたソフトウェアオプションのパラメーター情報が、ソフトウェアのソフトウェア設定に指定されていません。 {0}には、サーバ連番が表示されます。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
		{1}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {2}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報内のソフトウェアオプションのソフトウェアIDとパラメーターIDを確認し、 再度実行してください。

20.2.5 VSYS40400~

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40410	メッセージ本文	software_link does not exist. Image-ID=[{0}] Software-ID=[{1}]
(ERROR)	説明	[配備マスタXML]の配備マスタに設定されたソフトウェアオプションのソフトウェアが、ク ローニングイメージのソフトウェアに含まれていません。 {0}には、イメージIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	イメージ情報にソフトウェアIDが設定されているかを確認してください。そして、システムテ ンプレートを作成し直してください。
VSYS40411	メッセージ本文	parameterinfo does not exist. ParameterInfo-ID=[{0}]
(ERROR)	説明	パラメーター情報が存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報に設定したパラメーターIDが存在するかを確認してください。そして、シ ステムテンプレートを作成し直してください。
VSYS40412	メッセージ本文	softwaresetup_link does not exist. Software-ID=[{0}] SoftwareSetup-ID=[{1}]
(ERROR)		パラメーター情報のソフトウェア設定情報がソフトウェアに関連付けているものと異なって います。 {0}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報に設定したソフトウェアIDとパラメーターIDを確認してください。そして、 システムテンプレートを作成し直してください。
VSYS40450	メッセージ本文	Software:{0} is not registered in [software]
(ERROR)	説明	[配備マスタXML]の配備マスタに設定されたソフトウェアオプションのソフトウェアが存在 しません。 {0}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報に設定したソフトウェアIDを確認してください。そして、システムテンプレートを作成し直してください。
VSYS40451	メッセージ本文	Parameter:{0} is not registered in [parameterInfo]
(ERROR)	説明	[配備マスタXML]の配備マスタに設定されたソフトウェアオプションのパラメーター情報が 存在しません。 {0}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報に設定したパラメーターIDを確認してください。そして、システムテンプレートを作成し直してください。
VSYS40452	メッセージ本文	SoftwareSetup:{0} is not registered in [softwaresetup]
(ERROR)	説明	[配備マスタXML]の配備マスタに設定されたソフトウェアオプションのパラメーター情報の ソフトウェア設定情報が存在しません。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報に設定したパラメーター情報のソフトウェア設定IDを確認してください。 そして、システムテンプレートを作成し直してください。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40460	メッセージ本文	create work directory error. diretory=[{0}]
(ERROR)	説明	ワークディレクトリの作成に失敗しました。 {0}には、ディレクトリが表示されます。
	対処方法	指定したディレクトリが存在しているか確認してください。 存在している場合は、指定のディレクトリのアクセス権があるか確認してください。
VSYS40461	メッセージ本文	no OS exists. server-id=[{0}]
(ERROR)	説明	OSが見つかりません。 {0}には、サーバIDが表示されます。
	対処方法	OSのソフトウェア情報内のosCategoryタグにOS種別が設定されているか確認してください。 そして、システムテンプレートを作成し直してください。
VSYS40462	メッセージ本文	no NIC exists. server-id=[{0}]
(ERROR)	説明	NICが見つかりません。 {0}には、サーバIDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報内のサーバにNICが設定されているか確認してください。そして、システムテンプレートを作成し直してください。
VSYS40463	メッセージ本文	control NIC not exists. server-id=[{0}]
(ERROR)	説明	control NICがデータベースに存在しません。 {0}には、サーバIDが表示されます。
	対処方法	テンプレート情報内のサーバに制御NICが設定されているか確認してください。そして、 システムテンプレートを作成し直してください。
VSYS40464	メッセージ本文	control NIC Ip Address null error. server-id=[{0}]
(ERROR)	説明	制御NICのIPアドレスがデータベースに存在しません。 {0}には、サーバIDが表示されます。
	対処方法	使用しているセグメント情報のネットワークリソースに問題がないか確認してください。 ネットワークリソースの詳細については、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition 操作ガイド インフラ管理者編(リソース管理)』を参照してください。 上記に該当しない場合は、技術員に連絡してください。
VSYS40465	メッセージ本文	<pre>script package number over 1 error. server_id=[{0}] software_id=[{1}]</pre>
(ERROR)	説明	スクリプトパッケージが2つ以上存在します。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	ソフトウェアIDに関連付けられているソフトウェア設定IDのスクリプトパッケージを削除して、 スクリプトパッケージを1つにしてください。 上記に該当しない場合は、技術員に連絡してください。
VSYS40466	メッセージ本文	software not setup. server_id=[{0}] software_id=[{1}]
(INFO)	説明	ソフトウェアセットアップ情報が設定されていません。 ミドルウェアのパラメーター設定を実施しません。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	ミドルウェアのパラメーターを設定する場合は必要な情報を登録してください。
VSYS40467	メッセージ本文	no script package. server_id=[{0}] software_id=[{1}]
(ERROR)	説明	スクリプトパッケージが存在しません。 ミドルウェアのパラメーター設定を実施できません。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	対処方法	スクリプトパッケージを登録してください。
VSYS40468	メッセージ本文	no parameter. server_id=[{0}] software_id=[{1}]
(INFO)	説明	パラメーター情報が登録されていません。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	パラメーターを設定する場合は必要な情報を登録してください。
VSYS40469	メッセージ本文	start file receive job error. detail=[{0}] server_id=[{1}] software_id=[{2}] jobname=[{3}]
(ERROR)	説明	ファイル送受信プロセスの起動に失敗しました。 {0}には、詳細が表示されます。 {1}には、サーバIDが表示されます。 {2}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {3}には、ジョブ名が表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。 管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。詳細にL-ServerのIPアドレスが 表示されるので、そのIPアドレスに管理サーバから接続できるかを確認してください。
VSYS40470	メッセージ本文	starting file receive job. server_id=[{0}] software_id=[{1}] jobname=[{2}]
(INFO)	説明	ファイル送受信プロセスを起動しました。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {2}には、ジョブ名が表示されます。
	対処方法	対処は不要です。
VSYS40471	メッセージ本文	start file receive job success. server_id=[{0}] software_id=[{1}] jobname=[{2}]
(INFO)	説明	ファイル送受信プロセスが正常に終了しました。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {2}には、ジョブ名が表示されます。
	対処方法	対処は不要です。
VSYS40472	メッセージ本文	run get dir job error. detail=[{0}] server_id=[{1}] software_id=[{2}] jobname=[{3}]
(ERROR)	説明	エージェントの環境取得に失敗しました。 {0}には、詳細が表示されます。 {1}には、サーバIDが表示されます。 {2}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {3}には、ジョブ名が表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。
VSYS40473 (ERROR)	メッセージ本文	transfer script package zip file job error. detail=[{0}] server_id=[{1}] software_id=[{2}]
	説明	スクリプトパッケージのzipファイルの転送でエラーが発生しました。 {0}には、詳細が表示されます。 {1}には、サーバIDが表示されます。 {2}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。 管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。
VSYS40474 (ERROR)	メッセージ本文	transfer setenv file job error. detail=[{0}] server_id=[{1}] software_id=[{2}]

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	説明	setenvファイルの転送でエラーが発生しました。 {0}には、詳細が表示されます。 {1}には、サーバIDが表示されます。 {2}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。
VSYS40475 (ERROR)	メッセージ本文	transfer parameter package zip file job error. detail=[{0}] server_id=[{1}] software_id=[{2}]
	説明	パラメーターパッケージのzipファイルの転送でエラーが発生しました。 {0}には、詳細が表示されます。 {1}には、サーバIDが表示されます。 {2}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。 管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。
VSYS40476	メッセージ本文	run job error. detail=[{0}] server_id=[{1}] software_id=[{2}] jobname=[{3}]
(ERROR)	説明	エージェントのジョブ実行で失敗しました。 {0}には、詳細が表示されます。 {1}には、サーバIDが表示されます。 {2}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {3}には、ジョブ名が表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。 管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。詳細にL-ServerのIPアドレスが 表示されるので、そのIPアドレスに管理サーバから接続できるかを確認してください。 L-Serverと通信するためには、ファイル通信基盤のポート「9664」が開かれている必要があ ります。管理サーバとL-Serverのファイアーウォール設定を見直してください。 スクリプトパッケージの内容が、仮想サーバのOSで実行できるものか確認してください。 スタートアップスクリプトは、ディレクトリの配下ではなく、ZIPファイルのルートに格納してく ださい。 スタートアップスクリプトの改行コードを確認してください。バッチファイル (Windows) の改 行コードは CR+LF で、シェルスクリプト (Linux) の改行コードは LF です。 シェルスクリプトは、UTF-8のバイトオーダーマーク(BOM)を含めないでください。
VSYS40477	メッセージ本文	no valid software setup. server_id=[{0}]
(INFO)	説明	有効なソフトウェア設定情報が存在しません。 {0}には、サーバIDが表示されます。
	対処方法	ミドルウェアのパラメーターを設定する場合は必要な情報を登録してください。
VSYS40478	メッセージ本文	start waiting job error. detail=[{0}] server_id=[{1}] jobname=[{2}]
(ERROR)	説明	エージェントの通信に失敗しました。 {0}には、詳細が表示されます。 {1}には、サーバIDが表示されます。 {2}には、ジョブ名が表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントがLinux版の場合は、システムパラメーターのチューニングがされているか確 認してください。システムパラメーターのチューニングについては、「3.1.2 システムパラメー ターのチューニング【Linux】」を参照してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。 管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。詳細にL-ServerのIPアドレスが 表示されるので、そのIPアドレスに管理サーバから接続できるかを確認してください。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
		L-Serverと通信するためには、ファイル通信基盤のポート「9664」が開かれている必要があります。管理サーバとL-Serverのファイアーウォール設定を見直してください。
VSYS40479	メッセージ本文	software setup not link. server_id=[{0}] software_id=[{1}]
(INFO)	説明	ソフトウェアセットアップ情報が関連付けされていません。 ミドルウェアのパラメーター設定を実施しません。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	ミドルウェアのパラメーターを設定する場合は関連付け情報を登録してください。
VSYS40480	メッセージ本文	no default parameter, had custom parameter. server_id=[{0}] software_id=[{1}]
(ERROR)	説明	パラメーター情報が登録されていません。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	技術員に連絡してください。
VSYS40481	メッセージ本文	parameter value format error. server_id=[{0}] software_id=[{1}] parameter_id=[{2}]
(ERROR)	説明	パラメーター値の書式が正しくありません。 {0}には、サーバIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {2}には、パラメーターIDが表示されます。
	対処方法	正しい書式のパラメーター値を登録してください。 ¥を値として利用する場合は¥¥と記述してください。 #を値として利用する場合は¥#と記述してください。
VSYS40482	メッセージ本文	Failed to run the get file encoding job. detail=[{0}] server_id=[{1}] jobname=[{2}]
(ERROR)	説明	ファイルエンコーディング取得ジョブの起動に失敗しました。 {0}には、詳細が表示されます。 {1}には、サーバIDが表示されます。 {2}には、ジョブ名が表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。
VSYS40483	メッセージ本文	Failed to convert the encoding of the file. encoding=[{0}] io=[{1}] file=[{2}]
(ERROR)	説明	ファイルのエンコーディングを変換するのに失敗しました。 {0}には、エンコーディングが表示されます。 {1}には、読込または書込が表示されます。 {2}には、ファイル名が表示されます。
	対処方法	技術員に連絡してください。

<u>20.3 L-Server上のログ</u>

20.3.1 VSYS40700~

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40700 (INFO)	メッセージ本文	the_setupmw_agent_is_begun.
	説明	エージェントを開始します。
	対処方法	対処は不要です。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40701	メッセージ本文	the_setupmw_agent_is_success.
(INFO)	説明	エージェントが正常終了しました。
	対処方法	対処は不要です。
VSYS40702	メッセージ本文	the_setupmw_agent_is_failure.
(INFO)	説明	エージェントが異常終了しました。
	対処方法	エージェントが異常終了したメッセージです。 このメッセージ以前のメッセージを参考に対処してください。
VSYS40703	メッセージ本文	a_file_not_found_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルが存在しません。 {0}には、ファイルのパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40704	メッセージ本文	it_failed_in_the_execution_of_the_response_job_command.
(ERROR)	説明	ジョブ結果通知コマンドの実行に失敗しました。
	対処方法	管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。 管理サーバと通信するためには、ファイル通信基盤のポート「9664」が開かれている必要 があります。 管理サーバとL-Serverのファイアーウォール設定を見直してください。
VSYS40705	メッセージ本文	a_directory_not_found_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	ディレクトリが存在しません。 {0}には、ディレクトリのパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40706	メッセージ本文	decompression_error_occured.[{0}]
(ERROR)	説明	ファイルの解凍に失敗しました。 {0}には、ファイルのパスが表示されます。
	対処方法	アップロードしたスクリプトパッケージおよびパラメーターパッケージの内容を確認してください。
VSYS40707	メッセージ本文	the_thread_was_interrupted.
(ERROR)	説明	スレッド実行中に割込みが発生しました。
	対処方法	対処は不要です。
VSYS40708	メッセージ本文	it_failed_in_the_execution_of_the_command.[{0}]
(ERROR)	説明	コマンド実行に失敗しました。 {0}には、コマンドのフルパスが表示されます。
	対処方法	スタートアップスクリプトでエラーが発生しました。 スクリプトの内容を確認してください。 スクリプトパッケージの内容が、OSで実行できるものか確認してください。 スタートアップスクリプトは、ディレクトリの配下ではなく、ZIPファイルのルートに格納してく ださい。 スタートアップスクリプトの改行コードを確認してください。バッチファイル (Windows) の改 行コードは CR+LF で、シェルスクリプト (Linux) の改行コードは LF です。 シェルスクリプトは、UTF-8のバイトオーダーマーク (BOM) を含めないでください。
VSYS40709	メッセージ本文	the_error_not_anticipated_occurred.
(ERROR)	説明	予期しないエラーが発生しました。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40710	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	パラメーターの指定数が不正です。 {0}には、区切りのパラメーターが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40711	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	相手サーバアドレスが不正です。 {0}には、サーバアドレスが表示されます。
	対処方法	管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。 管理サーバと通信するためには、ファイル通信基盤のポート「9664」が開かれている必要 があります。 管理サーバとL-Serverのファイアーウォール設定を見直してください。
VSYS40712	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	ジョブ識別番号が不正です。 {0}には、ジョブ識別番号が表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40713	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	ソフトウェア数が不正です。 {0}には、総ソフトウェアの数が表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40714	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	ソフトウェア数が不正です。 {0}には、処理が完了したソフトウェアの数が表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40715	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	ソフトウェアIDが不正です。 {0}には、ソフトウェアIDが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40716	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	作業ディレクトリが不正です。 {0}には、ディレクトリのパスが表示されます。
	対処方法	指定した作業ディレクトリが存在するか確認してください。 存在している場合は指定の作業ディレクトリにアクセス権があるか確認してください。
VSYS40717	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	スタートアップスクリプト名が不正です。 {0}には、スタートアップスクリプトのパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
VSYS40718	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	Linkexpressのホームディレクトリが存在しません。 {0}には、ディレクトリのパスが表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。
VSYS40719	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	実行確認ファイル名が不正です。 {0}には、ファイル名が表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40720	メッセージ本文	a_io_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルの読込でエラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40721	メッセージ本文	a_io_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルのクローズでエラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	エージェントのフォルダーのアクセス権限およびディスク容量を確認してください。
VSYS40722	メッセージ本文	a_file_not_found_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルが存在しません。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40723	メッセージ本文	an_io_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルの書込でエラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	エージェントのフォルダーのアクセス権限およびディスク容量を確認してください。
VSYS40724	メッセージ本文	an_io_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルのクローズでエラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	エージェントのフォルダーのアクセス権限およびディスク容量を確認してください。
VSYS40725	メッセージ本文	a_format_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルの形式エラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40726 (ERROR)	メッセージ本文	a_status_error_occurred.[{0}]
	説明	進捗監視ファイルの状態の形式エラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40727 (ERROR)	メッセージ本文	a_num_of_end_prosess_error_occurred.[{0}]

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	説明	進捗監視ファイルの完了済ソフトウェア数の形式エラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40728	メッセージ本文	a_num_of_software_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルのソフトウェア数の形式エラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40729	メッセージ本文	a_message_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルのメッセージの形式エラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40730	メッセージ本文	a_timer_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルの処理開始時刻(ミリ秒)の形式エラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40731	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイル名が不正です。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40732	メッセージ本文	a_file_not_found_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	実行確認ファイルが存在しません。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40733	メッセージ本文	decompression_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	ファイルの解凍に失敗しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	アップロードしたスクリプトパッケージおよびパラメーターパッケージの内容を確認してください。
VSYS40734	メッセージ本文	the_chmod_command_was_interrupted.
(ERROR)	説明	chmodコマンド実行中に割込みが発生しました。
	対処方法	エージェントの環境を確認し、chmodコマンドが存在して、実行可能であることを確認して ください。
VSYS40735 (ERROR)	メッセージ本文	it_failed_in_the_execution_of_the_chmod_command.
	説明	chmodコマンド実行に失敗しました。
	対処方法	chmodコマンドが正しいか確認してください。
VSYS40736 (ERROR)	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	説明	進捗監視ファイルの書込みリトライ回数が不正です。 {0}には、パラメーターの値が表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40737	メッセージ本文	a_setupmw_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルの書込みリトライ待ち時間が不正です。 {0}には、パラメーターの値が表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40738	メッセージ本文	it_failed_in_the_execution_of_the_command.Command=[{0}]_ReturnCode=[{1}]
(ERROR)	説明	スクリプトの復帰値で正常終了以外が返却されました。 {0}には、実行したコマンドが表示されます。 {1}には、コマンドの復帰値が表示されます。
	対処方法	スタートアップスクリプトでエラーが発生しました。 スクリプトの内容を確認してください。
VSYS40739	メッセージ本文	it_failed_in_the_log_output_of_the_command.
(ERROR)	説明	コマンド実行時の標準出力・標準エラーのログの出力に失敗しました。
	対処方法	技術員に連絡してください。
VSYS40740	メッセージ本文	the_checkstatus_agent_is_begun.
(INFO)	説明	ジョブ状態監視エージェントを開始します。
	対処方法	対処は不要です。
VSYS40741	メッセージ本文	the_checkstatus_agent_is_success.
(INFO)	説明	ジョブ状態監視エージェントが正常終了しました。
	対処方法	対処は不要です。
VSYS40742	メッセージ本文	the_checkstatus_agent_is_failure.
(INFO)	説明	ジョブ状態監視エージェントが異常終了しました。
	対処方法	ジョブ状態監視エージェントが異常終了したメッセージです。 このメッセージ以前のメッセージを参考に対処してください。
VSYS40743	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	パラメーターの指定数が不正です。 {0}には、区切りのパラメーターが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40744	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	相手サーバアドレスが不正です。 {0}には、パラメーターの値が表示されます。
	対処方法	管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。 管理サーバと通信するためには、ファイル通信基盤のポート「9664」が開かれている必要 があります。 管理サーバとL-Serverのファイアーウォール設定を見直してください。
VSYS40745	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	ジョブ識別番号が不正です。 {0}には、パラメーターの値が表示されます。

メッセージID (エラー種別)	項目	説明
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40746 (ERROR)	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
	説明	タイムアウト時間(秒)が不正です。
		{0}には、パラメーターの値が表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40747	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	実行確認ファイル名が不正です。 {0}には、ファイル名が表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40748	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	作業ディレクトリが存在しません。 {0}には、ディレクトリのフルパスが表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。
VSYS40749	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
(ERROR)	説明	Linkexpressのホームディレクトリが存在しません。 {0}には、ディレクトリのフルパスが表示されます。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。
VSYS40750	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_time_out.
(ERROR)	説明	ジョブ状態監視エージェントタイムアウトが発生しました。
	対処方法	配備システムが起動しているか確認してください。 配備が正常に終了しているか確認してください。 ミドルウェア設定が終了していない可能性がありますので、ミドルウェアの状態を確認して ください。
VSYS40751	メッセージ本文	it_failed_in_the_execution_of_the_response_job_command.
(ERROR)	説明	ジョブ結果通知コマンド実行に失敗しました。
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。
VSYS40752 (ERROR)	メッセージ本文	a_file_not_found_error_occurred.[{0}]
	説明	実行確認ファイルが存在しません。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40753 (ERROR)	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]
	説明	進捗監視ファイル名が不正です。 {0}には、ファイル名のフルパスが表示されます。
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。
VSYS40754 (ERROR)	メッセージ本文	a_format_error_occurred.[{0}]

メッセージID (エラー種別)	項目	説明		
	説明	進捗監視ファイルの形式エラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40755 (ERROR)	メッセージ本文	a_checkstatus_agent_parameter_error_occurred.[{0}]		
	説明	進捗監視ファイル名が不正です。 {0}には、ファイル名のフルパスが表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40760	メッセージ本文	the_filetrancefer_agent_is_begun.		
(INFO)	説明	ファイル受信エージェントは開始しました。		
	対処方法	対処は不要です。		
VSYS40761	メッセージ本文	the_filetrancefer_agent_is_success.		
(INFO)	説明	ファイル受信エージェントは正常終了しました。		
	対処方法	対処は不要です。		
VSYS40762	メッセージ本文	the_filetrancefer_agent_is_failure.		
(INFO)	説明	ファイル受信エージェントが異常終了しました。		
	対処方法	ファイル受信エージェントが異常終了したメッセージです。 このメッセージ以前のメッセージを参考に対処してください。		
VSYS40763	メッセージ本文	a_filetrancefer_agent_parameter_error_occurred.[{0}]		
(ERROR)	説明	ファイル受信エージェントパラメーター異常が発生しました。 {0}には、区切りのパラメーターが表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40764	メッセージ本文	a_filetrancefer_agent_getinf_error_occurred.		
(INFO)	説明	ファイル受信エージェントGETINFでエラーが発生しました。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40765	メッセージ本文	a_filetrancefer_agent_time_out.		
(INFO)	説明	ファイル受信エージェントでタイムアウトが発生しました。		
	対処方法	配備システムが起動しているか確認してください。 配備が正常に終了しているか確認してください。 ミドルウェア設定が終了していない可能性がありますので、ミドルウェアの状態を確認して ください。		
VSYS40766	メッセージ本文	a_filetrancefer_agent_stop_linkexpress.		
(INFO)	説明	ファイル受信エージェントLinkexpressは停止しました。		
	対処方法	エージェントのサービスの起動状態を確認してください。		
VSYS40767 (ERROR)	メッセージ本文	a_filetrancefer_agent_filetran_error_occurred.		
	説明	ファイル受信エージェントFILETRANでエラーが発生しました。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40768 (ERROR)	メッセージ本文	the_error_not_anticipated_occurred.		
メッセージID (エラー種別)	項目	説明		
---	---------	---	--	--
	説明	予期しないエラーが発生しました。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40769	メッセージ本文	a_filetrancefer_agent_parameter_error_occurred.[{0}]		
(ERROR)	説明	ファイル受信エージェントパラメーター異常が発生しました。 {0}には、区切りのパラメーターが表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40770	メッセージ本文	a_filetrancefer_agent_parameter_error_occurred.[{0}]		
(ERROR)	説明	ファイル受信エージェントパラメーター異常が発生しました。 {0}には、区切りのパラメーターが表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40771	メッセージ本文	it_failed_in_the_execution_of_the_chmod_command[{0}]		
(ERROR)	説明	権限の付与(chmod)に失敗しました。 {0}には、実行したコマンドが表示されます。		
	対処方法	OSの環境を確認してください。		
VSYS40772	メッセージ本文	start_script_is_not_found[{0}]		
(ERROR)	説明	スタートアップスクリプトが存在しません。 {0}には、スタートアップスクリプトのパスが表示されます。		
	対処方法	アップロードしたスクリプトパッケージの内容を確認してください。		
VSYS40773 メッセージ本文 setenv_script_is_not_found[{0}]		setenv_script_is_not_found[{0}]		
(ERROR)	説明	環境変数設定スクリプトが存在しません。 {0}には、環境変数設定スクリプトのパスが表示されます。		
	対処方法	技術員に連絡してください。		
VSYS40774	メッセージ本文	the_createwatchfile_agent_is_failure.		
(ERROR)	説明	進捗監視ファイル作成エージェントは開始しました。		
	対処方法	対処は不要です。		
VSYS40775	メッセージ本文	the_createwatchfile_agent_is_success.		
(ERROR)	説明	進捗監視ファイル作成エージェントは正常終了しました。		
	対処方法	対処は不要です。		
VSYS40776	メッセージ本文	the_createwatchfile_agent_is_failure.		
(ERROR)	説明	進捗監視ファイル作成エージェントが異常終了しました。		
	対処方法	進捗監視ファイル作成エージェントが異常終了したメッセージです。 このメッセージ以前のメッセージを参考に対処してください。		
VSYS40777	メッセージ本文	a_createwatchfile_agent_parameter_error_occurred[{0}]		
(ERROR)	説明	進捗監視ファイル作成のパラメーターに異常があります。 {0}には、パラメーターのリストが表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40778 (ERROR)	メッセージ本文	a_createwatchfile_agent_parameter_error_occurred[{0}]		

メッセージID (エラー種別)	項目	説明		
	説明	進捗監視ファイルのパスが不正です。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40779	メッセージ本文	an_io_error_occured{0}		
(ERROR)	説明	進捗監視ファイルの書込でエラーが発生しました。 {0}には、ファイルのフルパスが表示されます。		
	対処方法	エージェントのフォルダーのアクセス権限およびディスク容量を確認してください。		
VSYS40780	メッセージ本文	the_getfileencoding_agent_is_begun.		
(INFO)	説明	ファイルエンコーディング取得エージェントは開始しました。		
	対処方法	対処は不要です。		
VSYS40781	メッセージ本文	the_getfileencoding_agent_is_success.		
(INFO)	説明	ファイルエンコーディング取得エージェントは正常終了しました。		
	対処方法	対処は不要です。		
VSYS40782	メッセージ本文	the_getfileencoding_agent_is_failure.		
(INFO)	説明	ファイルエンコーディング取得エージェントが異常終了しました。		
	対処方法	ファイルエンコーディング取得エージェントが異常終了したメッセージです。このメッセー ジ以前のメッセージを参考に対処してください。		
VSYS40783 メッセージ本文 a_getfileencoding_agent_parameter_error_occurred		a_getfileencoding_agent_parameter_error_occurred[{0}]		
(ERROR)	説明	引数の指定数が不正です。 {0}には、区切りのパラメーターが表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40784	メッセージ本文	a_getfileencoding_agent_parameter_error_occurred[{0}]		
(ERROR)	説明	相手サーバアドレスが不正です。 {0}には、パラメーター指定値が表示されます。		
	対処方法	管理サーバとL-Serverが通信できるかを確認してください。 管理サーバと通信するためには、ファイル通信基盤のポート「9664」が開かれている必要 があります。 管理サーバとL-Serverのファイアーウォール設定を見直してください。		
VSYS40785	メッセージ本文	a_getfileencoding_agent_parameter_error_occurred[{0}]		
(ERROR)	説明	ジョブ識別番号が不正です。 {0}には、パラメーター指定値が表示されます。		
	対処方法	内部動作で矛盾が発生しています。 技術員に連絡してください。		
VSYS40786	メッセージ本文	a_getfileencoding_agent_parameter_error_occurred[{0}]		
(ERROR)	説明	Linkexpressのホームディレクトリが存在しません。 {0}には、ディレクトリのフルパスが表示されます。		
	対処方法	エージェントが正しくインストールされているか確認してください。 エージェントが正しくインストールされている場合はエージェントのログを確認してください。		

第21章 ソフトウェアパラメーター設定コマンドが出力するメッセー ジ

本章では、ソフトウェアパラメーター設定機能のコマンドが出力するメッセージについて説明します。

21.1 ソフトウェアパラメーター設定コマンドの出力形式

ソフトウェアパラメーター設定コマンドが出力するメッセージの出力形式は以下のとおりです。

エニ 活別	メッセージID		
エフー裡別	プレフィックス	メッセージ番号	メリセーシ本文
	-		

項目	説明	
	以下のいずれかです。	
エラー種別	INFO	情報レベルのメッセージ
	ERROR	誤りレベルのメッセージ
メッセージID	プレフィックスとメッセージ番号を合わせてメッセージIDとします。	
プレフィックス	ソフトウェアパラメーター設定コマンドのプレフィックスは"SPAC"です。	
メッセージ番号	各メッセージに一意に付けられたメッセージの識別番号です。	
メッセージ本文	メッセージの内容です。	

21.2 SPAC00001~

メッセージID (エラー種別, 復 帰値(注))	項目	説明	
SPAC00001	メッセージ本文	Processing that registers software setup information is executed. Please wait	
(INFO)	説明	ソフトウェア設定情報を登録しています。しばらくお待ちください。	
	対処方法	対処は不要です。	
SPAC00002	メッセージ本文	Processing that registers software information is executed. Please wait	
(INFO)	説明	ソフトウェア情報を登録しています。しばらくお待ちください。	
	対処方法	対処は不要です。	
SPAC00003	メッセージ本文	The registration processing is completed. [start={0}, end={1}]	
(INFO, 0)	説明	ミドルウェア情報の登録が完了しました。 {0}には、始めに登録したソフトウェアIDが表示されます。 {1}には、最後に登録したソフトウェアIDが表示されます。	
	対処方法	対処は不要です。	
SPAC00004	メッセージ本文	Failed to find the installation directory.	
(ERROR, 1)	説明	インストールディレクトリの検索に失敗しました。	
	対処方法	ServerView Resource Orchestratorがインストールされているかを確認してください。	
SPAC00005	メッセージ本文	Failed to register the software setup information. [file={0}]	
(ERROR, 1)	説明	ソフトウェア設定情報の登録に失敗しました。 {0}には、ソフトウェア設定情報のファイル名が表示されます。	

メッセージID (エラー種別, 復 帰値(注))	項目	説明
	対処方法	ServerView Resource Orchestratorが動作しているか確認してください。このメッセージの前にテンプレート管理コマンドのメッセージが表示されます。問題を解決して、再度実行してください。
		テンプレート管理コマンドのメッセージは、「第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ」を参照してください。
SPAC00006	メッセージ本文	Failed to register the script package. $[id=\{0\}, file=\{1\}]$
(ERROR, 1)	説明	スクリプトパッケージの登録に失敗しました。 {0}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。 {1}には、スクリプトパッケージのファイル名が表示されます。
	対処方法	このメッセージの前にテンプレート管理コマンドのメッセージが表示されます。問題を解 決して、再度実行してください。
		テンプレート管理コマンドのメッセージは、「第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ」を参照してください。
SPAC00007	メッセージ本文	Failed to register the software information. [file={0}]
(ERROR, 1)	説明	ソフトウェア情報の登録に失敗しました。 {0}には、ソフトウェア情報のファイル名が表示されます。
	対処方法	このメッセージの前にテンプレート管理コマンドのメッセージが表示されます。問題を解 決して、再度実行してください。
		テンプレート管理コマンドのメッセージは、「第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ」を参照してください。
SPAC00008	メッセージ本文	Failed to relate software information to the software setup information. $[sid=\{0\}, id=\{1\}]$
(ERROR, 1)	説明	ソフトウェア情報とソフトウェア設定情報の関連付けに失敗しました。 {0}には、ソフトウェアIDが表示されます。 {1}には、ソフトウェア設定IDが表示されます。
	対処方法	このメッセージの前にテンプレート管理コマンドのメッセージが表示されます。問題を解 決して、再度実行してください。
		テンプレート管理コマンドのメッセージは、「第19章 L-Platformテンプレート管理コマンドが出力するメッセージ」を参照してください。

注)メッセージの説明と同時に復帰値の値も明記しています。復帰値が記載されていないメッセージは、処理の途中で出力するものです。

付録A オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(L-Server 作成時編)

クローニングイメージを採取するL-Serverを作成する場合は、オペレーティングシステムやミドルウェアをインストールします。このオペレーティングシステムやミドルウェアをインストールする手順や、その後の操作について説明を示していきます。

A.1 オペレーティングシステム

下図のような複数のルータがあるネットワークにL-Serverを配備する場合には、ServerView Resource Orchestratorのネットワークリソースの設定方法に注意が必要です。

また、クローニングイメージのオペレーティングシステムにあらかじめスタティックルートの設定を行っておく必要があります。

図A.1 複数のルータがあるネットワーク



上図の例のような複数のルータがあるネットワークにL-Serverを配備する場合、ルータを越えた位置にあるクライアントおよび管理サーバの双方と通信を行うためには、以下の複数のルーティング情報をL-Serverに設定する必要があります。

- ・ クライアントが存在するセグメント(利用者セグメント)へのルーティング情報
- ・管理サーバが存在するセグメント(管理セグメント2)へのルーティング情報

ソフトウェアパラメーター設定機能では、L-Serverの配備時に、ソフトウェアのパラメーター設定を行うために、L-Serverと通信を行います。 このため、L-Serverと管理サーバの間にルータがあり、L-Serverと管理サーバのネットワークセグメントが異なっているネットワーク構成 の場合、L-Serverと管理サーバで通信を行うことができるように、クローニングイメージのオペレーティングシステムに事前にルーティン グ情報の設定を行っておく必要があります。

ServerView Resource Orchestratorのネットワークリソースの設定

ServerView Resource Orchestratorのネットワークリソースの設定において、L-Serverに設定する複数のネットワークリソースのうち、1つだけにデフォルトゲートウェイの設定を行います。

「図A.1 複数のルータがあるネットワーク」の構成の場合、以下のように業務セグメントのネットワークリソースだけにデフォルトゲートウェイの設定を行います。

管理セグメント1のネットワークリソースにはデフォルトゲートウェイの設定は行いません。

・業務セグメントのネットワークリソースの設定(ルータ1のIPアドレスが10.0.0.1の場合)

ネットワークリソース名	Gyoumu
コメント	業務セグメント
VLAN ID	1

サブネットアドレス	10.0.0
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	10.0.0.1
対象外とするIPアドレス	10.0.0.1 - 10.0.0.1

・管理セグメント1のネットワークリソースの設定(ルータ2のIPアドレスが192.168.0.1の場合)

ネットワークリソース名	Kanri 1
コメント	管理セグメント1
VLAN ID	2
サブネットアドレス	192.168.0.0
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	(なし)
対象外とするIPアドレス	192.168.0.1 - 192.168.0.1

クローニングイメージのスタティックルートの設定

L-Serverが管理サーバと通信を行えるようにするために、クローニングイメージのオペレーティングシステムにあらかじめスタティックルートの設定を行っておきます。

L-ServerのオペレーティングシステムがWindowsの場合

クローニングイメージを採取するL-Serverで、routeコマンドを実行しスタティックルートの設定を行います。

「図A.1 複数のルータがあるネットワーク」の例の場合、以下のように、管理サーバのネットワークへのスタティックルートを設定しておきます。(ルータ2のIPアドレスが192.168.0.1の場合)

route -p add 192.168.1.0 mask 255.255.255.0 192.168.0.1 metric 1

L-ServerのオペレーティングシステムがLinuxの場合

クローニングイメージを採取するL-Serverで、/etc/sysconfig/static-routesファイルに設定を行います。

「図A.1 複数のルータがあるネットワーク」の例の場合、以下のように、管理サーバのネットワークへのスタティックルートを設定しておきます。(ルータ2のIPアドレスが192.168.0.1の場合)

any net 192.168.1.0 netmask 255.255.255.0 gw 192.168.0.1



L-Serverの配備対象となるネットワーク構成が複数ある場合、配備対象となるネットワークごとに、スタティックルートの設定を行った別々のクローニングイメージを作成しておく必要があります。

テンプレート情報の設定

スタティックルートの設定を行ったクローニングイメージは、その設定を行ったネットワークにだけ配備することができます。

このため、テンプレート情報に、クローニングイメージに対応するデフォルトのネットワークリソースを設定しておきます。

「図A.1 複数のルータがあるネットワーク」の例の場合、以下のようなテンプレート情報を登録します。

```
<publicCategory>PUBLIC</publicCategory>
   <designSheetPath />
   <releaseDate>2010/12/30</releaseDate>
   <numOfMaxVnet>2</numOfMaxVnet>
   <numOfMaxVm>10</numOfMaxVm>
   <productId />
   <description>Web/AP/DB 1サーバモデル</description>
   <keyword>Web/AP/DB 1サーバモデル</keyword>
   <estimate>0</estimate>
   cense>0</license>
   <support>0</support>
   <vnets>
       <vnet>
           <id>VNET1</id>
           <name>Gyoumu</name>
           <numOfMaxVm>10</numOfMaxVm>
           <resouceId>M01_1446</resourceId> ※業務セグメントのネットワークリソース
       </vnet>
       <vnet>
           <id>VNET2</id>
           <name>Kanri1</name>
           <numOfMaxVm>10</numOfMaxVm>
           <resouceId>M01_943</resourceId> ※管理セグメント1のネットワークリソース
       </vnet>
   </vnets>
   <servers>
       <server>
           <no>0</no>
           <imageId />
           <imageName>IMG001</imageName> ※スタティックルートの設定を行ったクローニングイメージ
           <name>サーバ1</name>
           <serverType>sample_small</serverType>
           <vnics>
               <management>1</management>
               <vnic>
                   \langle no \rangle 1 \langle /no \rangle
                   <networkId>VNET2</networkId>
               </vnic>
               <vnic>
                   <no>2</no>
                   <networkId>VNET1</networkId>
               </vnic>
           </vnics>
       </server>
   </servers>
</template>
```

G 注意

L-Serverの配備対象となるネットワーク構成が複数ある場合、配備対象となるネットワークごとに、テンプレート情報を登録する必要があります。

A.2 ETERNUS SF AdvancedCopy Manager

ETERNUS SF AdvancedCopy Managerをインストールする際には、以下の操作が必要です。

インストール・環境設定の詳細については、『ETERNUS SF AdvancedCopy Manager 導入手引書』のドキュメントなどを参照してください。

A.2.1 インストール

『ETERNUS SF AdvancedCopy Manager 導入手引書』の以下の手順に従って、インストールを行ってください。

- 1. 「エージェントのインストール」
- 2. 「Storageサーバのカスタマイズ」

A.3 ETERNUS SF Storage Cruiser Manager

ETERNUS SF Storage Cruiser Managerをインストールする際には、以下の操作が必要です。

インストール・環境設定の詳細については『ETERNUS SF Storage Cruiser 14.2 インストールガイド』、および『ETERNUS SF Storage Cruiser 14.2 ユーザーズガイド』を参照してください。

A.3.1 インストール

[Windows]

『ETERNUS SF Storage Cruiser 14.2インストールガイド』の「マネージャのインストールとセットアップ」の[Windows版]マネージャーに従い、以下の操作を行ってください。

- ・「インストール手順」をすべて実施してください。ただし、「ソフトウェアインストール」は、以下のように設定してください。
 - 手順10は、「スキップ」を選択してください。
 - 手順11は、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択し、[完了]ボタンをクリックしてください。
- ・「インストール後のセットアップ」をすべて実施してください。

[Linux]

『ETERNUS SF Storage Cruiser 14.2インストールガイド』の「マネージャのインストールとセットアップ」の[Linux版]マネージャーに従い、 以下の操作を行ってください。

- ・「インストール手順」をすべて実施してください。
- ・「インストール後のセットアップ」の以下を実施してください。
 - /etc/services の設定
 - システムの言語設定
 - snmptrapdの設定

A.4 Interstage Application Server/Web Server

Interstage Application Server/Web Serverをインストールする場合、以下の操作が必要です。

<u>A.4.1 インストール</u>

・ サーバタイプ選択

インストール時のサーバタイプは「アプリケーションサーバ機能をインストールする」を選択してください。



《L-ServerがLinuxの場合》

『Interstage Application Server インストールガイド(Linux版)』の「他の富士通製製品導入に関する注意事項」を参照して対応してくだる	Z
	•

A.4.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングイメージの採取」を行う前に、以下を行う必要があります。

🌀 注意

Interstage Application Serverのパッチ適用

《L-ServerがLinuxの場合》

Interstage Application Serverのホスト情報変更を行う場合、PG78174のInterstage Application Serverの以下のパッチを適用する必要があります。

「L-Server作成終了処理」を行う間までに適用してください。

- Linux(x64)版 Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.3.0またはV9.2.0を使用する場合は T004049LP-02以降を適用してください。
- Linux(32bit)版Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.3.0またはV9.2.0を使用する場合は T004556LP-02以降を適用してください。
- Linux(32bit)版Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.1.0を使用する場合はT002485LP-02以降を 適用してください。
- Linux(32bit)版Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.0.1を使用する場合はT001444LP-02以降を 適用してください。
- Linux(32bit)版Interstage Application Server Enterprise Edition/Standard-J Edition V9.0.0を使用する場合はT001441LP-02以降を 適用してください。

.

1. コマンドの複写

作成した「L-Server」に、L-Platformを配備する際にInterstage Application Serverのホスト情報を変更するために必要なコマンドを複写 します。

【管理サーバがWindowsの場合】

《L-ServerがWindowsの場合》

• 複写元

<ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥softtools¥windows¥aps9

• 複写先(L-Server内)

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin

・ 複写するコマンド

isgethostinfo.bat

issethostinfo.bat

isihsconfigget.bat

isihsconfigset.bat

isswcmexportimg.bat

isswcmimportimg.bat

isswcmPrepService.vbs

- 《L-ServerがLinuxの場合》
- 複写元

<ServerView Resource Orchestratorのインストールディレクトリ>¥RCXCFMG¥softtools¥linux¥aps9

- 複写先(L-Server内)
 /opt/FJSVisas/bin
- 複写するコマンド

iscommands.tar.gzを複写先サーバ内の作業用ディレクトリで解凍してください。

以下のコマンドが展開されますので、コマンドをすべて上記複写先ディレクトリに複写してください。

- isgethostinfo
- issethostinfo
- isihsconfigget
- isihsconfigset
- isswcmexportimg
- isswcmimportimg
- isswcmsvcoff
- isswcmsvcresrv
- isswcmsvcstart

【管理サーバがLinuxの場合】

- 《L-ServerがWindowsの場合》
 - 複写元

/opt/FJSVcfmg/softtools/windows/aps9

• 複写先(L-Server内)

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin

- ・ 複写するコマンド
 - isgethostinfo.bat
 - issethostinfo.bat
 - isihsconfigget.bat
 - isihsconfigset.bat
 - isswcmexportimg.bat
 - isswcmimportimg.bat
 - isswcmPrepService.vbs
- 《L-ServerがLinuxの場合》
 - 複写元

/opt/FJSVcfmg/softtools/linux/aps9

• 複写先(L-Server内)

/opt/FJSVisas/bin

• 複写するコマンド

iscommands.tar.gz

本ファイルを複写先(L-Server)サーバの作業用ディレクトリに複写してから展開してください。

以下のコマンドが展開されますので、このコマンドをすべて上記複写先(L-Server内)ディレクトリに複写してください。

- isgethostinfo
- issethostinfo

isihsconfigget isihsconfigset isswcmexporting isswcmimporting isswcmsvcoff isswcmsvcresrv isswcmsvcstart 複写したコマンドが出力するメッセージについては、「A.4.3 コマンド出力メッセージ」を参照してください。 上記以外のコマンドが出力するメッセージについては、『Interstage Application Server マニュアル』を参照してください。



issethostinfoコマンドおよびisihsconfigsetコマンドの実行について

issethostinfoコマンドおよびisihsconfigsetコマンドは、本製品で配備したL-Serverにおいて自動的に実行されるコマンドです。

そのため、ユーザーが直接実行する必要はありません。

2. ユーザーアプリケーションを配備する場合

ユーザーアプリケーションを含めたL-Serverを配備する場合には、Interstage Application Serverに対して、ユーザーアプリケーションの 配備を行ってください。

Interstage Application Serverに対するJ2EEアプリケーションの配備については、『Interstage Application Server/Interstage Web Server J2EE ユーザーズガイド』の「J2EEアプリケーションの配備と設定」を、Java EEアプリケーションの配備については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「Java EEアプリケーションの配備」を参照してください。

3. Java EEを使用する場合

Java EEは、Interstage Application Server V9.2.0からの提供機能です。

- ・ メッセージブローカ、Java DBの停止
 - メッセージブローカが起動している場合は、imqcmdコマンドのshutdown bkrサブコマンドでメッセージブローカを停止してください。
 - Java DBが起動している場合は、asadminコマンドのstop-databaseサブコマンドでJava DBを停止してください。

各コマンドの詳細については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「Java EE運用コマンド」を参照してください。

- ハートビートの設定について
 - IJServerクラスタが作成されている環境のL-Platformテンプレートを作成する場合、IJServerクラスタのハートビートの設定は無効(デフォルトは「有効」)にしてから作成してください。
 - ハートビートの設定を有効とした状態でL-Platformテンプレートの作成・配備を行った場合、IIOP通信のリクエストが予期しない サーバに振り分けられる可能性があります。
 - ハートビートを使用する場合には、配備後に有効にしてから必要に応じてハートビートアドレスの変更を行ってください。

ハートビート設定の詳細については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「グループ管理サービス」を参照してください。

- メッセージブローカの設定について
 - JMSサービスを使用する場合、L-Platformテンプレートを作成する前にメッセージブローカのホスト名を"localhost"(デフォルト はインストールしたサーバのホスト名)に変更してください。

- メッセージブローカのホスト名は、以下の定義項目で設定します。

default-config.jms-service.jms-host.default_JMS_host.host
server-config.jms-service.jms-host.default_JMS_host.host
{clusterName}.jms-service.jms-host.default_JMS_host.host

- メッセージブローカを変更せずにL-Platformテンプレートの作成・配備を行った場合、予期しないサーバのメッセージブローカ に対してJMSメッセージを送信してしまう可能性があります。

メッセージブローカの詳細については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「JMSサービスの定義項目」を参照してください。

4. Interstage HTTP Serverを使用する場合

 インストール直後の状態を配備する場合、L-Platformテンプレートを作成する前に環境定義ファイル(httpd.conf)のServerName ディレクティブを"localhost"(デフォルトはインストールしたサーバのホスト名)に変更し、L-Platformテンプレートの配備後に配備先 のサーバやシステム構成・運用に合わせて、適切な値を設定してください。

適切な値が設定されない場合、リダイレクト動作が正しく処理されず、予期しないサーバに対してリクエストが発生する可能性があります。

ServerNameディレクティブ変更の詳細については、『Interstage HTTP Server運用ガイド』の「ディレクティブ一覧」を参照してください。

 Webサーバのパラメーターは、環境定義ファイル(httpd.conf)を使用して設定します。配備時にパラメーターを設定する場合、配備 先のサーバやシステム構成・運用に合わせた環境定義ファイルを、パラメーターパッケージへ格納してください。配備先のサーバ の環境定義ファイルは、パラメーターパッケージに格納したファイルで上書き・複写されます。

パラメーターパッケージは、L-Platformテンプレート登録前に、以下のいずれかの方法で作成してください。

- isihsconfiggetコマンドを使用して、L-Server上にある環境定義ファイルから作成(作成方法1)
- isihsconfiggetコマンドを使用せず、任意のサーバ上にある環境定義ファイルから作成(作成方法2)

パラメーターパッケージの詳細については、「6.1.3 ソフトウェア設定スクリプト」および「6.1.4 パッケージファイル」を参照してください。

《作成方法1》

isihsconfiggetコマンドを使用して、L-Server上にある環境定義ファイルから、パラメーターパッケージを作成する手順について説明します。

1. 管理者権限で、以下のコマンドを実行してください。

《L-ServerがWindowsの場合》

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin¥isihsconfigget -d <任意の格納先ディレクトリ>

《L-ServerがLinuxの場合》

/opt/FJSVisas/bin/isihsconfigget -d <任意の格納先ディレクトリ>

L-Server上に作成・構築されているすべてのWebサーバの環境定義ファイルが、-dオプションで指定した格納先ディレクトリ配下 に、以下のディレクトリ形式で格納されます。

《L-ServerがWindowsの場合》

F3FMihs¥<Webサーバ名>¥httpd.conf

《L-ServerがLinuxの場合》

FJSVihs/<Webサーバ名>/httpd.conf

- 2. Webサーバのパラメーターを変更する場合、配備先のシステム構成・運用にあわせて環境定義ファイルを編集してください。Web サーバのパラメーターを変更しない場合、Webサーバ名のディレクトリ、および環境定義ファイルは削除してください。
- 3. Webサーバの環境定義ファイルを編集したあと、作成したパラメーターパッケージは、L-Platformテンプレートに登録してください。

《作成方法2》

isihsconfiggetコマンドを使用せず、任意のサーバ上にある環境定義ファイルから、パラメーターパッケージを作成する手順について説明します。

Webサーバの環境定義ファイルは、InterstageがインストールされたL-Serverの以下のディレクトリに格納されています。

《L-ServerがWindowsの場合》

<Interstage Application Serverインストール先>¥F3FMihs¥servers¥<Webサーバ名>¥conf

《L-ServerがLinuxの場合》

/var/opt/FJSVihs/servers/<Webサーバ名>/conf

1. 配備時に、パラメーターを変更したいWebサーバの環境定義ファイルを、以下のディレクトリ形式で格納してください。

《L-ServerがWindowsの場合》

Webサーバ名は、英字の大文字と小文字は区別されません。

F3FMihs¥<Webサーバ名>¥httpd.conf

《L-ServerがLinuxの場合》

Webサーバ名は、英字の大文字と小文字を区別します。

FJSVihs/<Webサーバ名>/httpd.conf

- 2. 配備先のシステム構成・運用にあわせて環境定義ファイルを編集してください。
- 3. Webサーバの環境定義ファイルを編集したあと、作成したパラメーターパッケージは、L-Platformテンプレートに登録してください。



L-ServerがWindowsの場合

図A.2 Webサーバ"FJapache"のパラメーターパッケージを作成する場合



図A.3 Webサーバ"FJapache"と"Web01"から"Web15"のパラメーターパッケージを作成する場合



L-ServerがLinuxの場合

図A.4 Webサーバ"FJapache"のパラメーターパッケージを作成する場合



図A.5 Webサーバ"FJapache"と"Web01"から"Web15"のパラメーターパッケージを作成する場合



5. L-Serverイメージ作成前処理

《L-ServerがWindowsの場合》

管理者権限で、以下のコマンドを実行してください。

1. Interstageの停止

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin¥isstop -f

2. ホスト情報変更のための前処理

<Interstage Application Serverインストール先>¥bin¥isgethostinfo

《L-ServerがLinuxの場合》

```
スーパーユーザーで以下のコマンドを実行してください。
```

1. Interstageの停止

/opt/FJSVtd/bin/isstop -f

2. ホスト情報変更のための前処理

/opt/FJSVisas/bin/isgethostinfo



Interstage証明書環境にサイト証明書を登録している場合

- ・認証局の運用方針によっては、発行したサイト証明書を別のサーバで利用することを認めていない場合があるため、サイト証明書 を発行した発行局の運用方針を確認しておいてください。
- ・ それぞれのサーバが同じサイト証明書を使用できるかどうか、承認局の運用方針に照らし合わせて確認し、できない場合には、サ イトごとにサイト証明書を取得してください。



isgethostinfoコマンドの動作について

《L-ServerがWindowsの場合》

isgethostinfo.batコマンドは、下表のサービスに対してスタートアップの種類が自動の場合には手動に、状態が開始の場合には停止に変更します。

Interstage Application Serverをインストールした直後の、サービスのスタートアップの種類と状態のデフォルト値は下表のとおりです。そのため、本コマンドを実行後にサービスの状態を元に戻す場合には、手動で行ってください。

配備したL-Serverのサービスのスタートアップの種類は、本コマンド実行前の状態となります。状態はスタートアップの種類が自動の場合には開始、手動の場合には停止となります。

なお、本コマンドを複数回実行した場合の配備したL-Serverのサービスのスタートアップの種類は、本コマンド初回実行時の状態となります。

名前	イ	ンストール直後
	状態	スタートアップ
CORBA/SOAP ClientGW	停止	手動
EventFactory	開始	手動
EventService	開始	手動
FJapache	開始	自動
Fujitsu Enabler	開始	自動
FUJITSU ND 負荷計測エージェント	開始	自動
FUJITSU ND Load Mesure Agent	開始	自動
INTERSTAGE	開始	自動
INTERSTAGE API	停止	手動
Interstage Java EE DAS	開始	自動
Interstage Java EE Node Agent	開始	自動
Interstage JServlet (OperationManagement)	開始	自動
Interstage Operation Tool	開始	自動
Interstage Operation Tool(FJapache)	開始	自動
Interstage Server Monitor Service	開始	自動
Interstage Server Monitor Service(Cache Manager)	開始	手動
InterfaceRep_Cache Service	開始	手動
InterfaceRep_Cache_e Service	開始	手動
Message Queue 4.1 Broker	開始	自動
Naming Service	開始	手動
NS LoadBalancingOption	開始	自動
ObjectTransaction Service	停止	手動
OD_start	開始	手動
TransactionDirector	開始	手動

《L-ServerがLinuxの場合》

isgethostinfoコマンドは、下表のサービスに対してサーバ起動時の自動起動設定が有効なものは無効化に、サービスが起動中のものは停止に変更します。

Interstage Application Serverをインストールした直後のサービスの自動起動設定とサービスの起動状態のデフォルト値は下表のとおりです。そのため、本コマンドを実行後にサービスの状態を元に戻す場合には、手動で行ってください。

配備したL-Serverのサービスの状態は、本コマンド実行前の状態となります。自動起動設定されていたサービスは起動となります。 なお、本コマンドを複数回実行した場合の配備したL-Serverのサービスの自動起動設定は、本コマンド初回実行時の状態となります。 サービスの自動起動設定を変更するには、Linuxのシステムコマンドのchkconfigコマンドを使用します。 実行例は以下となります。

chkconfig Enabler on

名前	インストール直後	
	状態	スタートアップ
Enabler	起動	on
FJSVsvag	起動	on
FJSVijdas	起動	on
FJSVijna	起動	on
FJSVirep	起動	on
FJSVsvmon	起動	on
FJapache	起動	on
isgui	起動	on
isjmxstart	起動	on
startis	起動	on
startod	起動	on

A.4.3 コマンド出力メッセージ

「L-Server」にInterstage Application Serverをインストールしたときに複写・実行するコマンドの出力メッセージについて以下に記載します。 その他のコマンドのメッセージについては、『Interstage Application Server/Interstage Web Server メッセージ集』を参照してください。

IS: ERROR: is31801: Making the directory was failed(path=%s)

[可変情報]

%s:ディレクトリパス

[意味]

ディレクトリの作成に失敗しました。

[処理]

処理を中止します

[ユーザーの対処]

可変情報に指定されたパスについて以下の対処を実施してください。

- ファイルとして存在する場合は、ファイルを削除してから再度実行してください。
- ・ 上位ディレクトリに書き込み権限が付加されているか確認し、再度実行してください。

IS: ERROR: is31802: Required command argument is missing

[意味]

引数が不足しています。

[処理]

処理を中止します。

[ユーザーの対処]

コマンド実行時に指定した引数を確認したあと、再度実行してください。

IS: ERROR: is31803: Command argument was invalid (%s)

[可変情報]

%s:指定した引数

[意味]

引数に誤りがあります。

[処理]

処理を中止します。

[ユーザーの対処]

コマンド実行時に誤った引数が指定されました。引数を確認したあと、再度実行してください。 また、前後にメッセージが出力されている場合は、そのメッセージの対処を行ってください。

IS: ERROR: is31804: There was not authority

[意味]

実行する権限がありません。

[処理]

処理を中止します。

[ユーザーの対処]

直前に行ったオペレーションに対する権限がありません。管理者ユーザーで実行してください。 また、ソフトウェアパラメーター設定機能の利用時に出力された場合は、前後に出力されているメッセージ対処を行ってください。

IS: INFO: is31805: %s has been started

[可変情報]

%s:コマンド名

[意味]

%sのコマンド処理を開始しました。

IS: INFO: is31806: %s has been finished normally

[可変情報]

%s:コマンド名

[意味]

%sのコマンド処理は正常終了しました。

IS: ERROR: is31807: An Error has occurred while processing %s

[可変情報]

%s:コマンド名

[意味]

%sのコマンド処理中にエラーが発生しました。

[処理]

%sのコマンド処理を中止します。

[ユーザーの対処]

本エラーメッセージの前に出力されたエラーの原因を取り除いて、再度処理を実行してください。

改善されない場合は、iscollectinfoコマンドを使用して調査情報を採取したあと、技術員に連絡してください。

IS: INFO: is31808: [%s] is started

[可変情報]

%s:サービス名

[意味]

%sに対する処理を開始しました。

サービス名	サービス資源名
ISCOM	Interstageセットアップ資産
OD	CORBAサービス資産
ISJEE	Java EE共通資産

IS: INFO: is31809: [%s] was successful

[可変情報]

%s:サービス名

[意味]

%sに対する処理は正常に完了しました。

IS: ERROR: is31810: [%s] was failed

[可変情報]

%s:サービス名

[意味]

%sの処理は失敗しました。

[処理]

連携スクリプトの処理を中止します。

[ユーザーの対処]

"運用ガイド(基本編)"の"バックアップ/リストア"を参照し、本エラーメッセージの前に出力されたエラーメッセージおよびシステムロ グのメッセージの対処を行ってください。

IS: ERROR: is31811: A system error occurred(%s)

[可変情報]

%s:詳細情報

[意味]

システムエラーが発生しました。

[処理]

処理を中止します。

[ユーザーの対処]

以下の詳細情報に応じた対処を行ってください。

本エラーメッセージの前にエラーメッセージが出力されている場合には、その内容も合わせて確認してください。

以下に該当しない詳細情報の場合には、iscollectinfoコマンドを使用した調査情報と下記ディレクトリ配下のすべてのファイルを採取したあと、技術員に連絡してください。

・ L-ServerがWindowsの場合

%IS_HOME%¥var¥clone¥log

(%IS_HOME%はInterstageのインストールディレクトリ)

・ L-ServerがLinuxの場合

/opt/FJSVisas/var/clone/log

詳細情報	対処
Environment variable IS_HOME is not set	Interstage Application Serverがインストールされていない環境でコマンドを実行した可能性があります。
	環境を確認してください。
コマンド名 cannot execute on this environment コマンド名: isgethostinfo または issethostinfo	管理サーバ機能をインストールした環境でコマンドが実行された可能性があります。
ー マットカーisgeniosunio よんな isseniosunio	環境のサーバタイプを確認してください。
	コマンドは以下のサーバタイプでは使用できません。
	 管理サーバ機能
	・ Web Package機能
Directory does not exist(path={0}) path:L-Platformテンプレート配備時に必要な資材が格納さ	L-Platformテンプレート作成時にisgethostinfoが実行されていない可能性があります。
れたディレクトリバス	L-Platformテンプレート作成手順を確認してください。

IS: ERROR: is31812: Other process is also executing %s

[可変情報]

%s:コマンド名

[意味]

ほかのプロセスが同じコマンドを実行中です。

[処理]

処理を中止します。

[ユーザーの対処]

ほかのプロセスが終了したあと、必要に応じて再度処理を実行してください。

しばらく待ってもメッセージが繰り返し出力される場合、コマンドの多重実行を防止するための制御ファイルが残存している可能性があります。

以下の制御ファイルがある場合は、削除してから再度処理を実行してください。

なお、ほかのプロセスが実行中の場合は削除できません。

• L-ServerがWindowsの場合

%IS_HOME%¥var¥[コマンド名].lck

(%IS_HOME%はInterstageのインストールディレクトリ)

・ L-ServerがLinuxの場合

/opt/FJSVisas/var/[コマンド名].lck

A.5 Interstage Charset Manager Standard Edition Agent

コマンドが出力するメッセージについては、『Interstage Charset Manager Standard Edition V9 インストールガイド』および『Interstage Charset Manager Standard Edition V9 使用手引書 日本語資源適用編』を参照してください。

🔓 注意

インストール先は変更せずに、デフォルトのインストール先を使用してください。

A.6 Interstage List Creator

Interstage List Creator をインストールする際には、以下の操作が必要です。

インストールの詳細については、『Interstage List Creator ソフトウェア説明書』、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』などを参照してください。

A.6.1 インストール

『Interstage List Creator ソフトウェア説明書』の「インストール手順」に従ってインストールしてください。

A.6.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングイメージの採取」を行う前に、以下を行う必要があります。

[Windows]

・ コネクタ連携機能を使用する場合

コネクタ連携機能のセットアップ バッチファイルを実行して、コネクタ連携機能のセットアップを行ってください。



コネクタ連携機能のセットアップを行うと、コネクタ連携機能のサービスが起動されます。ただし、コンピュータ再起動時には自動的 にサービスは起動されません。

コンピュータの起動時に自動的にサービスを起動したい場合は、サービスの設定を変更してください。

コネクタ連携機能のセットアップの詳細については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「コネクタ連携機能の環境 設定」を参照してください。

• 帳票資源を配置する場合

「帳票定義情報」などの帳票資源を含めたシステムを配備する場合には、帳票資源を帳票格納ディレクトリなどに配置しておきます。 帳票資源の配置については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「帳票資源の準備と配置」を参照してください。

- ・ L-Serverイメージ作成前処理
 - コネクタ連携機能のサービスの停止
 - コネクタ連携機能のセットアップを行った場合、コネクタ連携機能のサービスを停止してください。

コネクタ連携機能のサービスを停止する方法については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「コネクタ連携機能の環境設定」を参照してください。

[Linux]

・ コネクタ連携機能を使用する場合

コネクタ連携機能のセットアップシェルを実行して、コネクタ連携機能のセットアップを行ってください。

コネクタ連携機能のセットアップの詳細については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「コネクタ連携機能の環境 設定」を参照してください。

• 帳票資源を配置する場合

「帳票定義情報」などの帳票資源を含めたシステムを配備する場合には、帳票資源を帳票格納ディレクトリなどに配置しておきます。 帳票資源の配置については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「帳票資源の準備と配置」を参照してください。

- ・ L-Serverイメージ作成前処理
 - 1. コネクタ連携機能のサービスの停止

コネクタ連携機能のセットアップを行った場合、コネクタ連携機能のサービスを停止してください。

コネクタ連携機能のサービスを停止する方法については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「コネクタ連携 機能の環境設定」を参照してください。

2. List Creator サービスの停止

List Creator サービスを停止してください。

List Creator サービスを停止する方法については、『Interstage List Creator 環境設定・帳票運用編』の「List Creatorの環境設定」を参照してください。

A.7 NetCOBOL 開発・運用パッケージ

ありません。

A.8 Symantec Endpoint Protection

ありません。

A.9 Symfoware Server(サーバ機能)

Symfoware Server(サーバ機能)をインストールする際には、以下の操作が必要です。

A.9.1 インストール

[Windows]

『Symfoware Serverインストールガイド(サーバ編)』を参照してSymfoware Serverをインストールしてください。

インストール時には、WebAdmin/WebDBtoolsのセットアップの実行を選択してください。



以下の製品を利用して「L-Server」を作成してください。

- Windows32
 - Symfoware Server Enterprise Edition V10.0.1
 - Symfoware Server Standard Edition V10.0.1
- Windows64-EM64T
 - Symfoware Server Enterprise Edition V10.0.1
 - Symfoware Server Standard Edition V10.0.1A

また、「L-Server」ではクラスタシステムでの運用には対応していません。

[Linux]

『Symfoware Serverインストールガイド(サーバ編)』を参照してSymfoware Serverをインストールしてください。



以下の製品を利用して「L-Server」を作成してください。

- Symfoware Server Enterprise Edition V10.0.0A
- Symfoware Server Standard Edition V10.0.0A

また、「L-Server」ではクラスタシステムでの運用には対応していません。

A.9.2 RDBシステム名のカスタマイズ【Linux】

パラメーター情報ファイルをカスタマイズしない場合、RDBシステム名を付けない運用となります。RDBシステム名を付ける運用を行う場合、パラメーター情報ファイルにRDBconfigparam.RDBNAMEキーを記述してください。

パラメーター情報ファイルのキー	パラメーター	デフォルト値	説明
	(設定項目)		
RDBconfigparam.RDBNAME	RDBNAME	なし	RDBシステム名を付ける場合は設定し ます。省略した場合はシステム名無しの 運用になります。

A.9.3 規模に応じたパラメーター情報ファイルのカスタマイズ【Linux】

パラメーター情報ファイルをカスタマイズしない場合、中規模(注)を想定した以下の数値がSymfoware Serverの定義ファイルに設定されます。変更する場合は、パラメーター情報ファイルをカスタマイズしてください。

注)中規模は、アプリケーションからの最大接続数256を想定した運用規模です。

a. RDB構成パラメタファイルに設定する数値

以下にRDB構成パラメタファイルに設定する数値を説明します。

パラメーター情報ファイルのキー	パラメーター	デフォルト値	説明
	(設定項目)		
RDBconfigparam.RDBLOGBI	RDBLOG	512	BIログ書き出しのためのログバッファ
	/BIログバッファ数		の枚数
RDBconfigparam.RDBLOGAI	RDBLOG	512	AIログ書き出しのためのログバッファ
	/AIログバッファ数		の枚数
			BIログバッファ数と同じ値を指定して
			1100V.

パラメーター情報ファイルのキー	パラメーター	デフォルト値	説明
	(設定項目)		
RDBconfigparam.RDBEXTMEM	RDBEXTMEM	13208	Symfoware/RDBが情報交換として使 用する共用メモリの大きさ
RDBconfigparam.RDBCNTNUM	RDBCNTNUM	712	RDBデーモンの要求の最大多重度
RDBconfigparam.RDBDBSNUM	RDBDBSNUM	32	データベーススペースに割り当てる リーダとライタの対の数
RDBconfigparam.RDBNETDBSN UM	RDBNETDBSNUM	32	ネットワーク上のデータベーススペー スに割り当てるリーダとライタの対の数
RDBconfigparam.RDBREPORTSI ZE	RDBREPORTSIZE	10485760	メッセージログファイルのファイルサイ ズ

RDB構成パラメタファイルの詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「RDB構成パラメタファイルによる定義」 を参照してください。

b. システム用の動作環境ファイルに設定する数値

システム用の動作環境ファイルに設定する数値を説明します。

パラメーター情報ファイルのキー	パラメーター	デフォルト値	説明
	(設定項目)		
APPEnv.system.COMMUNICATION BUFFER	COMMUNICATION_ BUFFER	32	ローカルアクセスの場合に、サー バ側で使用するバッファのサイズ
APPEnv.system.MAXCONNECTSYS	MAX_CONNECT_SY S	256	ローカルで接続できるコネクション の数の最大値
APPEnv.system.MAXCONNECTTCP	MAX_CONNECT_TC P	256	1つのSymfoware/RDB環境に対し RDB2_TCPで接続できるコネクショ ンの数の最大値
APPEnv.system.SORTMEMSIZE	SORT_MEM_SIZE	2112	作業用ソート領域として使うメモリ サイズ
APPEnv.system.WORKMEMSIZE	WORK_MEM_SIZE	128	作業用テーブルとして使うメモリの サイズ

システム用の動作環境ファイルの詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「システム用の動作環境ファイルによる定義」を参照してください。

c. デフォルトの共用バッファ定義ファイルに設定する数値

デフォルトの共用バッファ定義ファイルに設定する数値を説明します。

パラメーター情報ファイルのキー	パラメーター	デフォルト値	説明
	(設定項目)		
Defalutsharedbuf.BUFFER1K	BUFFER1K	1040	ページ長が1Kのページ数
Defalutsharedbuf.BUFFER2K	BUFFER2K	1040	ページ長が2Kのページ数
Defalutsharedbuf.BUFFER4K	BUFFER4K	4317	ページ長が4Kのページ数
Defalutsharedbuf.BUFFER8K	BUFFER8K	4317	ページ長が8Kのページ数
Defalutsharedbuf.BUFFER16K	BUFFER16K	4317	ページ長が16Kのページ数
Defalutsharedbuf.BUFFER32K	BUFFER32K	4317	ページ長が32Kのページ数

デフォルトの共用バッファ定義ファイルの詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「RDB構成パラメタファイル による定義」を参照してください。

A.9.4 規模以外のパラメーター情報ファイルのカスタマイズ【Linux】

パラメーター情報ファイルをカスタマイズしない場合、以下の値がSymfoware Serverの定義ファイルに設定されます。変更する場合は、 パラメーター情報ファイルをカスタマイズしてください。

a. RDB構成パラメタファイルに設定する設定値

以下にRDB構成パラメタファイルに設定する設定値を説明します。

パラメーター情報ファイル	パラメーター	デフォルト値	説明
のキー	(設定項目)		
RDBconfigparam.RDBDIRSPAC E1	RDBDIRSPACE1	/SFW/rdbdir	データベース用のRDBディレ クトリファイルの配置先ディレク トリ名
RDBconfigparam.RDBDIRSPAC E2	RDBDIRSPACE2	/SFW/rdbdir	RDBディクショナリ用のRDB ディレクトリファイルの配置先 ディレクトリ名
RDBconfigparam.RDBCORE	RDBCORE	/SFW/core	Symfoware/RDB で異常が発 生した場合のダンプ出力先 ディレクトリ名
RDBconfigparam.RDBSYSBUF	RDBSYSBUF	/opt/FJSVrdb2b/etc	デフォルトの共用バッファ定義 ファイルの配置先ディレクトリ 名です。
			また、配備時に指定したディレ クトリに本ファイルを作成します。
RDBconfigparam.RDBSQLENV	RDBSQLENV	/opt/FJSVrdb2b/etc/fssqlenv	アプリケーションの動作環境 ファイル(システム用の動作環 境ファイル)の配置先ファイル 名
			また、配備時に指定したディレ クトリに本ファイルを作成します。
RDBconfigparam.RDBLOGMA NAGE	RDBLOGMANA GE	なし	ログ管理ファイルの配置先の ローデバイス名またはディレク トリ名
RDBconfigparam.RDBSYSTEM ID	RDBSYSTEMID	1	Symfoware/RDBの動作環境 を一意に認識するための値
RDBconfigparam.RDBREPORT	RDBREPORT	/SFW/core	メッセージログファイルの配置 先ディレクトリ名
RDBconfigparam.RDBPM	RDBPM	/SFW/rdbpm	パフォーマンスデータ格納ファ イルの配置先ディレクトリ名
RDBconfigparam.RDBEXPDSI	RDBEXPDSI	YES	DSI定義時にシステムがアラー ムポイントおよび容量拡張定 義を設定するか否かを指定

RDB構成パラメタファイルの詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「RDB構成パラメタファイルによる定義」 を参照してください。

b. システム用の動作環境ファイルに設定する設定値

以下にシステム用の動作環境ファイルの設定値を説明します。

パラメーター情報ファイル	パラメーター	デフォルト値	説明
のキー	(設定項目)		
APPEnv.system.WORKPATH	WORK_PATH	/var/tmp	作業用テーブルおよび作業用 ソート領域のパス
APPEnv.system.RLOCK	R_LOCK	YES	排他の単位を行とする
APPEnv.system.JOINORDER	JOIN_ORDER	AUTO	結合表とほかの表のジョイン順
APPEnv.system.USQLLOCK	USQL_LOCK	EX	UPDATE 文:探索または DELETE 文:探索の更新標的 レコードを位置づける部分の 占有モード
APPEnv.system.ARCFULL	ARC_FULL	RETURN	アーカイブログ満杯時にエラー 復帰するか否か

システム用の動作環境ファイルの詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「システム用の動作環境ファイルに よる定義」を参照してください。

A.9.5 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングイメージの採取」を行う前に、以下を行う必要があります。

[Windows]

WebAdmin/WebDBtoolsを利用可能にする必要があります。

1. WebAdminのセットアップ

『Symfoware Serverインストールガイド(サーバ編)』の「WebAdmin/WebDBtoolsのセットアップ」の手順でWebAdminをセットアップしてください。

セットアップ後、ブラウザにてログイン画面が表示されることを『Symfoware Server セットアップガイド』の「WebAdminを用いた Symfoware/RDBのセットアップ」の「ログイン」を参照して確認してください。

2. WebDBtoolsのセットアップ

『Symfoware Serverインストールガイド(サーバ編)』の「WebAdmin/WebDBtoolsのセットアップ」の手順でWebDBtoolsをセットアップしてください。

セットアップ後、ブラウザにてログイン画面が表示されることを『Symfoware Server セットアップガイド』の「WebDBtoolsを用いた データベースのセットアップ」の「ログイン」を参照して確認してください。

3. セットアップしたWebDBtools、WebAdminの停止

WebDBtools、WebAdminが起動中の場合は停止してください。

a. [サービス]ウィンドウを表示する

[スタート]メニューの[管理ツール]で、[サービス]をクリックします。

b. WebDBtoolsのサービスを停止する

サービス名"SymfoWARE WDT"を選択し、[サービスの停止]ボタンをクリックします。

c. WebAdminのサービスを停止する

サービス名"Symfoware WAD web"を選択し、[サービスの停止]ボタンをクリックします。

サービス名"Symfoware WAD ap"を選択し、[サービスの停止]ボタンをクリックします。

WebDBtools、WebAdminの詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「WebAdmin/WebDBtoolsのセットアップ/アンセットアップ」を参照してください。

[Linux]

1. ディレクトリの作成

下記表のパラメーター情報ファイルのキーをカスタマイズしない場合、デフォルトのディレクトリ名に記述のディレクトリを作成してください。

また、下記表のパラメーター情報ファイルのキーを任意の値にカスタマイズした場合は、カスタマイズした内容に応じてディレクト リを作成してください。

なお、このディレクトリの作成は、Symfoware Serverを起動するユーザーで実施してください。

パラメーター情報ファイルのキー	デフォルトのディレクトリ名
RDBconfigparam.RDBDIRSPACE1	/SFW/rdbdir
RDBconfigparam.RDBDIRSPACE2	
RDBconfigparam.RDBCORE	/SFW/core
RDBconfigparam.RDBREPORT	
RDBconfigparam.RDBPM	/SFW/rdbpm
APPEnv.system.WORKPATH	/var/tmp
RDBconfigparam.RDBLOGMANAGE	なし

2. カーネル編集

Symfoware Serverを動作させるために必要なカーネル資源(共用メモリ資源、セマフォ資源、メッセージキュー資源)を確保する ために下記のマニュアルを参照し、オペレーティングシステムのファイルに定義してください。

Symfoware Serverを動作させるために必要なカーネル資源の詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「カーネル編集」を参照してください。

3. ポート番号の定義

クライアントからリモートアクセスするためにアプリケーションとの通信に使用するポート番号をオペレーティングシステムのサービ スファイルに定義します。パラメーター情報ファイルのAPPEnv.system.MAXCONNECTTCPタグの値を0にカスタマイズした場合 以外は、必ず設定してください。

設定は、/etc/servicesファイルに以下のように設定します。

- 指定形式

サービス名 ポート番号/tcp

- サービス名

サービス名は、RDBシステム名(パラメーター情報ファイルのRDBconfigparam.RDBNAMEに指定した名称)を指定します。 ただし、RDBシステム名を付けない運用の場合は、RDBIIを指定します。

- ポート番号

ポート番号は、1024~65535の範囲で、未使用の値を指定してください。

リモートアクセスするクライアント機能のシステム用の動作環境ファイルに指定するSERVER_SPECパラメーターのポート 番号にはこの値を指定します。

- 定義例

Symfoware/RDBのシステムごとにポート番号を定義する例を、以下に示します。

rdbsys1 26551/tcp rdbsys2 26552/tcp

Symfoware Serverで使用するポート番号の詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「ポート番号の定義」を参照してください。

4. WebDBtools、WebAdminの停止

WebDBtools、WebAdminが起動中の場合は停止してください。

a. WebDBtoolsを停止する

```
スーパーユーザーでログインして、以下のコマンドを実行してください。
```

cd /opt/FJSVsymwd/sbin
./WebScriptStop

b. WebAdminを停止する

スーパーユーザーでログインして、以下のコマンドを実行してください。

cd /opt/FJSVsymwa/sbin
./WebAdminStop

WebDBtools、WebAdminの詳細については、『Symfoware Server セットアップガイド』の「WebAdmin/WebDBtoolsのセットアップ/アンセット」を参照してください。

A.10 Symfoware Server(クライアント機能)

Symfoware Server(クライアント機能)をインストールする際には、以下の操作が必要です。

A.10.1 インストール

[Windows]

『Symfoware Serverインストールガイド(クライアント編)』に従いSymfoware ServerのPCクライアントをインストールしてください。

[Linux]

『Symfoware Serverインストールガイド(クライアント編)』に従いSymfoware ServerのLinuxクライアントをインストールしてください。

A.11 Systemwalker Centric Manager (業務サーバ・部門管理サーバ)

Systemwalker Centric Manager - Agentをインストールする際には、以下の操作が必要です。

インストール・環境設定の詳細については『Systemwalker Centric Manager 導入手引書』などを参照してください。

A.11.1 インストール

・ ライセンスの選択

インストール時のライセンスは「エージェント」を選択してください。

• インストール種別の選択

インストール時のインストール種別は「業務サーバ」または「部門管理サーバ」を選択してください。

• イベント通知先の設定

インストール時のイベント通知先は空欄(インストール後に指定する)にしてください。

A.11.2 インストール後の操作

メッセージ送信先システムのパラメーター「dstsys」を設定したい場合、作成した「L-Server」において「クローニングイメージの採取」を行う前に、以下の手順でコマンドを実行する必要があります。

1. サービスの停止

[Windows]

<Systemwalker Centric Managerインストールディレクトリ>¥MPWALKER.DM¥bin¥pcentricmgr

[Linux]

- # /opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
 # /opt/systemwalker/bin/stpopasyslog
- 2. 滞留イベントの初期化

[Windows]

<Systemwalker Centric Managerインストールディレクトリ>¥MPWALKER.DM¥bin¥mpstayevtinit

[Linux]

/opt/systemwalker/bin/mpstayevtinit

3. サービス/デーモンの起動抑止

[Windows]

<Systemwalker Centric Managerインストールディレクトリ>¥MPWALKER.DM¥mpcmtool¥bin¥swstop

[Linux]

/opt/FJSVftlc/bin/swstop

各コマンドの詳細は、『Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル』を参照してください。

A.12 Systemwalker Centric Manager (運用管理サーバ)

Systemwalker Centric Manager - Managerをインストールする際には、以下の操作が必要です。

インストール・環境設定の詳細については『Systemwalker Centric Manager 導入手引書』などを参照してください。

A.12.1 インストール

・ ライセンスの選択

インストール時のライセンスは「マネージャ」を選択してください。

・ インストール種別の選択

インストール時のインストール種別は「運用管理サーバ」を選択してください。

・ データベース(運用環境)の作成

インストール後のデータベース(運用環境)作成は行わないでください。

A.12.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングイメージの採取」を行う前に、以下の手順でコマンドを実行する必要があります。

1. サービスの停止

[Windows]

<Systemwalker Centric Managerインストールディレクトリ>¥MPWALKER.DM¥bin¥pcentricmgr

[Linux]

/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
/opt/systemwalker/bin/stpopasyslog

2. 滞留イベントの初期化

[Windows]

<Systemwalker Centric Managerインストールディレクトリ>¥MPWALKER.DM¥bin¥mpstayevtinit

[Linux]

/opt/systemwalker/bin/mpstayevtinit

```
3. サービス/デーモンの起動抑止
```

[Windows]

<Systemwalker Centric Managerインストールディレクトリ>¥MPWALKER.DM¥mpcmtool¥bin¥swstop

[Linux]

/opt/FJSVftlc/bin/swstop

各コマンドの詳細については、『Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル』を参照してください。

A.13 Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 エージェント

Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 のエージェント(以下、ITCMエージェント)をインストールする際には、以下の操作が必要です。

インストール・環境設定の詳細については、『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』を参照してください。

A.13.1 インストール

ITCMエージェントのインストールを以下の手順で行ってください。

1. ITCMエージェントのインストールの前に、以下のコマンドを実行します。

[Windows]

<Systemwalker Runbook Automation 業務サーバのインストールディレクトリ>¥SWRBAA¥F4ANswnc¥bin¥swncctrl stop

[Linux]

/opt/FJSVswnc/bin/swncctrl stop

2. 以下のファイルを削除します。

[Windows]

[Systemwalker Runbook Automation 業務サーバのインストールディレクトリ]¥SWRBAA¥F4ANswnc¥etc¥conf¥swncftnouse

[Linux]

/etc/opt/FJSVswnc/conf/swncftnouse

3. 『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「エージェントのインストール」を参照して、ITCMエージェントのインストールを 行ってください。



ITCMエージェントを64ビットOS にインストールする場合、「必須ソフトウェアのインストール」でインストールする Systemwalker Runbook Automation は「業務サーバ (32bit版)」をインストールしてください。

A.13.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングイメージの採取」の前に、以下の流れで作業を実施してください。

各項目の詳細については、以降で説明しています。



ITCMエージェントを利用した運用を決定する

ITCMエージェントを利用した運用として以下の2つを想定しています。

運用A:クローニングイメージ採取前に、L-Server上で必要な業務の構築を行う。

配備後にすぐに業務を開始できるように、業務に必要なミドルウェアや業務アプリケーションのインストール/セットアップを予め行って おく場合を想定しています。

運用B:配備後に、運用に必要な業務の構築を行う。

配備後に自由にミドルウェアや業務アプリケーションのインストール/セットアップを行う場合を想定しています。

ソフトウェアパラメーター設定機能を利用した、業務で使用する仮想システムを構築するまでの運用について、上記のいずれかを選択 してください。

運用ごとに想定している「クローニング採取前」と「配備後の個別処理実施後」のインストール/セットアップ状態を表1に示します。

表1:運用ごとの各コンポーネントのインストール/セットアップ状態

演用	コンポーネント	クローニングイメージ採取前		配備後の個別処理実施後	
運用		インストール	セットアップ	インストール	セットアップ
	ITCMエージェント	済	済	済	済
運用A	ミドルウェア	済	済	済	済
	業務アプリケーション	済	済	済	済
	ITCMエージェント	済	未	済	済
運用B	ミドルウェア	未	未	済	済
	業務アプリケーション	未	未	済	済

運用ごとのインストール/セットアップ状態の遷移を図に示します。



配備時に変更させるパラメーターを決定する

配備時に変更させるITCMエージェントのパラメーターを決定します。

ITCMエージェントでは、配備時に変更できるパラメーターとして以下の3種類を用意しています。

- 接続先のプロセス管理サーバのホスト名
- ・ 接続先のプロセス管理サーバのポート番号
- ・ ITCMエージェントの収集スケジュール(エージェント種別ごとに時・分を個別で指定)

個々のパラメーター詳細については、「第12章ミドルウェアパラメーター設定情報」を参照してください。

運用ごとの配備時に変更可能なパラメーターは表2となります。これを元に、テンプレート選択画面で選択させるパラメーターを決定してください。

運用	配備時に変更可能なパラメーター			
	プロセス管理サーバのホス ト名	プロセス管理サーバのポート 番号	エージェントの収集スケ ジュール	
運用A	пj	пJ	म	
運用B	Π	н	不可	

表2:配備時に変更可能なパラメーター

次に、テンプレート選択画面でパラメーターを選択するときのパラメーター設定例について、運用Aの例を表3に、運用Bの例を表4に示します。

表3: 運用Aのパラメーター選択例

運用	選択肢	テンプレート選択画面での表示名	パラメーター情報ファイルの指定
運用A	選択肢1	収集スケジュール 3:00	itcm_agent_legacy_schedule_hour=3 itcm_agent_legacy_schedule_minute=0
	選択肢2	収集スケジュール 4:00	itcm_agent_legacy_schedule_hour=4 itcm_agent_legacy_schedule_minute=0
	選択肢3	収集スケジュール 5:00	itcm_agent_legacy_schedule_hour=5 itcm_agent_legacy_schedule_minute=0

(*)クローニングイメージにレガシーアプリケーション用としてセットアップ済で、収集スケジュールを変更したい場合 表4:運用Bのパラメーター選択例

運用	選択肢	テンプレート選択画面での表示名	パラメーター情報ファイルの指定	
運用B	選択肢1	プロセス管理サーバA	itcm_manager_hostname=ServerA	
		ポート番号 80(デフォルト)		
	選択肢2	プロセス管理サーバB	itcm_manager_hostname=ServerB itcm_manager_http_portno=8080	
		ポート番号 8080		
	選択肢3	プロセス管理サーバC	itcm_manager_hostname=ServerC	
		ポート番号 80(デフォルト)		

(*)ITCMエージェントごとに接続先プロセス管理サーバとポート番号を変更したい場合

L-Serverに対して運用ごとに必要な作業

L-Serverに対して、運用ごとに必要な作業手順を説明します。

- ・運用A: クローニングイメージ採取前に、L-Server上で必要な業務の構築を行う場合
 - 1. 業務に必要なほかのミドルウェアや業務アプリケーションのインストール・設定を行ってください。
 - 2. 『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「セットアップ」を参照して、業務に必要なエージェント用のセットアップを 行ってください。
 - 3. ITCMエージェントの各種設定を変更する場合は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』を参照して行ってください。
- ・ 運用B: 配備後に、必要な業務の構築を行う場合

クローニングイメージの採取を行う前に必要な作業はありません。



運用Bで配備後に必要な業務の構築を行う場合でも、ITCMエージェントのセットアップを配備時に自動で行うように設定すること もできます。

配備時に自動でセットアップしたいエージェント種別の "エージェントのセットアップ" パラメーターをパラメーター情報ファイルに追加し、テンプレート選択画面において、配備時にセットアップするかどうか選択できるようにしてください。「エージェントのセットアップ」の詳細は、「第12章 ミドルウェアパラメーター設定情報」を参照してください。

クローニングイメージ採取前に必要な作業は変更ありません。

A.14 Systemwalker Operation Manager

Systemwalker Operation Managerをインストールする際には、以下の操作が必要です。

インストール・環境設定の詳細については、『Systemwalker Operation Manager 導入手引書』を参照してください。

A.14.1 インストール

以下の手順を実施してください。

- 1. Systemwalker Operation Managerサーバをインストールします。
- 2. 配備されたシステムでは、Systemwalker Operation Managerを以下のように利用することができます。
 - 《実行サーバの配備》

Systemwalker Operation Managerサーバが導入された仮想システムを配備することで、実行サーバの配備数を増加させて 業務負荷を分散させることができます。

- 《スケジュールサーバの配備》

Systemwalker Operation Managerサーバが導入された仮想システムを配備することで、開発・テスト用のスケジュールサーバを割り当てるなど、スケジュールサーバの構築環境を簡単に提供することができます。

上記のような利用を行うにための必須の事前設定はありません。また、必要に応じてSystemwalker Operation Managerの環境設定を変更することもできます。

🌀 注意

64ビットアーキテクチャーに対応したWindowsにWindows x86版のSystemwalker Operation Managerを導入した場合、ポート番号のパ

ラメーターを指定しないでください。指定した場合、パラメーターの設定が中断され、一部のパラメーターが正常に設定されません。 ポート番号はL-Serverの以下のファイルにあらかじめ追加してください。

<Windowsのシステムディレクトリ>¥system32¥drivers¥etc¥services

A.14.2 インストール後の操作

作成したL-Serverにおいてクローニングイメージの採取を行う前に、以下の手順でコマンドを実行する必要があります。

1. サービス/デーモンの停止

[Windows]

[Linux]

/opt/systemwalker/bin/poperationmgr

2. サービス/デーモンの起動抑止

Systemwalker Centric Managerと共存しないL-Serverで、Systemwalker Operation Managerのサービス/デーモンを起動抑止したい場合だけ実施してください。

【Window版】

<Systemwalker Operation Managerインストールディレクトリ>¥MPWALKER.JM¥mpcmtool¥bin¥swstop

[Linux]

/opt/FJSVftlo/bin/swstop

各コマンドの詳細については、『Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル』を参照してください。



・ Systemwalker Centric Managerと共存しないL-Serverでは、swstopコマンドでSystemwalker Operation Managerのサービス/デーモンを起動抑止する場合、日変わり時刻のパラメーター「omgr.daychangetime」は指定しないでください。指定した場合、パラメーターの設定が中断され、一部のパラメーターが正常に設定されません。

Systemwalker Centric Managerと共存するL-Serverでは、Systemwalker Centric Managerのサービス/デーモンを起動抑止する必要があり、これによりSystemwalker Operation Managerのサービス/デーモンも起動抑止されます。Systemwalker Centric Managerと共存する環境で日変わり時刻のパラメーター「omgr.daychangetime」を指定したい場合は、ServerView Resource Orchestratorにイメージ情報を登録する際に、ソフトウェアを表示する順番がSystemwalker Centric Managerより後になるように登録してください。こうすることで、Systemwalker Centric Managerのパラメーター設定処理によりサービス/デーモンを起動抑止が解除されてから、Systemwalker Operation Managerのパラメーターが正常に設定されます。

イメージ情報を登録の際、ソフトウェアを表示する順番は<order>タグで指定可能です。詳細は、『ServerView Resource Orchestrator V3.0 Cloud Edition リファレンスガイド』の「イメージ情報」の「ファイルの詳細説明」を参照してください。

- Systemwalker Centric Managerと共存するL-Serverでは、Systemwalker Centric Managerのパラメーター設定処理によりサービス/ デーモンを起動抑止が解除されます。そのため、swstopコマンドでSystemwalker Operation Managerのサービス/デーモンを起動 抑止しても、配備完了時には起動抑止が解除されます。
- 配備するシステムをSystemwalker Operation Managerのスケジュールサーバとして利用する場合、通常はシステムの配備後に動作 環境の定義やスケジュールの定義を行ってください。クローニングイメージにあらかじめこれらの定義を行う必要がある場合は、以 下の点を考慮してください。
 - システムの配備時に、自ホスト名とIPアドレスがジョブ定義変数に登録されます。ジョブ定義変数が使用できる定義では、以下のジョブ定義変数を利用して定義することができます。

ジョブ定義変数名	値の説明
OMGR_MY_COMPUTERNAME	コンピュータ名
OMGR_MY_IPADDRESS	IPアドレス

- ジョブ定義変数が使用できない定義については、システムの配備後に、Systemwalker Operation Managerのマニュアルに従って、ホスト名やIPアドレスを変更してください。変更方法の詳細は『Systemwalker Operation Manager 導入手引書』を参照してください。
- ジョブ定義変数「OMGR_MY_COMPUTERNAME」「OMGR_MY_IPADDRESS」は、システムの配備時に自動的に設定されますので、同名のジョブ定義変数は定義しないでください。同名のジョブ定義変数を定義した場合、その値はシステムの配備時に上書きされます。

A.15 Systemwalker Runbook Automation

Systemwalker Runbook Automationをインストールする際には、以下の操作が必要です。

Systemwalker Runbook Automationのインストール・環境設定の詳細については『Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド』を参照してください。

🔓 注意

Systemwalker Runbook Automation V14.0.0を利用しての「L-Server」の作成はできません。Systemwalker Runbook Automation V14.1.0 以降をご利用ください。

以下に示すサーバについて「L-Server」を作成することができます。 Systemwalker Runbook Automationの連携サーバ・中継サーバ Systemwalker Runbook Automationの業務サーバ

A.15.1 インストール

『Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド』の「インストール」を参照して、製品のインストールを行ってください。



L-Serverに、Systemwalker Configuration Managerのエージェントをインストールしている場合は、Systemwalker Runbook Automation のインストールを行う前にアンインストールしてください。Systemwalker Runbook Automationをインストールする場合は、Systemwalker Configuration Managerのエージェントのインストールは不要です。

A.15.2 インストール後の操作

作成した「L-Server」において「クローニングイメージの採取」を行う前に、以下を行う必要があります。

連携サーバ・中継サーバの操作

[Windows]

1. Systemwalker Runbook Automation のエージェントの停止

管理者権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行してください。

%F4AN_INSTALL_PATH%¥F4ANswnc¥bin¥swncctrl stop

2. CMDBのアンセットアップを行います。

管理者権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行してください。

%SWCMDB_INSTALL_PATH%¥FJSVcmdba¥bin¥cmdbunsetupenv.bat -k ALL

[Linux]

1. Systemwalker Runbook Automation のエージェントの停止

システム管理者権限でログインし、以下のコマンドを実行してください。

/opt/FJSVswnc/bin/swncctrl stop

2. CMDBのアンセットアップを行います。

システム管理者権限でログインし、以下のコマンドを実行してください。

/opt/FJSVcmdba/bin/cmdbunsetupenv.sh -k ALL

ゴ 参考

L-Serverの作成を行った後、連携サーバ・中継サーバを継続して運用する場合には、『Systemwalker Runbook Automation 導入 ガイド』の「セットアップ」を参照して、連携サーバ・中継サーバのセットアップを実施してください。

業務サーバの操作

ありません。

A.16 Systemwalker Service Quality Coordinator

Systemwalker Service Quality Coordinator をインストールする際には、以下の操作が必要です。

インストール・環境設定の詳細については、『Systemwalker Service Quality Coordinator 導入手引書』を参照してください。

A.16.1 インストール

Agentの場合

接続先のSystemwalker Service Quality Coordinator ManagerのIPアドレスまたはホスト名を指定します。
A.16.2 インストール後の操作

作成したL-Serverにおいてクローニングイメージの採取を行う場合、Systemwalker Service Quality Coordinatorのインストール直後の状態で行ってください。

🌀 注意

ポリシーセットアップコマンドの実行および常駐プロセスの起動は行わないでください。

A.17 UpdateAdvisor

ありません。

付録B オペレーティングシステム・ミドルウェア個別処理(配備後 編)

配備されたL-Serverのミドルウェアを使用するまえに、操作や設定が必要なものについて説明をします。

B.1 ETERNUS SF AdvancedCopy Manager

配備完了後、配置先のL-ServerにてETERNUS SF AdvancedCopy Managerの以下の設定を変更したい場合は、手順に従い実施して ください。クローニングイメージにて設定済の情報で運用を行う場合は変更の必要はありません。

- ・ 通信デーモン(サービス)のポート番号
- ・ スタートアップアカウント(Windowsだけ変更可能)

配置先のL-ServerがPRIMECLUSTERをサポートしている場合は、『ETERNUS SF AdvancedCopy Manager クラスタ適用ガイド』に従 いクラスタセットアップを行ってください。

運用を開始する場合は、『ETERNUS SF AdvancedCopy Manager 運用手引書』に従って設定を行ってください。

B.1.1 通信デーモン(サービス)のポート番号を変更する場合

以下のファイルに記載されている、AdvancedCopy Managerの通信デーモン(サービス)(stgxfws)のポート番号を変更します。

[Windows]

<Windowsインストールディレクトリ>¥system32¥drivers¥etc¥services

関 ポイント

Windowsファイアーウォールが有効になっている環境で使用する場合は、Windowsファイアーウォール機能を無効にするか、Windows ファイアーウォール機能を以下の手順に従って設定する必要があります。

- 1. [コントロールパネル]から[Windows ファイアウォール]ウィンドウを起動します。
- 2. [例外]タブで[ポートの追加]ボタンをクリックし、[ポートの追加]ダイアログを表示します。
- 3. 通信サービス用に以下の設定を行います。
 - [名前]:任意の名前を設定します。
 - [ポート番号]:通信サービスに割り当てたポート番号を設定します。プロトコルは"TCP"を選択します。
- 4. スコープを変更する場合は、Storage管理サーバおよびほかのStorageサーバとの通信が可能なスコープを設定してください。
- 5. [ポートの追加]ダイアログで[OK]ボタンをクリックします。
- 6. [Windows ファイアウォール]ウィンドウを[OK]ボタンをクリックして終了します。

[Linux]

/etc/services

関 ポイント

配置先のL-Serverにてファイアーウォールが有効になっている場合は、変更したポート番号に対する制限を解除する必要があります。 制限の解除方法については、ご使用のファイアーウォールのマニュアルを参照してください。

AdvancedCopy Managerの通信デーモン(サービス)を再起動します。再起動の方法は以下の手順で行ってください。

[Windows]

- 1. [コントロールパネル]→[管理ツール]→[サービス]をクリックし、サービスウィンドウを表示します。
- 2. サービス"AdvancedCopy Manager COM Service"を選択し、[停止]ボタンをクリックします。
- 3. サービス"AdvancedCopy Manager COM Service"を選択し、[開始]ボタンをクリックします。

[Linux]

1. 以下のコマンドにて通信デーモンを停止

#/opt/swstorage/bin/stopacm

2. 以下のコマンドにて通信デーモンを起動

/opt/swstorage/bin/startacm

B.1.2 スタートアップアカウントを変更する場合

スタートアップアカウントの変更は以下の手順で行ってください。

- 1. [コントロールパネル]→[管理ツール]→[サービス]をクリックし、サービスウィンドウを表示します。
- 2. サービス"AdvancedCopy Manager COM Service"を選択し、[停止]ボタンをクリックします。
- 3. サービス"AdvancedCopy Manager COM Service"のプロパティウィンドウを表示します。
- 4. [ログオン]タグのアカウントにアカウント名、パスワードを変更します。
- 5. プロパティウィンドウで[OK]ボタンをクリックして終了します。
- 6. サービス"AdvancedCopy Manager COM Service"を選択し、[開始]ボタンをクリックします。

関 ポイント

.....

スタートアップアカウント変更の対象サービスは、AdvancedCopy Manager COM Serviceです。

スタートアップアカウントとして指定するユーザーは以下の条件を満たしていることを確認してください。

- Administratorグループに所属していること
- ・ 無期限パスワードが設定されていること

また、アカウント名とパスワードには、以下の条件があります。

・ オペレーティングシステムで指定できるアカウント名、パスワードであること。

B.2 ETERNUS SF Storage Cruiser Manager

B.2.1 管理者用ログインアカウントの作成

配備されたL-Serverでは、ETERNUS SF Storage Cruiser Managerの管理者用ログインアカウントとCLI暗号化用鍵を設定し、L-Server を再起動する必要があります。また、クラスタ環境の場合、クラスタサービスの設定をする必要があります。

[Windows]

以下の手順に従い、管理者用ログインアカウントの設定とL-Serverの再起動を行ってください。

1. Administratorグループのユーザーでログインし、以下のコマンドを実行します。

 $\langle {\tt ETERNUS} \ {\tt SF} \ {\tt Storage} \ {\tt Cruiser} \ {\tt Cruiser} \ {\tt Vacuum} \ {\tt SF} \ {\tt Storage} \ {\tt Cruiser} \ {\tt Vacuum} \ {\tt Vacuum} \ {\tt SF} \ {\tt Storage} \ {\tt Cruiser} \ {\tt Vacuum} \ {\tt$

- 対話形式でパラメーターを設定します。コマンドプロンプトに表示される指示に従い、管理者用ログインアカウントとCLI暗号化用 鍵を設定してください。
- 3. 設定完了後、L-Serverを再起動してください。

[Linux]

• 非クラスタ環境の場合

『ETERNUS SF Storage Cruiser 14.2インストールガイド』の「インストール後のセットアップ」の、以下の操作を実施してください。

- 「管理者用ログインアカウント作成」
- 「システムの再起動」
- クラスタ環境の場合

『ETERNUS SF Storage Cruiser 14.2インストールガイド』の「マネージャ業務セットアップ作業詳細」の手順を実施してください。ただし、手順4、6は実施する必要はありません。

コマンドの詳細については、『ETERNUS SF Storage Cruiser 14.2 ユーザーズガイド』の「管理者用ログインアカウント作成コマンド (rexcert)」を参照してください。

B.3 Interstage Application Server/Web Server

関 ポイント

配備時の設定変更について

配備したL-Platformにおいて実行されるissethostinfoコマンドでは、J2EE(Servletサービス/EJBサービス)、Java EE、およびCORBAサービスを使用する場合に、以下の情報を配備先のL-Serverのホスト情報に変更します。

.

- ・ Interstage動作環境定義ファイルのCorba Host Name
- オブジェクトリファレンス生成時に埋め込むホスト名
- ・ Java EE(Interstage Java EE DASサービス、およびInterstage Java EE Node Agentサービス)に設定されているホスト名

B.3.1 Java EEを使用する場合

📶 参考

Java EEは、Interstage Application Server V9.2.0からの提供機能です。

ハートビートの設定について

IJServerクラスタが作成された環境が配備された場合、ハートビートの設定は無効になっています。

ハートビートを使用する場合には有効にし、ハートビートアドレスを設定してください。

ハートビート設定の詳細については、『Interstage Application Server Java EE運用ガイド』の「グループ管理サービス」を参照してください。

B.3.2 Interstage HTTP Serverを使用する場合

すべてのWebサーバの環境定義ファイル(httpd.conf)のディレクティブを、配備先のサーバやシステム構成・運用に合わせて、適切な 値を設定してください。

ディレクティブの詳細については、『Interstage HTTP Server運用ガイド』の「ディレクティブ一覧」を参照してください。

B.4 Interstage Charset Manager Standard Edition Agent

Linux環境の場合、配付デーモンの再起動をする必要があります。配付デーモンの再起動に関しては『Interstage Charset Manager Standard Edition V9 使用手引書 日本語資源適用編』を参照してください。



- パラメーター選択が行えない環境において、Interstage Charset Manager Standard Edition Agentの資源配付機能を使用する場合で、 かつ、パラメーター設定で配布環境設定のIPアドレスを設定しない場合は、『Interstage Charset Manager Standard Edition V9 使用 手引書日本語資源適用編』を参照し、Charset Managerの資源配付環境設定を行ってください。
- Windows(64bit)環境にInterstage Charset Manager Standard Edition Agentの32bit版製品をインストールした場合に、配備時にエ ラーが発生する場合があります。Windows(64bit)環境においては64ビット版Interstage Charset Manager Standard Edition Agentを 使用するようにしてください。
- Windows(64bit)環境において、Interstage Charset Manager Standard Edition Agentの資源配付機能を使用する際は、配備後に 『Interstage Charset Manager Standard Edition V9 使用手引書日本語資源適用編』を参照し、Charset Managerの資源配付環境設 定を行ってください。

B.5 Interstage List Creator

ありません。

B.6 NetCOBOL 開発・運用パッケージ

ありません。

B.7 Symantec Endpoint Protection

ありません。

B.8 Symfoware Server(サーバ機能)

L-Serverの配備終了後にSymfoware Serverを利用する場合、以下の操作が必要です。

B.8.1 複数のRDBシステムを利用する場合【Linux】

複数のRDBシステムを利用する場合、配備時に作成された以下のSymfoware Serverの定義ファイルを複写して作成してください。

定義ファイル	複写元(配備後に作成されるファイル)	複写して利用する場合の配置先
RDB構成パラメタファイル	RDBシステム名を付けない運用:	/opt/FJSVrdb2b/etc/[RDBシステム名].cfg
	/opt/FJSVrdb2b/etc/rdbsysconfig	
	RDBシステム名を付ける運用:	
	/opt/FJSVrdb2b/etc/RDBシステム名.cfg	
システム用の動作環境ファイ ル	パラメーター情報ファイルの RDBconfigparam.RDBSQLENVキーの指定値 デフォルト値の場合:	任意のファイル ※複写したRDB構成パラメタファイルの RDBSQLENVパラメーターを上記[任意のファイ ルルにあわせて修正」てください)
	/opt/FJSVrdb2b/etc/fssqlenv	
デフォルトの共用バッファ定 義ファイル	パラメーター情報ファイルの RDBconfigparam.RDBSYSBUFキーの指定値 デフォルト値の場合: /opt/FJSVrdb2b/etc/rdbbuf	[任意のパス]/rdbbuf ※複写したRDB構成パラメタファイルの RDBSYSBUFパラメーターを上記[任意のパス] にあわせて修正してください。

B.8.2 データベースのセットアップ

[Windows]

1. WebAdminの起動

WebAdminを起動します。L-Server作成時に「WebAdminの自動起動」を指定している場合は、自動起動するので必要ありません。

a. [サービス]ウィンドウを表示します。

[スタート]メニューの[管理ツール]で、[サービス]をクリックします。

b. サービスを起動します。

サービス名"Symfoware WAD ap"を選択し、[サービスの開始]ボタンをクリックします。

サービス名"Symfoware WAD web"を選択し、[サービスの開始]ボタンをクリックします。

2. WebAdminにログインします。

『Symfoware Server セットアップガイド』の「WebAdminを用いたSymfoware/RDBのセットアップ」の「ログイン」に従いブラウザで WebAdminにログインします。

3. WebAdminによるSymfoware/RDBのセットアップ

『Symfoware Server セットアップガイド』の「WebAdminを用いたSymfoware/RDBのセットアップ」の「RDBシステムの作成」に従い RDBシステムを作成します。

[Linux]

配備完了後、『Symfoware Server セットアップガイド』を参照してSymfoware Serverのセットアップを実施してください。Symfoware Server のセットアップにおいて作成する主な資源を以下に示します。

資源名	必須/選択	『Symfoware Server セットアップガイド』中の参照 箇所
ログ管理ファイル	必須	ログ管理ファイルの作成
テンポラリログファイル	必須	テンポラリログファイルの作成
RDBディクショナリ	必須	RDBディクショナリの作成
アーカイブログファイル	アーカイブログ運用を行う場合	アーカイブログファイルの作成
パフォーマンスモニタ	パフォーマンスモニタを使用する場合	パフォーマンスモニタのセットアップ



LinuxにおけるSymfoware Serverのセットアップは、WebAdminを使用せずコマンドによるセットアップを実施してください。WebAdmin を使用した場合、配備時に作成された定義に上書きされます。

B.8.3 配備時のエラーメッセージ【Linux】

「L-Server」配備時にSystemwalker Software Configuration Managerエージェント側のログに出力されるメッセージを説明します。

SYMFO:ERROR0001: setup failed.key=s* value=t*

[可変情報]

s*:キー名

t*:設定値

[意味]

パラメーター情報ファイルに指定した値に異常を検出しました。

[処理]

処理を中止します

[ユーザーの対処]

以下のキー名に応じた対処を行ってください。

キー名	対処
RDBconfigparam.RDBSYSBUF	デフォルトの共用バッファ定義ファイルが出力できなかった可能性があります。 パラメーター情報ファイルのRDBconfigparam.RDBSYSBUFキーに指定した ディレクトリを確認してください。
RDBconfigparam.RDBSQLENV	システム用の動作環境ファイルが出力できなかった可能性があります。パラ メーター情報ファイルのRDBconfigparam.RDBSQLENVキーに指定したファ イル名を確認してください。

SYMFO:ERROR0002: Symfoware Server server is not installed.

[意味]

Symfoware Serverが正しくインストールされていません。

[処理]

処理を中止します

[ユーザーの対処]

Symfoware Serverが正しくインストールされていることを確認してください。

B.9 Symfoware Server(クライアント機能)

L-Serverの配備終了後にSymfoware Serverを利用する場合、以下の操作が必要です。

B.9.1 埋込みSQL連携を利用する場合

配備完了後、埋込みSQL連携(Esql機能)を利用するために必要なセットアップを実施してください。

詳細については、『Symfoware Serverアプリケーション開発ガイド(埋込みSQL編)』を参照してください。

B.9.2 Java連携を利用する場合

配備完了後、Java連携(JDBC機能)を利用するために必要なセットアップを実施してください。

詳細については、『Symfoware Serverアプリケーション開発ガイド(JDBCドライバ編)』を参照してください。

B.9.3 ODBC連携を利用する場合【Windows】

配備完了後、ODBC機能を利用するために必要なセットアップを実施してください。

詳細については、『Symfoware Serverアプリケーション開発ガイド(ODBCドライバ編)』を参照してください。

B.9.4 Symfoware .NET Data Provider連携を利用する場合【Windows】

配備完了後、Symfoware .NET Data Provider連携機能を利用するために必要なセットアップを実施してください。

詳細については、『Symfoware Serverアプリケーション開発ガイド(.NET Data Provider編)』を参照してください。

B.10 Systemwalker Centric Manager (業務サーバ・部門管理サーバ)

メッセージ送信先システムのパラメーター「dstsys」を設定した場合、配備システムを管理している運用管理サーバにおいて、以下の操作を実行します。

運用管理サーバが、通常モードのポリシーで運用されている場合

『Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編』の「ポリシーグループを作成する」以降の手順に従って、配備システム をポリシーグループに追加し、ポリシーの配付を行ってください。

運用管理サーバが、互換モードのポリシーで運用されている場合

『Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編(互換用)』の手順に従い、ポリシーの作成・配付を行ってください。

B.11 Systemwalker Centric Manager (運用管理サーバ)

配備システムにおいて、以下のコマンド・操作を実行します。

- 1. 運用環境の構築
 - 新規に構築する場合

『Systemwalker Centric Manager 導入手引書』の「運用管理サーバの環境構築」の手順に従い、運用環境を構築してください。

- ほかのコンピュータでバックアップした運用環境をリストアする場合

『Systemwalker Centric Manager 導入手引書』の「バックアップ/リストア」の手順に従い、バックアップした運用環境をリストアしてください。

2. サービス/デーモンの起動の抑止解除

[Windows]

 $<\!\!\text{Systemwalker Centric Manager}{4} \\ \textit{Avaluation} \\ \textit{Systemwalker Centric Manager}{4} \\ \textit{Avaluation} \\ \textit{Avaluation} \\ \textit{Systemwalker Centric Manager}{4} \\ \textit{Avaluation} \\ \textit{Avaluation} \\ \textit{Systemwalker Centric Manager}{4} \\ \textit{Avaluation} \\ \textit{Ava$

[Linux]

/opt/FJSVftlc/bin/swstart

各コマンドの詳細については、『Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル』を参照してください。

B.12 Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 エージェント

配備後に必要な Systemwalker IT Change Manager V14.0.0 エージェント(以下 ITCMエージェント)の個別処理について、本書の「A. 13.2 インストール後の操作」で説明した運用ごとに必要な手順を説明します。

B.12.1 クローニングイメージ採取前に、L-Server上で必要な業務の構築を行っている場合(運用A)

以下の手順で作業してください。

- 1. ITCMエージェントの接続先である Systemwalker IT Change Manager のプロセス管理サーバの起動状態を確認してください。
- 2. 配備したL-Serverにおいて、以下のコマンドを実行します。

[Windows]

<ITCMエージェントインストールディレクトリ>¥CMDB¥FJSVcmdba¥bin¥cmdbrefresh.exe -q

[Linux]

/opt/FJSVcmdba/bin/cmdbrefresh.sh -q

B.12.2 配備後に、必要な業務の構築を行う場合(運用B)

以下の手順で作業してください。

- 1. 業務に必要なほかのミドルウェアや業務アプリケーションのインストール・設定を行います。
- 2. ITCMエージェントの接続先である Systemwalker IT Change Manager のプロセス管理サーバの起動状態を確認してください。
- 3. 『Systemwalker IT Change Manager 導入ガイド』の「セットアップ」を参照して、業務に必要なエージェント用のセットアップを行ってください。
- 4. ITCMエージェントの各種設定を変更する場合は、『Systemwalker IT Change Manager 管理者ガイド』を参照して行ってください。

ゴ 参考

本書の「A.13.2 インストール後の操作」の「L-Serverに対して運用ごとに必要な作業」の"参考を元に、配備時に自動でセットアッ プを行った場合は、上記の手順3. を行う必要はありません。

B.13 Systemwalker Operation Manager

L-Server作成時に、swstopコマンドでSystemwalker Operation Managerのサービス・デーモンを起動抑止していた場合、配備したL-Serverにおいて、以下の手順を実施してください。

起動抑止していない場合、およびSystemwalker Centric Managerと共存する環境でイメージ情報の登録の際にソフトウェアを表示する 順番がSystemwalker Centric Managerより後になるように登録した場合は、必要となる手順はありません。また、Linux版の場合や、サ ブシステムを作成するパラメーター「omgr.sysn.create」を指定していない場合は、2の手順を実施する必要はありません。

注) n: 作成するサブシステム番号

配備したL-Serverにおいて、以下のコマンドを実行します。

[Windows]

```
1. サービス・デーモンの起動の抑止解除
```

2. 新たに作成されたサブシステムの、サービスの起動の抑止解除

[スタート]-[コントロールパネル]の[管理ツール]-[サービス]を開いて、以下のサービスを"自動"に変更のうえ"開始"します。

- Systemwalker MpMjesn
- Systemwalker MpJobschn

注) n: 新たに作成されたサブシステムのサブシステム番号

길 例

サブシステム1が新たに作成された場合

Systemwalker MpMjes1

Systemwalker MpJobsch1

[Linux]

1. サービス・デーモンの起動の抑止解除

/opt/FJSVftlo/bin/swstart

各コマンドの詳細については、『Systemwalker Operation Manager リファレンスマニュアル』を参照してください。

B.14 Systemwalker Runbook Automation

Systemwalker Runbook Automationにおける配備後の操作について説明します。

連携サーバ・中継サーバの操作

『Systemwalker Runbook Automation 導入ガイド』を参照して、連携サーバ・中継サーバのセットアップを実施してください。

業務サーバの操作

特にありません。

B.15 Systemwalker Service Quality Coordinator

配備したL-Serverにおいて、常駐プロセスの起動を行います。

[Windows]

以下のサービスを起動(開始)します。

Systemwalker SQC DCM

[Linux]

以下のスクリプトで起動します。

/etc/rc2.d/S99ssqcdcm start

詳細については、『Systemwalker Service Quality Coordinator リファレンスマニュアル』を参照してください。

B.15.1 Agentの接続先ManagerのIPアドレス・ホスト名の変更

配備後に、Agentが認識するManagerのIPアドレス・ホスト名を変更する場合は、『Systemwalker Service Quality Coordinator 導入手引書』の「Agent/Proxy Managerが認識するManagerのIPアドレス/ホスト名の変更」を参照して設定変更を行ってください。

B.16 UpdateAdvisor

ありません。